	授業科	相	対象学科·専攻		ナンバリング	年 次	期別		
	比較文化 n to Con	ム概説 nparative Culture	全学科	斗	21BAHU100	4 1年次	後期		
講義·演習 技·実習·3		単位数	卒 業 認 定	担当教員			実務家教員		
講義		2	選択		尊田 望				
ディプロマ・			取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社しい人間性を有す。						
		(2) 専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる。					0		
概要		: : (自文化・日本文化 、材を育成する。	を含む)に関心を持	ち、知識と理解を	深め、身の回りの環	境における異文化相互理	理解に貢献		
	(1)	(1) 異文化に関心を持ち、探究する姿勢を持つ。							
刘华口捶	(2)	異文化を知り、理解す	「る(自身の文化を含	む)。					
到達目標	(3)	異文化について、いくこ	つかの視点から説明で	きる(自身の文化	七を含む)。				
	(4)	自分の身の回りの環境	竟において、異文化理	解に貢献できる。					
受業内容と		短期大学博多キャン/ イ、ビデオカメラ、パソコン				大学と博多キャンパスにプ 開始した。	ト型ディス		
進め方	П	授業内容	2	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間		

<u> </u>	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	導入:文化的アイデンティティ	第 2 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 1 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
2	人種と民族 1	第3週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 2 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
3	人種と民族 2	第4週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 3 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
4	宗教と精神性1	第5週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 4 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
5	宗教と精神性 2	第6週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 5 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
6	言語 1 (現存語)	第7週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 6 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
7	言語 2 (人工言語)	中間プロジェクトの準備 (授業で説明)。	1 時間	左記の通り	
8	中間プロジェクト・復習と補充	第9週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 8 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
9	社会1 (政治・経済・労働)	第 10 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 9 週で与えられたテーマについてレポートを書く。	1 時間
10	社会 2 (結婚と家庭)	第 11 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 10 週で与えられた テーマについてレポート を書く。	1 時間

	11	心理 1 (コミュニケーション)	第 12 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 11 週で与えられた テーマについてレポート を書く。	1 時間		
	12	心理 2 (ジェンダー)	第 13 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 12 週で与えられた テーマについてレポート を書く。	1 時間		
	13	グローバリゼーション 1 (ポップカルチャー)	第 14 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 13 週で与えられた テーマについてレポート を書く。	1 時間		
	14	グローバリゼーション 2 (教育)	第 15 週の資料を読む。 ワークシートに記入。	1 時間	第 14 週で与えられた テーマについてレポート を書く。	1 時間		
	15	多文化共生社会の実現	期末試験の準備		先の通り			
成績	评 価	授業参加(ペアワーク、グループ・ワーク含む)(25%) 課題・レポート(25%)、プレゼンテーション(25%)、期末試験(25%)						
課題 (試験 等) に対 フィードバック	する	授業参加と課題は毎週、プレゼンテーションと期末試験は実施後、採点・コメントでフィードバックする。						
テキスト 参 考 2		資料は配布します。 【参考文献】Comparative Culture and Society (Daniel Velasco, 三恵社);「よくわかる異文化コミュニケーション 池田理知子 ミネルヴァ書房」						
メッセーシ	ジな ど	世界には様々な文化と価値観が存在します。それらといかに共存し、提携していけるかを共に探求しましょう。 授業では、クラスメートとの協同学習がありますので、積極的に取り組んでください。(注:内容・スケジュールは履修者のニーズに応じて、若干変更する場合があります)						

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 異文化に関心を持ち、 探究する姿勢を持つ。	大いに関心と探究心がある。	かなりの関心と探究心がある。	ある程度関 心と探究心 がある。	関心と探究 心がほとんど ない。	授業参加(ペアワーク・グループワーク) (関心・意欲・態度)	25%
(2) 異文化を知り、理解する (自身の文化を含む)。	異文化について様々な局面の知識があり、その背景を非常によく理解できている。	異文化についてかなり知識があり、その背景を理解できている。	異文化についてある程 度知識があり、その背景 を理解できている。	様々な異文 化にがほとん どなく、を理解 できていな い。	課題・レポート (知識・理解)	25%
(3) 異文化について、いくつか の視点から説明できる(自 身の文化を含む)。	様々な局面 において、ほ ぼ完璧に説 明できる。	大きな間違 いがなく、 様々な局面 について説 明できる。	間違いはい くつかある が、ある程 度説明でき る。	ほとんど説明 で き て い な い。	プレゼンテーション 期末試験 (技能・表現力)	25%
(4) 自分の身の回りの環境 において、異文化理解に貢 献できる	非常によく 貢 献 で き る。	かなり貢献 できる。	ある程度貢 献できる。	ほとんど貢献 できない。	プレゼンテーション 期末試験 (技能・表現力)	25%

授業科		対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期別
日本国憲法 The Constitution of Japan		全学科		全学科 21BASO1001 1年次		前期
講義・演習・実 技・実習・実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員			実務家 教員
講義	2	選択	福田 達也			
ディプロマ・	, ,	実に取り組み、豊かなえ ふさわしい人間性を有る		持ち、誠実にコミュニケーションをと	る ことができる	0
ポリシーとの関係	(2) 専門的職業 士の学位を招	よ人の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学 受与する。				

私たちが暮らしている日本の国の憲法はどのような考え方・理念をもとに制定されているのか、人権尊重や民主主義の歴史的背景について理解しながら深めていきたいと思います。「日本国憲法」と聞くと、難しいという印象を持つ人も多いかもしれませんが、質問にも随時受け付け、映像なども用いて、憲法に関わる様々な社会の問題を身近な事柄として考えてもらえる授業を目指します。

到達目標

(1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方や理念について理解を深めたうえで、説明できる。

(2) 憲法制定の背景、近代化の流れを理解しながら、近現代史をあらためて多角的に捉え直し、現在の社会の出来事につい

ても興味、関心を持ち、説明できる。

(3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明ができる。

授業内容 と進め方

0	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	日本国憲法の構成と特徴	日本国憲法の特徴	0.75 時間	日本奥憲法の構成	0.75 時間
2	大日本帝国憲法と戦前の日本	戦前の憲法	0.75 時間	大日本帝国憲法	0.75 時間
3	日本国憲法の制定	GHQ について	0.75 時間	憲法の制定	0.75 時間
4	前文と三大原理	前文について	0.75 時間	三大原理ついて	0.75 時間
5	国民主権と民主主義	民主主義とは	0.75 時間	国民主権	0.75 時間
6	欧米近代化の歴史と人権思想	人権とは	0.75 時間	近代化と人権	0.75 時間
7	基本的人権① - 個人の尊 重・平等権 -	基本的人権	0.75 時間	法の下の平等	0.75 時間
8	基本的人権②-自由権-	自由権とは	0.75 時間	自由権の種類	0.75 時間
9	基本的人権③-生存権-	社会権とは	0.75 時間	生存権とその施策	0.75 時間
10	基本的人権④-参政権・新 しい人権-	選挙権とは	0.75 時間	参政権	0.75 時間

	11	平和主義 - 第 9 条解釈·平 和的生存権 -	平和主義とは	0.75 時間	9条の解釈	0.75 時間			
	12	統治機構-三権分立-	三権分立とは	0.75 時間	統治機構	0.75 時間			
	13	日本の裁判制度と法律家	裁判制度	0.75 時間	民事刑事裁判	0.75 時間			
1	14	裁判員制度	裁判員制度の概要	0.75 時間	裁判員制度の内容	0.75 時間			
	15	まとめ	憲法とは	0.75 時間	まとめ	0.75 時間			
成績	平 価	定期試験(50%)、課題・レポート(50%)							
課題 (試験 等) に対する バックの	5フィード	定期試験および課題(レポート)	については、模範解答を提	示する。					
テキストおよび									
メッセーシ	ジな ど	難しい言葉や歴史も一つ一つっきます。 がんばりましょう! 幼稚園教諭二種、小学校教訓		べと、今まで分から	らなかった世界が身近にな	り、広がってい			

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 日本国憲法の基本原理である基本的人権の尊重、国民主権、平和主義等の考え方	ほぼ完璧に 説明でき る。	大きな間違いがなく、基本を説明で	間違いはいくつかあるが、最低限	説明できていな い。	定期試験 (知識·理解)	25%
や理念について理解を深めたうえで、説明できる。		් වි	の基本を説明できる。		課題・レポート (知識・理解)	25%
(2) 憲法制定の背景、近代化の 流れを理解しながら、近現代 史をあらためて多角的に捉え 直し、現在の社会の出来事に	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違いがなく、基本を説明できる。	間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説	説明できていない。	定期試験 (知識·理解)	10%
回い、現在の社会の山木争に ついても興味、関心を持ち、説 明できる。		6 0°	明できる。		課題・レポート (知識・理解)	10%
(3) 最高法規である憲法に規定されている内容を理解し、論理的かつ説得力ある説明が	ほぼ完璧に 説明でき る。	大きな間 違いがな く、基本を	間違いは いくつかあ るが、最低	説明できていな い。	定期試験 (知識·理解)	15%
できる。		説明できる。	限の基本 を説明でき る。		課題・レポート (知識・理解)	15%

授業科目		対象学科・		ナンバリング	年次	期別	
現代社会問題 Issuesin Modern Society		全学科		21BASO1002	1年次	後期	
講義·演習· 実習·実		単位数	卒業認定	担当教員			実務 家教 員
講義		2	選択	今川晋平			
ディプロマ	₹•	` '	ミに取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人 い人間性を有す。				
ポリシーとの関係	関係	` '	2)専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。				
概要	子どもはみな、それぞれの「時代性」を背負って生きている。現代の子どもたちは、どのような問題を抱えているのでしょうか?子と						

(1)時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。

到達目標

(2)子どもに関わる問題について具体的に述べることができる

(3)マスコミ (新聞、テレビ等) のニュース報道に興味が湧き自分の意見を持って協議する

授業内容 ۲ 進め方

0	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
2	終戦前後の子ども文化	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
3	戦後の社会的養護	配布資料を読んでおく	2 時間	課題を探す	2 時間
4	教育制度·集団就職	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
5	高度経済成長期の子どもたち テレビの世界	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
6	加熱化する進学塾	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
7	いじめ	配布資料を読んでおく	2 時間	課題をまとめる	2 時間
8	平成時代の子どもたち ファミコン・シンドローム	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
9	少年A	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
10	学校に行けない子ども、行か ない子ども	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間
11	特別な支援の必要な子どもたち	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間

	12	「モンスター・ペアレント」の出現	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間	
	13	女性に社会進出と保育ニーズ	配布資料を読んでおく	2 時間	発表準備	2 時間	
	14	ポスター発表	発表準備	2 時間	振り返りシートの記入	2 時間	
	15	スマホ世代の子どもたち	配布資料を読んでおく	2 時間	課題レポート	2 時間	
		※授業内容を一部変更する 場合があります。					
成績	評価	定期試験(40%)、課題・レオ (15%)	ペート(15%)、授業への	取り組み(30%)	、発表・プレゼンテーション	,	
課題(試験・レポート 等)に対する 試験やレポートは、ルーブリック評価での結果を渡す。 フィードバックの方法							
テキスト 参 考		授業時にプリント配布参考文献:深谷和子編 児童心理「子どもの問題70年」金子書房					

メッセージなど

社会人に求められる教養、技能、品格を授業の中で身につける人生で最後の時間です。自覚して頑張りましょう。

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)時代背景に合わせた子どもの問題の変化について説明できる。	子どもの問題の変化を的確に説明できる。	子どもの問題の変化について大体のことを説明できる。	時代背景 に合わせた 子どもの問 題の変化を 間違いはあ るが説明で きる。	時代背景に合わせた子どもの問題の変を説明できていない。	定期試験(知識・思考力・表現力)	40%
(2)子どもに関わる問題について具 体的に述べることができる	子どもに関わる問題について的確に認識し、ほぼ完璧に自	子どもに関わる問題について大体のことを認識し、自分の	子どもに関わる問題について認識の間違いはあるが、最	子どもに関わる問題について認識できておらず、自分の考えを述べていない。	課題・レポート (知識・思考力・判断力・ 表現力)	15%
	分の考えを述べている。	考えを述べ ている。	低限の自 分の考えを 述べてい る。		発表・プレゼンテーション (知識・思考力・判断力・ 表現力)	15%
(3)マスコミ(新聞、テレビ等)の ニュース報道に興味が湧き自 分の意見を持って協議する	的確な問題 意識を持っ て協議して いる。	問題意識を 持ち、協議 している。	間違いはい くつかある が、協議に 参加してい る。	身近な問題に触 れようとせず、協 議していない。	授業への取り組み (関心・意欲・思考力・表 現力)	30%

授業科目	I	対象学科·専攻		ナンバリング	年次	期別
行動科学 Behavioral Science		全学科		21BASO1004		前期
講義·演習·実 技·実習·実験	単位数	卒業認定	担当教員			実務家 教員
講義	2	選択	田中光			
ディプロマ・	(1)何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとることができる社会人としてふさわしい人間性を有す。					0
ポリシーとの関係		2)専門的職業人の資質と能力を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。			省に短期大学士	

心理学がどのような学問であるかを紹介し、認知心理学、学習心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といった各領域の基礎的な内容を概説する。授業は、スライド資料や動画などを通して解説する。また、各授業中に講義内容について考えたことについて記入する授業課題を課す。

(1)行動科学・心理学がどのような学問であるかを理解し、基礎的な知識を有している。

到達目標

- (2)心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。
- (3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。

授業内容と 進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション行動科学・ 心理学とは	_		本時の内容をまとめる。	2 時間
2	感覚・知覚	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
3	記憶	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
4	学習	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
5	感情	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
6	動機づけ	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
7	知能	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
8	パーソナリティ	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
9	発達	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
10	発達障害	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
11	ストレス	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
12	社会	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
13	心理療法	キーワードの印象を 書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間
14	心理カウンセリング	キーワードの印象を書く。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間

	15	まとめ	テキストや配布資料 を読む。	2 時間	配布資料を読み、まとめる。	2 時間			
成績評	価	定期試験(55%)、毎回の	受業の感想・振り返り、包	手回の授業課題	(45%)				
課題 (試験 等) に対 フィードバック	に対する 毎回の授業課題への回答は必要に応じてフィードバックを行う。								
テキスト 参 考 ゞ		7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7							
メッセーシ		各授業の授業課題は成績に 連した記述問題を出題するた します。							

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)行動科学・心理学がど のような学問であるかを 理解し、基礎的な知識 を有している。	心理学の各領 域の基礎用語 を十分に説明 することができ る。	心理学の各領域の基礎用語を概ね説明する ことができる。	心理学の各領域の基礎用語について最低限の内容を説明することができる。	心理学の各領域 の基礎用語を説 明することができ ない。	定期試験 (知識•理解)	35%
(2)心理学の知識に基づいて、自分や他者の行動を説明することができる。	毎時の内容と、 自分や他者の 行動との関連の 見出し、説明し た上で自分の 考えを述べるこ とができる。	毎時の内容と、 自分や他者の 行動との関連を 見出し、説明す ることができる。	毎時の内容と、 自分や他者の 行動との関連の 見出しが不十 分である。	毎時の内容を通 して、自分や他者 の行動を説明で きない。	毎回の授業の 感想・振り返り、 毎回の授業課 題 (関心・意欲・ 態度)	45%
(3)心理学の知識を糸口として自己や社会等から課題を見いだし、取り組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、 心理学的視えることができ、表現したうえでも、実際に取る組むことができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができ、表現することができる。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができるが、表現が不十分である。	自己や社会におけるこころの働きについて、心理学的視点に立って考えることができない。	定期試験(思考力・判断力・表現力)	20%

	授業科	目	対象学科·専攻		ナンバリング	年 次	期別
学問と人間の探求 Study on Academics and Human Beings		全学科		21BAGE1001	1年次	前期	
	講義·演習·実技· 実習·実験 単位数 卒 業 認 定 担当教員				実務家 教員		
講義		2	必修	柴田 道信•佐藤 嘉倫			
ディプロマ・ポリシー との関係			に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとる ことがでしてふさわしい人間性を有す。				
		(2) 専門的職業人の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					0
	新入生が	大学生活に円滑に適応	さし、学友とともに有意	(義な学生生)	活を送れることを目的とする。こ	本学の理念と	方針、学生

新入生が大学生活に円滑に適応し、学友とともに有意義な学生生活を送れることを目的とする。本学の理念と方針、学生生活の心得、大学での学びへの理解を深めるとともに、これからの人生を見据えた学生生活のあり方を学生自ら考える時間とする。

(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。

到達目標

- (2) 大学生としての基本的なアカデミック・スキルが身に付いている。
- (3) 異なる考え方や知識を持つ人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。

授業内容と 進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目 の内容を把握する	1 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
2	本学を知る ~建学の精神と3つのポリシー~	学生便覧の該当箇 所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
3	学生生活について ①学生生活の心得	学生便覧の該当箇 所を読む	2 時間	授業内容を振り返り、 復習する	2 時間
4	学生生活について ②安全・安心な生活	防災の種類と方法に ついて調査する	2 時間	授業内容を振り返り、 復習する	2 時間
5	学生生活について ③アルバイトほか	労働基準法について 調査する	2 時間	授業内容を振り返り、 復習する	2 時間
6	大学での学び	大学での学びの意義 を考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
7	グループ討議の方法	ワールドカフェ方式につ いて調査する	2 時間	授業内容を振り返り、 復習する	2 時間
8	グループ討議の実践	指定テーマについて自 分の考えをまとめる	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
9	情報収集と情報整理・活用	情報収集の方法について考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
10	論理的な思考方法	論理的な思考につい て考え、まとめる	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間
11	レポートの書き方	指定テーマでレポート を作成する	2 時間	レポートをまとめる	2 時間
12	過去と現在と未来の私 ①過去の振り返り	これまでの自分の振り 返りを行う	2 時間	授業内容を振り返り、 自己分析を進める	2 時間

	13	過去と現在と未来の私 ②現在の分析	自己紹介書の各項 目に記入する	2 時間	授業内容を振り返り、 自己分析を進める	2 時間		
	14	過去と現在と未来の私 ③未来計画	卒業後の自分につい て考える	2 時間	授業内容を振り返り、 将来設計を進める	2 時間		
	15	まとめ	授業全体を振り返る	2 時間	授業内容を振り返り、 考えをまとめる	2 時間		
成績言	平価	課題・レポート(30%)、授業への取り組み(40%)、グループワーク・グループ討議(30%)						
課題(試験 等)に対 フィードバック	する	授業において提示した課題については、授業内で個人あるいは全体に対してフィードバックする。						
テキストおよび 参 考 文 献		必要に応じてプリント配布						
メッセー	ジなど							

		ルーブリック評	価を用いた成績詞	平価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 大学での学びの意義を理解し、自らの将来と関連付けながら、主体的に学ぶことができる。	大学での学び と自らの将来 を十分に関連 付け、主体的 に学ぶことがで きる。	大学での学び と自らの将来 をある程度関 連付け、主体 的に学ぶこと ができる。	最低限ではあるが、主体的な学びの姿勢が見られる。	主体的な学 びの姿勢が 見られない。	授業への取り組み (関心・意欲・態 度)	40%
(2) 大学生としての基本的な アカデミック・スキルが身に 付いている。	ほぼ完璧にア カデミック・スキ ルが身に付い ている。	大きな間違い もなく、アカデ ミック・スキルが 身に付いてい る。	最低限のアカ デミック・スキル は身に付いて いる。	アカデミック・ス キルが身に付 いていない。	課題・レポート (思考力・判断力・ 表現力)	30%
(3) 異なる考え方や知識を持つ 人々と積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考え方を広げることができる。	積極的にコミュニケーションを図り、自らの知識や考えを大きく発展させることができる。	コミュニケーションを図り、自 らの知識や考 え方をある程 度広げること ができる。	最低限のコミュニケーション は図ることができる。	コミュニケーションを図ること ができない。	グループワーク・グルー プ討議 (態度・思考力・表 現 力・協働性)	30%

授業科目	1	対象学科·専攻		ナンバリング	年 次	期別
国際交流 International Activities		全学科		21BAGE2002 2 年次		通年
講義·演習·実 技·実習·実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員			
演習	2	必修	柴田 道信・呉 靭			
ディプロマ・	` '	成実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとる ことができる社ふさわしい人間性を有す。				
ポリシーとの関係	(2) 専門的職業人の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大学士の学位を授与する。					

文化的背景の異なる人々との交流を通じて、様々な文化・風習・考え方に触れ、異文化への理解を深める。また、実際の体験に基づき異文化理解を深めることを目的として海外研修を実施する。

(1) 外国事情や異文化に興味・関心を持ち、意欲的に学ぶことができる。

到達目標

- (2) 異なる文化を持つ人々とコミュニケーションを図るための態度と能力を身に付けている。
- (3) 複眼的な視点で異文化を捉え、異文化に理解を示すことができる。

授業内容 と 進め方

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	オリエンテーション	シラバスを読み、科目 の内容を把握する	1 時間	国際交流の目的と意義を考えまとめる	1 時間
2	海外研修について	海外研修先について 調べる	1 時間	研修先についてまとめる	1 時間
3	国際交流と異文化理解	自分の人生における 国際交流をまとめる	1 時間	国際交流を通して得た ことをまとめる	1 時間
4	グループワークについて	ワールドカフェ方式につ いて調べる	1 時間	グループ討議の結果を まとめる	1 時間
5	グループワーク (1) 常識と非常識	日常生活における常 識と非常識を考える	1 時間	グループ討議の結果をまとめる	1 時間
6	グループワーク (2)食文化	自国の食文化の特徴 をまとめる	1 時間	グループ討議の結果をまとめる	1 時間
7	グループワーク (3)コミュニケーション	日常使うジェスチャーを 考える	1 時間	グループ討議の結果をまとめる	1 時間
8	グループワーク (4)価値観	自身の恋愛観結婚観 をまとめる	1 時間	グループ討議の結果をまとめる	1 時間
9	グループワーク (5)テーマ討論	指定されたテーマにつ いて自身の考えをまと める	1 時間	グループ討議の結果を まとめる	1 時間
10	まとめ	前期の授業内容を振 り返りまとめる	2 時間		
11	オリエンテーション	外務省の HP で海外 渡航の危険情報を見 ておく	1 時間	配布フリントを復習する	1 時間
12	外国調査 (1)基礎情報	研修先の基礎情報を 調べておく	1 時間	基礎情報をまとめる	1 時間
13	外国調査 (2)文化、習慣、国内事情	研修先の文化・習慣 を調べておく	1 時間	文化・習慣をまとめる	1 時間

	14	海外研修と異文化理解	海外研修を振り返りまとめる	1 時間	海外研修で得たことを まとめる	1 時間		
	15	国際交流のまとめ	全授業内容を振り返りまとめる	1 時間	この授業を通して得たことや考えたことをまとめる	1 時間		
			※上記15コマの授業の他に、海外研修(15コマ)を実施する。海外研修に参加できない学生には、異文化理解講座(担当:呉)の受講とレポート課題を課す。					
成績	評価	課題・レポート(30%)、授業への	か取り組み(70%)					
課題(試験ト等)にな	対する	授業において提示した課題につい	ては、授業内で全体に対し	・てフィードバック	する。			
テキストは参考 3		適宜プリントを配布						
メッセージなど 学生時代に海外を訪れ、異文化を体験するということは、何事にも代え難い経験であり、その後の人生のなります。皆さんが海外研修に参加されることを期待しています。				この大きな糧と				

ルーブリック評価を用いた成績評価 評価 可 不可 到達目標 優 良 評価手段 比率 (1) 外国事情や異文化に興 外国文化へ 外国文化へ 外国文化へ 外国文化へ 授業への取り組み 40% 味・関心を持ち、意欲的に の興味・関 の興味・関心 (関心・意欲・態度) 高い興味・関 興味・関心を 学ぶことができる。 心を示し、意 持ち、学ぶ姿 心は低いが、 が低く、学ぶ 欲的に学ぶ 勢も十分見ら 姿勢が 最低限の学 姿勢が見られ ぶ姿勢は見ら れる。 見られない。 る。 れる。 十分に身に (2) 異なる文化を持つ人々とコ 完璧に身に 最低限である 身に付いてい 授業への取り組み 30% ミュニケーションを図るための 付いている。 付いている。 が身に付いて (態度・表現力・協働 ない。 態度と能力を身に付けてい 性) いる。 る。 (3) 複眼的な視点で異文化を 自分の世界 自分の世界 自身の世界 自身の世界 課題・レポート 30% 捉え、異文化に理解を示す 観およびこれ 観およびこれ 観を中心に 観のみを通し (思考力・判断力・表 ことができる。 と異なる世界 と異なる世界 異文化を見 て異文化を 現力) 観の見方から 観の見方から ているが、異 見ており、異 異文化を観 異文化を観 文化を理解 文化への理 察することが 解・も低い。 察し、異文化 しようとする姿 経験を解釈 できる。 勢は見受けら できる。 れる。

	授業科	■	対象学科・専攻		ナン	バリング	年 次	期別	
	ミとコミュニク e and Cor	ァーション mmunication	<u> </u>	全学科	21B <i>A</i>	AGE1004	1年次	前期	
講義·演習 技·実習·3		単位数	卒 業 認	定	担	!当教員		実務家 教員	
講義		2	選択	選択 小河原 香代子					
ディプロマ・ポリシー		(1) 何事にも誠実に る社会人としてぶ			を持ち、誠実に]ミュニケーション [;]	をとる ことができ	0	
との関係	Ŕ	(2) 専門的職業人 学士の学位を授	の資質と能力 を持ち合わせて、地域とともに成長していくことができる者に短期大						
概要		英語でコミュニケーションを図る際に大切なことは何だろうか?英語と日本語の言語文化の違いから日本人が陥りやすい問題点に焦点を当て、会話を円滑に続けられる能力を身につけるためのストラテジー(方略)について学ぶ。							
	(1) 英語と日本語の言語表現のストラテジーの違いについて説明できる。								
到達目標	(2) 英語コミュニケーション方略について主体的に考え、場面や状況に応じて実践することができる。								
	(3) 言語文化の違いについての気付き、考え方を述べることができる。								
授業内容と 進め方		期大学博多キャンパ デオカメラ、パソコン等						大型ディス	
	0	授業内	容	予習内容	予習時	間 復習	聲内容	復習時間	
	1	イントロダクション、 Unit 1 How Silence		Unit 1: テキスト んで内容を理解 る。わからない自 は調べておく。Ba	解す 単語 2時間	表現を覚が聞ける	Fキストにある 覚える。音声 ところは音声 練習する。	2 時間	

回	授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
1	イントロダクション、Small Talk、 Unit 1 How to Avoid Silence 沈黙を避ける方法	Unit 1: テキストを読んで内容を理解する。わからない単語は調べておく。Basics(基礎編) Step3をする。	2 時間	Unit 1:テキストにある 表現を覚える。 音声 が聞けるところは音声 を聞いて練習する。 Applications (応用 編)をする。	2 時間
2	Unit 2 How to Show Interest in Others' Topics 相手の話題に興味を示す方 法	Unit 2: 同上	2 時間	Unit 2: 同上	2 時間
3	Unit 1, 2 の復習	Unit 1, 2:練習問 題のやっていない箇 所	2 時間	Unit 1, 2: テキストに ある表現を覚える。音 声が聞けるところは音 声を聞いて練習する。	2 時間
4	Unit 3 How to Give and Accept Compliments 賛辞の与え方、受け止め方	Unit 3: 同上	2 時間	Unit 3: 同上	2 時間
5	Unit 4 How to Make Suggestions 勧誘の仕方	Unit 4: 同上	2 時間	Unit 4: 同上	2 時間

	6	Unit 5 How to Ask Favors 依頼の仕方	Unit 5: 同上	2 時間	Unit 5: 同上	2 時間			
	7	Unit 6 How to Decline Suggestions or Favors 勧誘・依頼の断り方	Unit 6: 同上	2 時間	Unit 6: 同上	2 時間			
	8	Unit 7 How to Give Advice 助言の仕方	Unit 7: 同上	2 時間	Unit 7: 同上	2 時間			
	9	Unit 8 How to Voice Complaints 苦情の述べ方	Unit 8: 同上	2 時間	Unit 8: 同上	2 時間			
	10	Unit 9 How to Express Disagreements 反対意見の述べ方	Unit 9: 同上	2 時間	Unit 9: 同上	2 時間			
	11	Unit 10 How to Express Yourself in Other Situations その他の場面での意思表示の 仕方	Unit 10: 同上	2 時間	Unit 10: 同上	2 時間			
	12	Unit 11 How to Give Information 情報の与え方	Unit 11: 同上	2 時間	Unit 11: 同上	2 時間			
	13	Unit 12 How to Ask Questions 質問の仕方	Unit 12: 同上	2 時間	Unit 12: 同上	2 時間			
	14	Unit 13 How to Communicate Complaints to Customers 客への苦情の伝え方	Unit 13: 同上	2 時間	Unit 13: 同上	2 時間			
	15	Unit 14 How to Address Customers' Complaints 客への苦情の対応の仕方	Unit 14: 同上	2 時間	Unit 14: 同上	2 時間			
成績評	価	定期試験(70%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(30%)							
課題 (試験・ 等) に対 フィードバック	する	授業の振り返りシートにコメントを書き、次の授業時に返却する。 *文章削除							
テキストお 参 考 3		How to Avoid Silence — Strategies for Empathic Communication 沈黙なしの英語コミュニケーション — 日常とビジネスでのストラテジー							
メッセージ	など	実際にペアワークやグループワーク び合う、積極的な授業参加を望			ティブラーニング型の授業で	です。互いに学			

ルーノリック評価を用いた成績評価										
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率				
(1) 英語と日本語の言語表現 のストラテジーの違いについ て説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違い なく、基本的 概念を説明 できる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基 本的概念を 説明できる。	説明できてい ない。	定期試験 (知識・理解・思考力・ 判断力・表現力)	30%				
(2) 英語コミュニケーション方略 について主体的に考え、場 面や状況に応じて実践する ことができる。	課題を正しく 認識し、ほぼ 完璧に場面 や状況に応じ た表現を実践 することができ る。	課題に対する認識に誤りや 大きな論理 的問題もな く、況に応じた表現を応じた表現をができる。	課題に対する 認識に間違 いがいくつかあ るが、場面や 状況に応じた 表現を最低 限実践するこ とができる。	課題に対する 認識に間違 いがあり、場 面や状況に 応じた表現が できていない。	定期試験(知識・理解・思考力・判断力・表現力)	40%				
(3) 言語文化の違いについての 気付き、考え方を述べること ができる。	言語文化の 違いについて 理解し、自分 の気付き、考 え方を明確に 述べている。	言語文化の 違いについ て、認識に誤 りや大きな計 理的問題低限 の自分の気 付き、考え方 を述べてい る。	言語文化の 違いについ て、認識に間 違いがいくつか あるが、最低 限の自分の 気付き、考え 方を述べてい る。	言語文化の 違いについ て、認識に間 違いがあり、 自分の考えを 述べていな い。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	30%				

授業科目	■	対象学科・専攻		ナンバリング	年 次	期別		
	英語会話 English Conversation		全学科		1年次	通年		
講義·演習·実 技·実習·実験	単位数	卒 業 認 定	担当教員			実務家 教員		
演習	2	必修						
ディプロマ・	1	何事にも誠実に取り組み、豊かな表現力と知識を持ち、誠実にコミュニケーションをとる ことができる 社会人としてふさわしい人間性を有す。						
ポリシーとの関係	(2) 専門的職業 士の学位を授		合わせて、地域	或とともに成長していくことができる	る者に短期大学			

(概要)様々な状況における実用的な英語会話能力を養成する。正確な発音や文法よりも、コミュニケーション能力の養成を重視する。読む・書〈作業も若干含む。

(目標) 自己紹介、人物や服装の描写ができる、事物の比較ができる、好みについて表現できる、能力について述べられる、自由時間の使い方・好き嫌いについて表現できる、道順を教えたり理解したりできる、過去の出来事について話せる、指示を与えたり、規則について話したり、助言を与えたりできる。

(1) 英会話に役に立つ語彙や文法を学ぶ

到達目標

- (2) 英語を聞く力を養う。
- (3) さまざまなトピックで英会話を練習する

授業内容と 進め方

進め刀						
		授業内容	予習内容	予習時間	復習内容	復習時間
	1	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復 習	2 時間	中高英語内容の復 習	2 時間
	2	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間
	3	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間
	4	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間
	5	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間
	6	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間
	7	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間
	8	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間
	9	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間
	10	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間
	11	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間

	12	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間					
	13	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間					
	14	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間					
	15	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間					
	TEST(復習	望)									
	16	(Assessment & Placement) 英会話レベル判定	中高英語内容の復 習	2 時間	中高英語内容の復 習	2 時間					
	17	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 5 読む	2 時間	Pg.6 読む	2 時間					
	18	Japanese Sports and clubs (スポーツ)	Pg. 7 読む	2 時間	Pg8-9 読む	2 時間					
	19	Japanese Music (音楽)	Pg 11 読む	2 時間	Pg12 読む	2 時間					
	20	Japanese Music (音楽)	Pg. 13 読む	2 時間	Pg. 14-15 読む	2 時間					
	21	Japanese Food (食べ物)	Pg. 17 読む	2 時間	Pg. 18 読む	2 時間					
	22	Japanese Food (食べ物)	Pg. 19 読む	2 時間	Pg 20-21 読む	2 時間					
	23	Japanese Holidays (祝日)	Pg 29 読む	2 時間	Pg. 30 読む	2 時間					
	24	Japanese Holidays (祝日)	Pg 31 読む	2 時間	Pg. 32-33 読む	2 時間					
	25	Japanese Games	Pg. 35 読む	2 時間	Pg. 36 読む	2 時間					
	26	Japanese Games	Pg. 37 読む	2 時間	Pg. 38-39 読む	2 時間					
	27	Famous Cities (観光)	Pg. 41 読む	2 時間	Pg. 42 読む	2 時間					
	28	Famous Places (観光)	Pg. 43 読む	2 時間	Pg. 44-45 読む	2 時間					
	29	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間					
	30	REVIEW (復習)	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間	コミュニケーションサマ リー 学習	2 時間					
	TEST(復	뭘)									
成績評	価	その他(100%)									
課題(試験・ 等)に対 フィードバック	する	マンツーマンインタビュー									
テキストお。参考文		Explain It: Talking about Japar Robert Long. Perceptia Press,	=	9130793							
メッセージ	など	ネイティブ講師による基礎的な日	常会話(コミュニケーション	<i>,</i>)授業							
メッセージ	など	ネイティブ講師による基礎的な日	常会話(コミュニケーション	/)授業							

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率			
(1) 英会話に役に立つ語彙や 文法を学ぶ	ほぼ完璧に学 ぶことができ る。	あまり問題なく できる。	少しは問題があるが、最低限はできる。	語彙や文法を 学ぶことができ ない。	その他	34%			
(2) 英語を聞く力を養う。	ほぼ完璧に学 ぶことができる	あまり問題なく できる。	少しは問題があるが、最低限はできる。	聞く力を養うことができない。	その他	33%			
(3) さまざまなトピックで英会話 を練習する	ほぼ完璧に学ぶことができる	あまり問題なく できる。	少しは問題があるが、最低限はできる。	英会話ができない。	その他	33%			

	授業科目	1	対象学	科·專攻	・専攻 ナンバリング 年次			期另			
	健康科学 alth Scie		全	学科	2	1BAHP10	001	1年次	前期		
講義·演習 技·実習・3		単位数	卒 業 認 定	E		担当教	員		実務3		
講義		1	必修			上地 広	昭				
ディプロマ	₹•		実に取り組み、豊 ふさわしい人間性	かな表現力と知識を	を持ち、誠実	実にコミュニ	ニケーションを	とる ことができる	5 0		
ポリシーとの関係 (2) 専門的職 士の学位:				を持ち合わせて、坎	地域とともに	成長してい	いことができ	る者に短期大学	0		
概要				が生活習慣病に及 作りなども行い理解を		説明し、	健康行動変	容に関する理論	兪・モデルを		
	(1) わた)わが国における健康行動(運動、睡眠、食行動)の実施状況についての説明									
到達目標	(2) 健儿	2) 健康行動(運動、睡眠、食行動)の重要性とそのメカニズムについての説明									
	(3) 健原	東行動変容の理論	論と実際についての	説明							
授業内容と 進め方				E度より開設したこと D機器を準備し、zo					大型ディス		
	0	授業	内容	予習内容	予	習時間	復習	留内容	復習時間		
	1	イントロダクショ (健康に関す 理)		健康に関する身近 情報の収集	な 1	時間	授業内容 整理	ぶっまとめノート	1 時間		
	2	健康行動と疾	病予防①	運動実施状況にてのセルフモニタリン		時間	授業内容	そのまとめノート	1 時間		
	3	健康行動とメ	ンタルヘルスの関	睡眠習慣について セルフモニタリング	の 1	時間	授業内容 整理	Fのまとめノート	1 時間		
	4	若年女性にお 行動と健康	けるダイエット	日常の食事についのセルフモニタリング		時間	授業内容 整理	らいまとめノ ー ト	1 時間		
	5		序の理論と実際 テージ・意志決	行動変容理論に ての事前調べ	DU 1	時間	授業内容 整理	そのまとめノート	1 時間		
	6	健康行動変容 ③ (内発的動機	字の理論と実際 髪づけ)	動機づけについての 前調べ)事 1	時間	授業内容 整理	Fのまとめノート -	1時間		
	7	行動変容の理(ソーシャルマ	論と実際⑤	身近な健康キャン・ ンについての情報4		時間	授業内容整理	ぶっまとめノート	1 時間		
	8	まとめ		試験準備	1	時間	試験の問	題の振り返り	1 時間		
成績	平 価	定期試験(1	00%)								
課題(試験・ 等)に対する バックの2	5フィード	事前学習で行		いては,授業中に実 場合,再度,同様		-		5用する.また,	試験につ		

テキストおよび 参 考 文 献	テキストの購入は必要ない
メッセージなど	生涯を通して健康管理を行うための知識を身につけてもらいたい。

	ループリック評価を用いた成績評価									
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率				
(1) わが国における健康行動 (運動、睡眠、食行動)の 実施状況についての説明	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い なく説明できる。	最低限の基 本を説明でき る。	説明できてい ない。	定期試験 (知識·理解)	30%				
(2) 健康行動(運動、睡眠、 食 行動)の重要性とそのメカニ ズムについての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違い なく説明できる。	最低限の基 本を説明でき る。	説明できてい ない。	定期試験 (知識·理解)	30%				
(3) 健康行動変容の理論と実際についての説明	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違い なく説明できる。	最低限の基 本を説明でき る。	説明できてい ない。	定期試験 (知識·理解)	40%				

	授業科目		対象	学科·専	汝	ナンバリン	グ	年 次	期	別		
-	ータサイエンス入門 全学科 sction to Data Science		21BANA1	001	1年次	後	期					
講義·演習 技·実習·፺		単位数	卒 業 認	定		担当教	員		実家	教		
講義		2	選択			日置 智	冒子					
ディプロマ・ポ!	Jシーと	(1) 何事にも誠実 社会人としてふ	に取り組み、豊 いさわしい人間性		力と知識を持	ち、誠実にコミュニ	<u>-</u> ケーションを	とる <i>こ</i> とができ	きる			
の関係		(2) 専門的職業/		を持ち合	わせて、地域	とともに成長してい	くことができる	る者に短期大	学			
概要	タサイエ エンス・/	データサイエンス・AI(ンス・AI がどのような AIの利活用に当たり Bいた演習を行う。	は領域でどのように	に利活用	されているのか	を現場での事例を	学げて説明	する。また、数	理・データ	サイ		
	(1) 数班	1) 数理・データサイエンス・AI が社会にもたらした変化およびデータ・AI の利活用の最新動向について説明できる。										
	()	会で利活用されてい							- I-I-/ II-/ I			
到達目標	` '	-タ・AI の利活用に Jを挙げて説明できる		ことのような	は価値か生みと	出されているか、また	こ、その際に木	引用されている	る技術につい	ĻΥŢ		
	(4) 数班	里・データサイエンス・	AIの利活用に	当たり留意	ますべき事項	(ELSI、データ倫理	!、情報セキュ	リティ等)を	説明できる	10		
	(5) デー	-タを適切に処理・分	か析し、データが	持つ意味を	を説明できる。							
授業内容と 進め方		期大学博多キャン デオカメラ、パソコン						多キャンパスに	大型ディス	スプ		
	0	授業内	内容	予	習内容	予習時間	復習	内容	復習時	間		
	1	オリエンテーション 一数理・データ・ が社会にもたらし	サイエンス・ AI		くを読み、科目 を把握する(1h		授業で学復習する	んだ内容を	2 時間	j		
	2	社会で利活用法 タとその活用法 域		授業テ	ーマについて訴	2 時間	授業で学 復習する	んだ内容を	2 時間	j		
	3	データ・AI の利 技術	活用のための	授業テ	ーマについて訴	2 時間	授業で学復習する	んだ内容を	2 時間	j		
	4	現場におけるデ用の事例紹介	ータ・AI 利活	授業テ べておく	ーマについて訴	9 2 時間	授業で学復習する	んだ内容を	2 時間	j		
	5	データ・AI 利流 向	舌用の最新動	授業テ べておく	ーマについて訴	2 時間	授業で学 復習する	んだ内容を	2 時間]		

6	情報セキュリティ、データ・ AI 利活用における法と倫理	授業テーマについて調 べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
7	データを読む① ―量的データと質的データ、 データの分布と代表値―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
8	データを読む② ―データのばらつき―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
9	データを読む③ 一誤差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱い—	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
10	データを読む④ ―データの相関―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
11	データを読む⑤ ―クロス集計―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
12	データを読む⑥ ―母集団と標本―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
13	データを説明する ―データのグラフ・チャート化 ―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
14	データを扱う① ―データ解析ツールの使用方 法―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
15	データを扱う② ―データの集計・並べ替え・ラ ンキング―	授業テーマについて調べておく	2 時間	授業で学んだ内容を 復習する	2 時間			
価	定期試験(30%)、課題・レバ	ポート(50%)、授業へのほ	取り組み(20%)				
ポート ィード 去	定期試験とレポートはルーブリック評価に基づき結果を示す。							
び 献	テキスト: なし							
ع								
	7 8 9 10 11 12 13 14 15 価 トド	6 AI 利活用における法と倫理 7 データを読む① 一量的データと質的データ、データの分布と代表値― 8 データを読む② 一データのはらつきー 9 データを読む③ 一調差、打ち切り、脱落を含むデータの取り扱いー 10 データを読む④ 一データの相関ー 11 データを読む⑥ 一母集団と標本ー 13 データを説明する 一データを切りラフ・チャート化ー 14 データを扱う① 一データ解析ツールの使用方法ー 15 データを扱う② 一データのの集計・並べ替え・ランキングー 症期試験(30%)、課題・レブ たまい デキスト: なし	 6 AI 利活用における法と倫理 べておく 7 データを読む①	6 AI 利活用における法と倫理 べておく 2 時間 7 データを読む① 授業テーマについて調へておく 2 時間 8 データを読む② 授業テーマについて調へておく 2 時間 9 データを読む③ 授業テーマについて調へておく 2 時間 10 データを読む④ 投業テーマについて調へておく 2 時間 11 データを読む⑤ 投業テーマについて調へておく 2 時間 12 データを読む⑥ 投業テーマについて調へておく 2 時間 12 データを読む⑥ 投業テーマについて調へておく 2 時間 13 データを説明する ーデータのガラフ・チャート化 ー 投業テーマについて調へておく 2 時間 14 データを扱う② 投業テーマについて調べておく 2 時間 15 データを扱う② 投業テーマについて調べておく 2 時間 15 データの集計・並べ替え・ランキングー 投業テーマについて調べておく 2 時間 15 データの集計・並べ替え・ランキングー 投業テーマについて調べておく 2 時間 ボート (一ト 定期試験とレポートはルーブリック評価に基づき結果を示す。 2 時間 ボート (一ト 定期試験とレポートはルーブリック評価に基づき結果を示す。 デキスト: なし	□ AI 利活用における法と倫理			

到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) 数理・データサイエンス・ AI が社会にもたらした変化お よびデータ・AI の利活用の最 新動向について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違い がなく、説明 できる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の説 明はできる。	説明できてい ない。	課題・レポート (知識・理解・思考 力・判断力)	20%
(2) 社会で利活用されているデータやその活用法およびデータ・AI の活用領域について説明することができる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違い がなく、説明 できる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の説 明はできる。	説明できてい ない。	課題・レポート	10%
(3) データ・AI の利活用により現場においてどのような価値が生み出されているか、また、その際に利用されている技術について事例を挙げて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の説 明はできる。	説明できてい ない。	課題・レポート	10%
(4) 数理・データサイエンス・ AI の利活用に当たり留意す べき事項(ELSI、データ倫 理、情報セキュリティ等)を 説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違いがなく、説明できる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の説 明はできる。	説明できてい ない。	課題・レポート	10%
(5) データを適切に処理・分析 し、データが持つ意味を説明 できる。	ほぼ完璧に、 データ処理・ 分析ができ、 データが持つ	大きな間違いがなく、データ処理・分析ができ、データが	間違いはいく つかあるが、 最低限のデー タ処理・分析	データの処 理・分析がで きない。	授業への取り組み	20%
	意味を説明できる。	持つ意味を説明できる。	ができ、データが持つ意味を説明できる。		定期試験	30%

	授業科	<u> </u>		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別		
	スポーツ port Educ				教育学科 (育学専攻	21BAHP1002	1年次	後期		
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員		実務家 教員		
実技		1	业	必修		子安 崇夫				
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	をと (2) 専門的	ることができ	る社会/ 質と能力	、としてふ 」を持ち合ね	さわしい人間性 っせて、地域と	持ち、誠実にコミュニク 生を有す。 : ともに成長していくこ		0		
概要	スポーツ そのよう び、ショ	状況は様々に な状況をふす	重を通じてスポーツに参加することが国民の教養の一つになっている。しかし、今日のは様々に多様化し、国民のスポーツニーズも多様化している。 兄をふまえて、小学校教育でも低学年でよく行うなわを使ったあそびからリズム縄跳 ニスの2つ種目に取り組み、生涯を通してスポーツを楽しむための基礎的な知識・技旨す。							
到達目標	(2) 生涯)自らの技量に応じて積極的にスポーツを楽しむことができる。)生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。)スポーツや野外活動を楽しむための基礎的な知識や技能を修得する。								
	口		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	(復習内	育学習 容・時間)		
	1	オリエンテ なわを使っ				なわあそびについ べる。 2 時間				
	2	リズム縄跳	び 基本	の跳び方	(練習)	リズム縄跳びの基本の 飛び方の確認 2時間	リズム縄跳びの基本の 飛び方の復習 2 時間			
	3	リズム縄跳	び 基本	の跳び方	(発表)	リズム縄跳びの基本の 飛び方の確認 2 時間	学習内容の 2 時間	復習		
	4	リズム縄跳	び(個人	.) の練習と	: 発表	リズム縄跳び(個人)の 立案 2時間	2 時間			
	5	リズム縄跳	び(グル	ープ)の立案と練習		リズム縄跳び (グルー学習内容プ) の動きの確認2 時間				
	6	リズム縄跳	び(グル	ープ) の終	東習	リズム縄跳び (グルー プ) の動きの確認と練 習 2 時間	2 時間			
授業内容 と	7	リズム縄跳	び(グル	ープ) の乳	卷表	リズム縄跳び (グループ) の動きの確認と練 習 2 時間	確認と練 まとめる			
進め方	8	ショートテ	ニスにつ	いて		ショートテニスについ て調べる 2 時間	ショートテ ての復習 2 時間	ニスについ		
	9	ショートテ	ニスのラ	ケット操作	Ē	グリップの持ち方につ いて調べる 2 時間	学習内容の 2 時間	復習		
	1 0	1対1のラ	у —			1対1のラリー中の 動き方の確認。 2時間	1対1の5 術面の復 ² 2時間	ラリーの戦 習		
	1 1	2対2のラ	у —			2 対 2 のラリー中の 動き方の確認。 2 時間		ラリーの戦 習		
	1 2	ショートテ	ニスのゲ	ームと審判	IJ	審判の仕方について 調べる。 2時間	****			
	1 3	ショートテ	ニスのシ	ングルスの)ゲーム	シングルスの戦術の 確認 2 時間				
	1 4	ショートテ	ニスのダ	゙ブルスのク	デーム	ダブルスの戦術の確 認。 2 時間		の戦術面の		

	1 5	スポーツ教育のまとめとレポート作成	ゲームの戦術の確 認。 2 時間	ゲームの統括とレポ ートの作成。 2 時間			
成績評	一価	課題・レポート (20%) 授業への取り組み (40%) グループワーク、発表 (40%)					
課題 (試験・1 等) に対す フィードバック	ナる	基本的には実技であるため、活動中に振り返りの時間を設け、フィードバックする。					
テキストお 参 考 文		適時、授業時にプリントを配布する。					
メッセーな	ー ジ ど	スポーツを自ら楽しむ事ができるような	取り組みを期待しま	す。			

	ルーブリック評価を用いた成績評価										
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率					
(1)自らの技量に応じて 積極的にスポーツ を楽しむことがで きる。	自らの技量 に応じてス ポーツを楽 しむことが できる。	自らに程をといるというという。 とり とり とり という という という きる。		自らの技量 に応じてス ポーツを楽 しむことが できない。	授業への取り 組み (関心・意 欲・思考 力・創造 性)	15%					
					グループワー ク・グループ 討議 (関心・意 欲・思考力・ 創造性)	15%					
(2)生涯を通じてスポーツを楽しむことのできる基本的知識を修得する。	ほぼ完璧に 修得してい る。	大きな間違 いがなく修 得 し て い る。	とは修得し	修得していない。	授業への取り 組み (知識・理 解・思考力・ 判断力・表現 力)	15%					
					課題・レポート (知識・理 解・思考力・ 判断力・ 力)	15%					

(3)スポーツや野外活動 を楽しむための基 礎的な知識や技能 を修得する。	ほぼ完璧に 修得してい る。	大きな間違 いがなく修 得 し て い る。	最低限のこ とは修得し ている。	修得していない。	授業への取り 組み (知識・理 解・思考力・ 判断力・表現 力)	20%
					グルクがループループループループリープリープリープリープリープリープリープリープリープリープリープリープリー	20%

	授業科	<u> </u>		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別			
国語 Japanese Lang	番(書写を uage(inclu		graphy)	· ·	教育学科 (育学専攻	20EPTS1001	1年次	通年			
講義・演習・ 実習・実	実技·	単位数		認定		担当教員					
演習		2	必	公修		東和男					
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教: (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に `も理解に深い こと。	ついて知い関心を	□識や技能を 時ち,誰と	と磨き、実践的 でも誠実にコミ	月性と人間性を有していな学習指導力を有している学習指導力を有していまったとる。 コニケーションをとる いて取り組む協働性を身	いること。	0			
概要	1 小 2 学	学校の教壇実 習指導要領・	での教壇実践の対象となる教科「国語」の〔知識及び技能〕を整理・把握する。 音導要領・国語の「書写に関する事項」を基にしながら、書写指導の実際を学習する。 いら近代に至るまでの「日本文学史」を、代表的な作品をたどりながら概観する。								
到達目標	(2) 小等	小学校国語教科書で記載されている国語的術語の説明ができる。 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。 上代から近代までの文学史を時代背景と主たる作品で概観を語ることができる。									
	回		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)				
	1	「国語」の質	学習の意味	と内容		児童・生徒時代の国語学 習を振り返る。30分。	ワークシートに授業後の 感想を書く。1時間。				
	2	国語科の目標	票 -3つの	の内容と構成		学習指導要領の目標を読 む。1時間。	学力観の推和 る。2時間。				
	3	国語科の〔知	田識及び技	能〕の概観		学習指導要領の内容を読 む。 2 時間。	ワークシー 理する。 2 B	トに基づき整 寺間。			
	4	国語の音韻に	こ関する事	項		配布資料を基に音韻の特 色を考える。 1 時間。	ワークシー 理する。2	トに基づき整 寺間。			
	5	文字に関する	る事項 ①酒	英字と仮名		仮名の発明の歴史を調べ る。 2 時間。	万葉仮名の特色をまとめ る。1時間。				
	6	文字に関する	5事項 ②	英字の成り立ち		六書について調べる。 2 時間。	六書を基に漢字の例を調 べる。2時間。				
授業内容	7	文字に関する	る事項 ③酒	漢字の部首・	熟語	二字熟語の特色を調べ る。 2 時間。	部首・熟語/ する。2時間	こついて例示			
進め方 (前期)	8	表記に関する	る事項<仮名	名遣い〉		漢字仮名交じりの問題点 を考える。1.5 時間。	表記上の問題る。2時間。	 重点をまとめ			
(刊初)	9	文及び文章の	の構成に関	する事項		文節相互の関係について 調べる。 2 時間。	単文・複文 て整理する。	・重文につい 2時間。			
	1 0	言葉遣いに関	関する事項	〈敬語〉		敬語の種類について調べ る。 2時間。	これからの間 考える。 1 B	改語について 寺間。			
	1 1	語句に関する	る事項 ①詞	吾彙の種類		配布資料を基に語句の分 類を調べる。1時間。	慣用句の例をまとめる。 2	を基に特徴を 2時間。			
	1 2	語句に関する	5事項 ②詞	吾彙の学習		配布資料を基に言葉の由来を調べる。1時間。	美しい言葉和 まとめる。 :	加語について 2 時間。			
	1 3	言葉の働きる	や特徴に関	する事項		言葉の働きの二面性について調べる。2時間。	多義語・対義語等の用語 を整理する。 2 時間。				
	1 4	方言に関する	5学習			教科書の方言の取り上げ 方を調べる。1時間。	方言の発声しをまとめる。	こ関する考え 2時間。			
	1 5	言語文化に関	関する事項		配布資料にある詩や教材 を音読する 1 時間			吾文化を重視 ついてまとめ			

	口	授業内容	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)			
	1	「書写」学習の意義と内容	配布資料に沿って意義 を考える。1時間。	ワークシートに基づき 整理する。 2 時間。			
	2	硬筆による書写 (低学年)	「整い」のルールに基 づく「試書」。 1 時 間。	学習した要点を基に書 く。2時間。			
	3	フェルトペンによる書写(中学年)	「字形」を念頭に「試 書」する。1時間。	「整い」のルール(字 形)の練習。1時間。			
	4	毛筆による書写 ①楷書・漢字 (中学年)	毛筆の書写の意義を調 べる。 1 時間。	「止め」と「払い」を 復習する。1時間。			
	5	毛筆による書写 ②楷書・仮名 (中学年)	漢字と仮名の運筆の違いを調べる。2時間。	手本以外の字の練習を する。1時間。			
	6	毛筆による書写 ③漢字と仮名 (高学年)	学習指導要領の運筆の 要点を掴む。1時間。	「字配り」を意識し、 練習を重ねる。 2 時 間。			
授業内容	7	毛筆による書写 ④行書 (高学年)	楷書と行書の違いを考 える。1時間。	「省略と連続」に留意 し、練習する。 2 時 間。			
と 進め方 (後期)	8	筆ペンによる書写 ①平仮名	配布資料を基に筆ペンに慣れる。2時間。	筆ペンで各体の「いろ は歌」を書く。 2 時 間。			
(1×791)	9	筆ペンによる書写 ②日常の書式	配布資料にある地名を書いてみる。2時間。	筆ペンで日常の諸書式 を練習する。2時間。			
	1 0	筆ペンによる書写 ③連綿	配布資料を基に「連綿」について知る。2時間。	配布資料に基づき「連綿」を楽しむ。 2 時間。			
	1 1	「日本文学史」上代の文学	配布資料を基に「上 代」を概観する。1時 間。	「万葉集」等、上代の 作品を読む。 2 時間。			
	1 2	「日本文学史」中古の文学	配布資料を基に「中 古」を概観する。 1 時 間。	「枕草子」等、中古の 作品を読む。 2 時間。			
	1 3	「日本文学史」中世の文学	配布資料を基に「中世」を概観する。 1 時間。	「徒然草」等、中世の 作品を読む。 2 時間。			
	1 4	「日本文学史」近世の文学	配布資料を基に「近世」を概観する。 1 時間。	芭蕉、西鶴等、近世の 作品を読む。 2 時間。			
	1 5	「日本文学史」近代の文学	配布資料を基に「近 代」を概観する。1時 間。	漱石、子規等、近代の 作品を読む。 2 時間。			
成績割		① 授業内容のポイントを出題し、記述されたものを「ルーブリック評価」に基づき評価する。 ② 毎時間の提出された作品やレポートを「ルーブリック評価」に基づき評価する。 定期試験(知識・理解)50%、提出作品(関心・意欲、思考力、判断力・表現力)30%、課題レポート(関心・意欲、思考力、判断力・表現力)20%					
課題(試験・ 等)に対 [・] フィードバック	する	① 授業後提出された感想カードやレポートにコメントを書き、次時に返却する。 その際幾つかのものは全体に紹介する。② 書写の作品を提出させ、添削・評価をし、次時に返却する。③ 文学史は、毎時間レポートさせ、最後に総合的なレポートを書かせて提出させる。それにコメントと評価を示し、後日返却する。					
テキストお 参 考 文		資料プリントを事前またはその都度、配布する。 文部科学省「小学校学習指導要領解説・国語編」 「国語便覧」東京書籍 久米 公監修「書写スキルで国語力をアップする!新授業モデル」(松本 仁志・ 鈴木 慶子・千々岩 弘一 編著 明治図書 2011)					

メッセージ な ど

○豊かな言語生活のための国語学習の在り方をもとめていきましょう。

- 1 2年次生での学習の基になる授業・教員採用試験必出の授業
- 2 書写の実地指導・日本の古典への読書指導を可能にする授業「必修」 小学校教諭二種免許状:必修科目

	ルーフ	ブリック評価を	と用いた成績割	至価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 小学校国語教科書で 記載されている国語 的術語の説明ができ る。	具体例を使 ってわかる ように説明 できる。	術語の意味 を間違いな く説明でき る。	国語科の中での働きと関わりなく 語としての意味が言える。	各術語の説 明が適切に できない。	定期試験(知 識・理解)	50%
(2) 小学校で取り上げられている楷書・行書が硬筆・毛筆などの様々な道具で書写できる。	それぞれの 道具の特徴 を生かした 書写ができ る。	トメ・ハネ・ ハライ等を 手本に沿っ て書くこと ができる。	筆の特徴や 各字の運筆 に関係なく 手本通りに 書ける。	毎時間の作 品がきちん と提出でき ない。	提出作品(関 心・意欲、思 考力、判断力 表現力)	30%
(3) 上代から近代までの 文学史を時代背景と 主たる作品で概観を 語ることができる。	各時代の時 代的な特徴 と作品とある 関係を語る ことができ る。	各時代の特 徴、代表的 な文学作品 の説明がで きる。	各時代を代表する作品の概略や特徴の説明ができる。	時代の特徴 への意識な く作品の説 明をする	課題レポート (関心・意 欲、思考力、 判断力、表現 力)	20%

	授業科	 			科・専攻	ナンバリング	年次	期別				
	社会 ocial Stu	ıdies		-	教育学科 文育学専攻	20EPTS1003	1年次	通年				
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定	認 定 担 当 教 員							
演習		2	追	圣 択		井上 和信						
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心を持ち,誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。				0 0 0							
概要	社会科なり、よ	全般について りよき市民・	。									
到達目標	活用 (2) 社会	しながら、そ 的事象の意味	会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料がら、その内容をわかりやすく説明できる。 象の意味について、多面的・多角的に考察することができる。 象に関心をもち、積極的に調査し、資料を整え、説得力ある発表ができる。									
	回		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)					
	1	前期の学習語	十画 ① >	ナリエンテー	-ション	社会科らしい自己紹介を 考える。2時間。	授業内容の振り返り。2 時 間。					
	2	社会科で求め	かられる学	力 ② 採用	試験問題の分	採用試験の過去問を解く。 2時間。	採用試験問題 2時間。	題の振り返り。				
	3	高校入試問題	夏の分析			高校入試問題を解く。2 時 間。	高校入試問題 2時間。	題の振り返り。				
	4	社会科の目標	票と構造			学習指導要領社会科の目標を読む。2時間。	社会科の目標 間。	票のまとめ。2 時				
	5	地理的な見力	デ・考え方	の基礎 ⑤ :	地図と地球儀	地図と地球儀についての 資料を読む。2時間。	の 地図と地球儀のまとめ。2 時 間。					
	6	地形図と地図	記号			地形図と地図記号の資料 を読む。2時間。	地形図と地図記号のまと め。2時間。					
授業内容	7	地域社会の訓	周査①			地元の新旧の地形図を読 む。2時間。	地元の地形 2 時間。	図の読み取り。				
進め方 (前期)	8	地域社会の訓	司查②			現地調査の実践例を読む。 2時間。	の実践例を読む。 現地調査のまとめ					
(印列)	9	日本の都道府				都道府県の位置と名称、特 色について整理する。2時間。	都道府県の信 色を復習する	立置と名称、特 る。2時間。				
	1 0	歴史的な見力代の特色	ゴ・考え方	の基礎 ⑩	時代区分と時	日本の歴史の時代区分と 時代の特色を整理する。2 時間。		の時代区分と を復習する。2				
	1 1	歴史的思考	力の育成			歴史のおける「なぜ」をあ げる。2時間。	授業内容の打 間。	辰り返り。2時				
	1 2	年表や歴史	資料の活用	Ħ		「なぜ」に関係する歴史資料や年表をみる。2時間。	授業内容の打 間。	辰り返り。2時				
	1 3	人物学習①				日本の歴史に登場する代表的な人物を確認する。2時間。						
	1 4	人物学習②				学習指導要領社会で扱う 人物を調べる。2時間。 学習指導要領で扱う人名 のまとめ。2時間。						
	1 5	前期の学習の)振り返り	(15) 学習評	価と授業評価	15 回の授業資料を読み直す。2時間。	直 授業内容の振り返り。2 時 間。					
授業内容	口		授	業内容		準備学習	準備	i 学習				

ک			(予習内容・時間)	(復習内容・時間)		
進め方	1	後期の学習計画 ① オリエンテーション	前期試験の内容の分析を する。2時間。	学習指導要領社会の目標 を読む。2時間。		
(後期)	2	第3・4学年の社会科	第3・4学年の社会科の目標と内容を読む。2時間。	第3・4 学年の目標、内容 をまとめる。2 時間。		
	3	目標と内容、内容の取り扱い③ 地域の先人のは たらき①	前期の地域社会の調査のレポートを読む。2時間。	地域の先人の働きについて、調べる。2時間。		
	4	地域の先人のはたらき②	地域の発展に尽くした先	地域の先人の働きについ		
	5	第5学年の社会科 ⑤ 目標と内容、内容の取り 扱い	人について調べる。2 時間。 第5学年の社会科の目標と 内容を読む。2 時間。	てまとめる。2 時間。 第 5 学年の目標、内容をま とめる。2 時間		
	6	わたしたちの国土	第5学年の内容「わたした ちの国土」について資料を 読む。2時間。	わたしたちの国土につい てまとめる。2時間。		
	7	我が国の自然と人々の生活	第5学年の内容「日本の自然」について資料を読む。2時間。	我が国の自然と人々の生活についてまとめる。2時間。		
	8	日本の第1次産業	第5学年の内容「日本の農業」について資料を読む。2時間。	日本の農業についてまと める。2時間。		
	9	日本の第2・3次産業	第5学年の内容「日本の工業」について資料を読む。2 時間。	日本の工業についてまと める。2時間。		
	1 0	第6学年の社会科 ⑩ 目標と内容、内容の取り 扱い	第6学年の社会科の目標と 内容を読む。2 時間。	第6学年の目標、内容をま とめる。2時間		
	1 1	日本の歴史①	第6学年の内容「大化の改 新」について資料を読む。2 時間。	大化の改新についてまと める。2時間。		
	1 2	日本の歴史②	第6学年の内容「室町文化」 について資料を読む。2時間。	室町文化についてまとめる。2時間。		
	1 3	日本の歴史③	第6学年の内容「黒船の来 航」について資料を読む。2 時間。	黒船の来航についてまと める。2時間。		
	1 4	日本の政治制度	第6学年の内容「日本の祝日」について資料を読む。2時間。	日本の政治制度について まとめる。2時間。		
	1 5	⑤ 学習評価と授業評価	15 回の授業資料を読み直す。2 時間。	授業内容の振り返り。2時間。		
成績評	^ž 価	授業への取り組み(関心・意欲・態度、知識・理解)50%、 定期試験(知識・理解、思考力・判断力・表現力)40%、 課題・レポート(思考力・判断力・表現力)10%				
課題 (試験・ 等) に対っ フィードバック	する	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験は、ルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストお 参 考 文		文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」東洋館出版社 小学校社会科用教科書「あたらしい社会 (3~6年)」東京書籍				
メッセ・な	ー ジ ど	社会科好きの子どもを一人でも多く育てるために、社会科の授業づくりを創意工 夫する科目 小学校教諭二種免許状:選択必修科目				

	ルーブリック評価を用いた成績評価									
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率				
(1) 小学校社会科の目標を構造的にとらえ、「社会生活」「国土」「歴史」等について具体的な資料活用しながら、その内容をわかりやすく説明できる。	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 基本を説明 できる。	間違いはい くつかあ低限 が、最低を説 明できる。	説明できて いない。	授業への取り 組み (関心・意欲・ 態度、知識・理 解)	50%				
(2) 社会的事象の意味に ついて、多面的・多角 的に考察することが できる。	から考察で	いくつかの 角度から考 察できる。	1つ以上考察できる。	考察できない。	定期試験 (知識・理解、 思考力・判断 力・表現力)	40%				
(3) 社会的事象に関心を もち、積極的に調査 し、資料を整え、説得 力ある発表ができ る。	ほぼ完璧に 発表でき る。	大きなない。基本で表表である。	間違いはい くつかある が、最低限 の基本を発表できる。	発表できない。	課題・レポート (思考力・判断力・表現力)	10%				

	授業科	=			科・専攻	ナンバリング	年 次	期別		
	算数 Arithme	etic			教育学科 育学専攻	20EPTS1004	1年次	通年		
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定	担 当 教 員					
演習		2	達	圣 択		福田 敏	雄			
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に `も理解に深い こと。	な教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けて							
概要	ための基 見方・考え	(科の各領域6学年にわたるそれぞれの指導内容、系統、関係等について学び、算数を指導する) 基礎的な知識を習得する。また、学習内容に合わせた課題に取り組むことを通して、数学的な考え方の重要性や指導者として把握が必要な数学的な背景について理解を深め、今後の実践的や算数科指導の在り方等の学習に生きて働く力を養う。								
到達目標	(2) 学習	数科で扱う内容について、教師として必要な基礎知識を獲得し説明することができる。 習内容に付随した算数の問題解決や問題作成、教材作成に主体的に取組むことができる。 習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。								
	口		授業内容	容		準備学習 (予習内容・時間)		学習 ・時間)		
	1	オリエンテー	ーション・	算数教育史	算数教育の 2時間	歴史について調べる。	算数教育の歴史についてまとめ る。 2時間			
	2	数学の発達9	やと算数		数学の発達 2時間	史について調べる。	数学の発達史に~ る。	ついてまとめ 2時間		
	3	整数のしくみ	·		整数のしくる 2時間	みについて調べる。	各国の命数法、記 ついて整理する。			
	4	整数の加法と	:減法		整数の加法と減法について調べる。 2時間			&及び用いられ まとめる 2 時間		
	5	整数の乗法			整数の乗法について調べる。 2時間			乗法の定義及び用いられる場、 演算法をまとめる。 2時間		
	6	整数の除法			整数の除法 2時間	について調べる。	除法の定義及び 演算法を整理する			
授業内容 と	7	小数の意味と	:計算		小数の意味 2時間	について調べる。	小数の意味、表記 算法をまとめる。			
進め方 (前期)	8	分数の意味			分数の意味 2時間	について調べる。	分数の意味、標語 いてまとめる。	記の仕組みにつ 2 時間		
(13.37)37	9	分数の計算			分数の計算 2時間	について調べる。	分数の加減乗除のをまとめる。	の意味、演算法 2時間		
	1 0	概数、概算、	整数の性	質	概数、概算べる。	、整数の性質について調 2時間	概数、概算、整数 てまとめる。	数の性質につい 2時間		
	1 1	式表示			式表示につい 2時間	いて調べる。	式表示のはたす? ついてまとめる。			
	1 2	三角形、四角 形	角形、長方	形、直角三角	角 三角形、四条形について	角形、長方形、直角三角 調べる。 2時間	定義、性質を整理 ついて考察する。			
	1 3	二等辺三角刑	 ジ、正三角	形、円	二等辺三角にて調べる。	形、正三角形、円につい 2時間	定義、性質を整理 ついて考察する。			
	1 4	平行四辺形、 きさ	ひし形、	台形、角の対	マ行四辺形、 きさについ	、ひし形、台形、角の大 て調べる。 2 時間	定義、性質を整理し、作図法に ついて考察する。 2時間			
	1 5	多角形、正多 角形や四角形			角形や四角	多角形、正多角形、直径と円周、三 角形や四角形の角、合同な図形について調べる。 2時間 定義、性質を整理し、ついて考察する。				
授業内容	旦		授業内容	— <u>—</u> 容		準備学習	準備	学習 		

٤			(予習内容・時間)	(復習内容・時間)		
進め方 (後期)	1	対称な図形、縮図や拡大図	対称な図形、縮図や拡大図について調べる。 2時間	定義・性質を整理し、作図 法をについて考察する2時 間		
	2	形の特徴(1年・平面)	1年生の形の特徴について調べる。 2時間	定義・性質を整理し、形の 特徴を考察する。 2時 間		
	3	形の特徴(1年・立体)、ものの位置、箱の形	1年生の形の特徴や箱の形、も のの位置について調べる2時間	定義、性質を整理し、図表示について考察する。2時間		
	4	球、立方体、直方体	球、立方体、直方体について調べる。 2時間	定義、性質を整理し、図表示について考察する。2時間		
	5	角柱、円柱	角柱、円柱について調べる。 2時間	定義、性質を整理し、図表示について考察する。2時間		
	6	量の比較、任意単位の導入	量の比較、任意単位について調べる。 2時間	量概念について整理し、比 較方法を考察する。 2時間		
	7	普遍単位による測定	普遍単位による測定について調べる。 2時間	量概念について整理し、比 較方法を考察する。 2時 間		
	8	角の大きさ、平面図形の求積	角の大きさ、平面図形の求積。 2時間	角の大きさや図形の求積方 法を考察整理する。2時間		
	9	縮図、拡大図、円や概形の求積	縮図、拡大図、円や概形の求積 について調べる。 2時間	縮図、拡大図の活用や求積 法をまとめる。 2時間		
	1 0	立体の求積	立体の求積法について調べる。 2時間	立体の求積法を整理する。 2時間		
	1 1	伴って変わる量	伴って変わる量について調べる。 2時間	変数と対応について考察する。 2時間		
	1 2	異種の2つの割合	異種の2つの割合について調べる。 2時間	異種の2つの割合について 考察する。 2時間		
	1 3	割合、比	割合、比について調べる。 2時間	割合と比の意味をまとめ、 活用法を考察する。 2 時 間		
	1 4	データの活用	データの活用について調べる。 2時間	統計的な考え方について考察する。 2時間		
	1 5	数学的活動	数学的活動について調べる。 2時間	数学的活動について考察する。 2時間		
成績評価		定期試験(知識・理解、思考力・判断力)40%、課題演習や発表活動 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)30%、 課題プリント (知識・理解、思考力・判断力)30%				
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法		授業において提示した課題については、授業内で個人や全体に対してフィードバックする。また授業振り返りシートにコメントを記入し、次の授業時に返却する。				
テキストおよび 参 考 文 献		九州算数科教育研究会『新訂算数科教育の研究と実践』日本教育研究センター 文部科学省「小学校指導要領解説 算数編」 小学校算数教科書 プリント類は必要に応じて配付する。				
メッセージ な ど		児童が学ぶように具体物を操作したり、観察したりしながら算数科学習内容を学習し、算数を学ぶことの楽しさを味わいましょう。 小学校教諭二種免許:選択必修科目				

ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	沙達 目標 優		可	不可	評価手段	評価 比率		
(1) 算数科で扱う内容に ついて、教師として 必要な基礎知識を獲 得し説明することが できる。	ほぼ完璧に 説明するこ とができる	大きがな関連 ななすり に関知がで 基礎明がで る。	間違いはあるが、最低限の基礎知識の説明ができる。	基礎知識が 身にです、説明ができない。	定期試験 (知識・理解、 思考力・判断 力)	40%		
(2) 学習内容に付随した 算数の問題解決や問 題作成、教材作成に 主体的に取組むこと ができる。	主体的に取りに取りに対している。 り組みには びった。 し遂がで とがる。	り組み、大		主体的に取 り組とが に遂で とが とが い。	課題演習や発表活動 (関心・意欲・ 思考力・判断 力・表現力)	30%		
(3) 演習や宿題で提示した課題を的確に解くことができる。	ほぼ完璧な 解決ができ る。	単純ミスは あるが、よ きな間違い をせずに解 決できる。	いくつかの 間違いはあ るが、ほぼ 的確に解決 できる。	間違いが多 く、ほとん ど的確な解 決ができて いない。	課題プリント (知識・理解、 思考力・判断 力)	30%		

授業科目			対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別		
理科 Science				教育学科 (育学専攻	20EPTS1005	1年次	通年		
議義·海翌·宝拉·			認定	113 4 4 7 4	担当教員				
演習		2	選択		廣修治				
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に `も理解に深い こと。	ついて知 ハ関心を打	、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (持ち,誰とでも誠実にコミュニケーションをとることがでして、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けて (
概 要	然の事物	然に親しみ、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことを通して、自事物や現象についての問題を科学的に解決するために必要な資質・能力を育成する小学校理科について学び、学校現場で役立つ教育実践力を身につける。							
到達目標	(1) 小学校理科教育の各学年の目標や学習内容を理解し、説明することができる。(2) こどもの発達・自然認識の仕方を理解し、具体的に説明することができる。(3) 自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度の育成技術を身につけ、説明することができる。								
	回		授	業内容	準備学習 (予習内容・時間)		準備学習 (復習内容・時間)		
	1	理科教育の理念 学習指導要領改訂の趣旨と背景				学習指導要領理科編を読 んでおく。2時間	授業の振り	返りシートに 字をまとめる。	
	2	小学校理科の目標と「確かな学力」			l	学習指導要領理科編を読 んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	3	小学校理科の内容と教材研究			学習指導要領理科編を読 んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
	4	第3学年の理科「風とゴムの働き」「音の性質」			3年理科教科書の「風とゴムの力のはたらき」「音の性質」を読んでおく。2時間		返りシートに 字をまとめる。		
	5	第3学年の理科「磁石の性質」			3年理科教科書の「磁石の 性質」を読んでおく。2時 間	基づき、内容 2時間	返りシートに 容をまとめる。		
	6	第3学年の理科「電気の通り道」			3年理科教科書の「電気の 通り道」を読んでおく。2 時間	4, 4, 1, 1	返りシートに 字をまとめる。		
授業内容 と	7	第3学年の理	第3学年の理科「物と重さ」			3年理科教科書の「物と重 さ」を読んでおく。2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 字をまとめる。	
進め方(前期)	8	第3学年の理科「身の回りの生物」			3年理科教科書の「身の回 りの生物」を読んでおく。 2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 字をまとめる。		
	9	第3学年の理科「太陽と地面の様子」			3年理科教科書の「太陽と 地面の様子」を読んでお く。2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 容をまとめる。		
	1 0	第4学年の理科「電流の働き」				4年理科教科書の「電流の働き」を読んでおく。2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 字をまとめる。	
	1 1	第4学年の理科「金属、水、空気と温度」			4年理科教科書の「金属、 水、空気と温度」を読んで おく。2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに容をまとめる。		
	1 2	第4学年の理科「空気と水の性質」			4年理科教科書の「空気と 水の性質」を読んでおく。 2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 容をまとめる。		
	1 3	第4学年の理科「季節と生物」			4年理科教科書の「季節と 生物」を読んでおく。2時間		返りシートに 字をまとめる。		
	1 4	第4学年の理	34学年の理科「星と月」			4年理科教科書の「星と 月」を読んでおく。2時間	基づき、内容 2時間	返りシートに 容をまとめる。	
	1 5	第4学年の理	理科「天気の様子・雨水のゆくえ」			4年理科教科書の「天気の 様子・雨水のゆくえ」を読 んでおく。2時間		返りシートに 容をまとめる。	

	口	授業内容	準備学習	準備学習		
	1	第5学年の理科「振り子の運動」	(予習内容・時間) 5年理科教科書の「振り子	(復習内容・時間) 授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。		
	1	第 5 子中の理解「派り丁の運動」	の運動」を読んでおく。2 時間 5年理科教科書の「電流が	を 2 時間 授業の振り返りシートに		
	2	第5学年の理科「電流がつくる磁力」	つくる磁力」を読んでお く。 2時間	基づき、内容をまとめる。 2時間		
	3	第5学年の理科「物の溶け方」	5年理科教科書の「物の溶け方」を読んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	4	第5学年の理科「植物の発芽、成長、結実」	5年理科教科書の「植物の 発芽、成長、結実」を読ん でおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	5	第5学年の理科「動物の誕生」	5年理科教科書の「動物の 誕生」を読んでおく。2時 間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	6	第5学年の理科「流れる水の働きと土地の変 化」	5年理科教科書の「流れる 水の働きと土地の変化」を 読んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
授業内容	7	第5学年の理科「天気の変化」	5年理科教科書の「天気の 変化」を読んでおく。2時 間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
進め方 (後期)	8	第6学年の理科「てこの規則性」	6年理科教科書の「てこの 規則性」を読んでおく。2 時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	9	第6学年の理科「電気の利用」	6年理科教科書の「電気の 利用」を読んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 0	第6学年の理科「燃焼の仕組み」	6年理科教科書の「燃焼の 仕組み」を読んでおく。2 時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 1	第6学年の理科「水溶液の性質」	6年理科教科書の「水溶液 の性質」を読んでおく。2 時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 2	第6学年の理科「人体のつくりと働き」	6年理科教科書の「人体の つくりと働き」を読んでお く。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 3	第6学年の理科「植物の養分と水の通り道」	6年理科教科書の「植物の 養分と水の通り道」を読ん でおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 4	第6学年の理科「土地のつくりと変化」	6年理科教科書の「土地の つくりと変化」を読んでお く。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
	1 5	理科教育の基本構造 (問題解決学習過程等)	学習指導要領理科編を読 んでおく。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間		
成績割	严 価	講義用学習シート(関心・意欲・態度・ 質疑応答や振り返り(技能・表現)30% 定期試験(知識・理解・思考力・判断力				
課題(試験・ 等)に対 フィードバック	する	授業中の講義内容についての質疑応答や振り返り。 授業後の「講義用学習シート (レポート)」の提出 (宿題)。 レポートをチェックして後日返却する。 定期試験は事前に予告して行う。 レポートや定期試験はルーブリック評価の結果を渡す。				
テキストお 参 考 対		小学校理科教科書3年、4年、5年、6年 文部科学省「小学校指導要領 理科編」 文部科学省「小学校学習指導要解説 理 「資質・能力が育つ理科学習指導の展開	里科編」	v)		
メッセ・な	ー ジ ど	理科教育の有用性や理科の具体的な目標を通して、理科についての理解と実践力 小学校教諭二種免許:選択必修科目		教材についての学び		

	ルーフ	ブリック評価を	別いた成績評	·		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 小学校理科教育の各 学年の目標や学習内 容を理解し、説明す ることができる。	目標や内容 を理解して おり、ほぼ 完璧な説 ができる。	目標や内容 は理解して いる説明 壁な説明 できない。	目標解の理解が、説明である。	目標や内容 を理解しず、説明もできない。	課題レポート (知識・理 解) 定期試験 (知識・理 解)	30%
(2) こどもの発達・自然 認識の仕方を理解 し、具体的に説明す ることができる。	こ達・の然記を も自仕ししば明 の然をおって は説明 をなる。	達・自然認 識の仕方を 理解してい	理解は十分 とはいえないが、説明 が何とかできる。	理解してお らず、説明 もできてな い。	課題レポート (知識・理 解) 定期試験 (知識・理 解)	30%
(3) 自然を愛する心情や 主体的に問題解決し ようとする態度の育 成技術を身につけ、 説明することができ る。	心情や態度 の育成に 身に り、 は い い い い り に い い に い き り に り に り に り に り い ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら ら	身にはつけ ているが、 完璧な説明 ができな い。	十分とは、 言えない が、何とか 説明はでき る。	身について ないため、 説明もでき ない。	学習プリント (関心・意欲・ 態度・思考力・ 判断力・技能)	40%

	授業科	目		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別		
	音楽 Musio				教育学科 :育学専攻	20EPTS1007	1年次	通年		
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒 業	認定		担当教員				
演習		2	业	公修		藤河 久美				
ディプロ マ・ ポ リ シ ー との関係	(2) 各記 (3) 子 (4) さ	教科・道徳等 ども理解に ること。	いない 深い関心	「知識や技能を持ち,誰と	€を磨き、実践 こでも誠実に=	写門性と人間性を有していめな学習指導力を有していま。 マーカーションをとる よっこかり組む協働性を見る	いること。	0 0 0		
概 要	習得・グル・	し、音楽的原	感性と音楽とおして	楽的技能を アンサンフ	養う。 ゛ルをする体験	を習得する。 ・	ズム奏の基	礎・基本を		
到達目標	(2) 器	楽演奏や歌	昌の基本	及び鑑賞の位	土方について当	だび、その基礎力の体得が 可上させることができる。				
	口		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	(復習内	背学習 容・時間)		
	1	前期の学習	計画 オリ	「エンテーシ	ョン	「私と音楽」というタイトル で自己紹介を考えておく。1 時間	授業内容の振り返りをする。1時間			
	2	学習指導要	領 音楽科	4の目標と内	容について	学習指導要領音楽科の目標 や内容を読んでおく1時間	る 1時間	振り返りをす		
	3	拍にあわせ	て リズム	あそび		音符や休符の種類を調べて おく 1時間	る 1時間			
	4	拍にあわせ	て リズム	ンアンサンブ	n (1)	音符や休符の種類等の意味 授業内容の振り返 を理解する 1 時間 3 1 時間				
	5	拍にあわせ	て リズム	スアンサンブ	vV2)	音符や休符の種類などの関 授業内容の振り返り わりなどがわかる る1時間 く1時間				
	6	拍にあわせ	て リズム	スアンサンブ	n\3	リズムづくりの仕方を理解 する く1時間>	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
授業内容	7	音楽の仕組	み①			学習指導要領 共通事項を 読んでおく 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
進め方	8	音楽の仕組	み②			学習指導要領 共通事項を まとめておく 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
(前期)	9	音楽の仕組	み3			学習指導要領 共通事項を 授業内容の振り返り 理解する 1時間 3 1時間 1時間				
	1 0	音楽づくり	グルーフ	が演習		事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
	1 1	指揮法につ	いて			事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
	1 2	鑑賞のとら	 え方①			事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
	1 3	鑑賞のとら	え方②			事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の る 1時間	振り返りをす		
	1 4	鑑賞のとら	え方③			事前の配付資料を読んでお く 1時間		振り返りをす		
	1 5	前期のまと	め			事前の配付資料を読んでお く 1時間		振り返りをす		
内容	口		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	準備	情学習 容・時間)		

	1	T	T	T			
進め方	1	和音のはたらき①	事前の配付資料を読んでお く 1 時間	授業内容の振り返りをする 1時間			
(後期)	2	和音のはたらき②	事前の配付資料を読み、練習 しておく 1時間	授業内容の振り返りをする 1時間			
	3	和音のはたらき③	事前の配付資料を読んでお く	授業内容の振り返りをす る 1時間			
	4	和音や低音のはたらき①	1時間 事前の配付資料を読み、練習しておく	授業内容の振り返りをす る 1時間			
	5	和音や低音のはたらき②	1時間 事前の配付資料を読んでお く	授業内容の振り返りをす る1時間			
	6	伴奏づくり①	1時間 事前の配付資料を読み、練習しておく	授業内容の振り返りをす る 1時間			
	7	伴奏づくり②	1時間 事前の配付資料を読んでお く	授業内容の振り返りをする			
	8	グループアンサンブル①	1時間 事前の配付資料を読み鍵盤 奏をしておく 1時間	1時間 授業内容の振り返りをす る 2時間			
	9	グループアンサンブル②	事前の配付資料を読んでお く 1 時間	授業内容の振り返りをする 2 時間			
	1 0	グループアンサンブル③	事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の振り返りをする 2時間			
	1 1	グループアンサンブル まとめ	事前の配付資料を読んでお く 1時間	授業内容の振り返りをする 2時間			
	1 2	ピアノによる弾き歌い①	指定した曲を譜読みし、弾き 歌いの練習をする 2時間	授業内容の振り返りをする 2 時間			
	1 3	ピアノによる弾き歌い②	指定した曲を譜読みし、弾き 歌いの練習をする 2時間	授業内容の振り返りをする 2 時間			
	1 4	ピアノによる弾き歌い③	指定した曲を譜読みし、弾き 歌いを練習する 2時間	授業内容の振り返りをする 2 時間			
	1 5	ピアノによる弾き歌い まとめ	弾き歌いを練習する 2時間	授業内容の振り返りをする 2 時間			
成績評	価	デイプロマ・ポリシーに沿って、授業 定期試験(楽典)40%、実技検査40%、		こって評価する。			
課題 (試験・L 等) に対す フィードバック	ーる	繰り返しの実技検定やレッスンをとお 引き出し技能の習得を目指させる。	おし、課題を段階的にクリ	アさせる。やる気を			
テキストお 参 考 文		初等科音楽教育法·小学校教員養成課程用(音楽之友社) 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編 文部科学省					
メッセーな	- ジ ど	義務教育で学んだ音楽知識を体系化し 演習の楽しさを体験し、将来の活動は 能力にあった器楽伴奏法を習得し、第 小学校教諭二種免許状:必修	こ生かせる素地を造りまし	ンよう。			

	ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率			
(1) 基本的な音楽理論 (楽典)の習得がで きる。	音楽の三要素 (旋律・リズム・ 和音)を記号化し た楽典を全体的 にほぼ完璧に理 解し活用できる。	理論として理解でき、活用の段階で程度に る程度に 得できる。	ほぼ理解でき、 実用実践の段階 で混乱せずに活 用できる理論が 習得できる。	合理性に富む 楽典理論が理 解習得できて いない。	定期試験(楽典)	40%			
(2) 器楽演奏や歌唱の 基本を学び、その基 礎力の体得ができる。	鍵盤楽器を中心 として、弾き歌い の技量など、ほぼ 完璧に出来る	器楽と歌唱の 別々でなら、ほ ぼ完璧に表現 できる。	基本的、基礎 的な演奏力がほ ぼ身に着いてい る。	基礎的、基本的技量が全く身に着かない。	実技検査	40%			
(3) 音楽における基礎 能力の感性を助長 し、技能を向上させ ることができる。	自らの力で自ら の感性を磨く練 習ができ、技能の 向上に努めるこ とができる。	楽譜等の指示 に従い表現で き、感性を助長 ささる。	楽譜等の指示に 従ってほぼ正確 に表現できる が、感性を助長 させるまでには 至らない。	楽譜等の指示 に従って正確 に表現できな い。技能の向 上がみられな い	定期試験 実技検査	20%			

	1- NV **				· ~ + ·	,		the = :
	授業科	Ħ 			学科・専攻	ナンバリング	年 次	期別
	声楽 Vocal Mu	ısic		· ·	教育学科 故育学専攻	20EPTS1008	1年次	後期
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員		
演習		1	业	必修		藤河 久美		
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に も理解に深い こと。	ついて知い関心を	職や技能を 時ち,誰と	を磨き、実践的 でも誠実にコミ	月性と人間性を有していな学習指導力を有している シュニケーションをとる ムで取り組む協働性を身	いること。	0
概要		音楽教育にま)の体験し、				方法の基本を修得し、合	『唱(輪唱、	二部合唱、
到達目標	(2) 小学 るこ	とができる。	24曲の	楽曲の内容	•	うことができる。また。	 、輪唱や二	部合唱をづ
	口		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)		情学習 容・時間)
	1	児童発声及び	バ発声法に	ついて		学習指導要領のA表現(歌唱) について読んでおく・2 時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見・2 時間
	2	歌唱指導(1 唱や合唱	l 学年共通	教材曲) 及	び 簡単な輪	1 学年の共通教材曲を譜 読みしておく・2 時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見 • 2 時間
	3	歌唱指導(2 唱や合唱	2 学年共通	教材曲) 及	び 簡単な輪	2学年の共通教材曲を譜 読みしておく・2時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見 ・2 時間
	4	歌唱指導(3 唱や合唱	3 学年共通	教材曲) 及	ひび 簡単な輪	3学年の共通教材曲を譜 読みしておく・2時間	授業を振り て復習する	返り楽譜を見 ・2 時間
	5	歌唱指導(4 唱や合唱	1 学年共通	教材曲) 及	なび 簡単な輪	4学年の共通教材曲を譜 読みしておく・2時間	て復習する	
	6	歌唱指導(5	5 学年共通	教材曲) 及	なび 合唱	5 学年の共通教材曲を譜 読みしておく・ 2 時間	て復習する	• 2 時間
授業内容	7	歌唱指導(6	6 学年共通	教材曲) 及	なび 合唱	6 学年の共通教材曲を譜 読みしておく ・2 時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見・2時間
と 進め方	8	様々な輪唱や	や二部合唱	1		指定した曲を譜読みし弾 き歌いの練習をする・2 時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見・2時間
	9	様々な輪唱や	や二部合唱	2		指定した曲を譜読みし弾 き歌いの練習をする・2 時 間	て復習する	
	1 0	様々な二部合	6唱(三部	合唱) ①		指定した曲を譜読みし弾 き歌いの練習をする・2 時 間	て復習する	
	1 1	様々な二部台	合唱(三部	合唱) ②		指定した曲を譜読みし弾 き歌いの練習をする・2時間	て復習する	
	1 2	様々な二部台		合唱) ③		指定した曲を譜読みし弾 き歌いの練習をする・2 時間		返り楽譜を見 ・2 時間
	1 3	様々な二部台	子唱 (三部	合唱) ④		授業の中で決めた合唱曲 を譜読みしておく・ 2時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見・2 時間
	1 4	様々な二部台		合唱) ⑤		授業の中で決めた合唱曲 を譜読みしておく・ 2時間	授業を振りて復習する	返り楽譜を見 ・2 時間
	1 5	二部合唱 (3	三部合唱)	のまとめ		授業の中で決めた合唱曲 を歌うことができる・ 2時間	授業を振り て復習する	返り楽譜を見・2 時間

成績評価	ディプロマ・ポリシーに沿って、授業評価と実技試験結果によって評価する。 授業への取り組み(関心・意欲・態度):50%、定期試験(知識・実技):50%
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法	毎回の授業の曲を復習する。
テキストおよび 参 考 文 献	初等科音楽教育法·小学校教員養成課程用 音楽之友社 小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 音楽編 文部科学省
メッセージ な ど	小学校教諭二種免許状:必修科目

	ルーブリック評価を用いた成績評価							
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率		
(1) 児童発声についての 知識を習得する。	ほぼ完璧に 習得してい る。	大きな間違 いがなく、 基礎を習得 している。	間違いはあ るが、最低 限の基礎を 習得してい る。	習得していない。	授業への取り 組み 定期試験	30%		
(2) 小学校歌唱教材 2 4 曲の楽曲の内容を把 握し、歌うことがで きる。	ほぼ完璧に できる。	大きな間違 いがなく、 基礎ができ る。	間違いはあ るが、最低 限の基礎が できてい る。	できていない。	授業への取り 組み 定期試験	40%		
(3) 簡単な輪唱や二部合唱、三部合唱ができる。	ほぼ完璧に 歌うことが できる。	大きな間違 いがなく、 歌うことが できる。	間違いはあるが、最低限の基礎ができている。	歌えない。	定期試験	30%		

	授業科	=		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別	
Inst	器楽 I rumental			-	教育学科 (育学専攻	20EPTS1009	1年次	前期	
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員			
演習		1	必	必修		藤河 久美			
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に も理解に深い こと。	ざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付けて						
概要	初等科		委技術 σ	の向上を目れ	旨す。	半奏の修得を目指す。			
到達目標	(2) 正し	アノ演奏技術 い楽譜の読 な歌唱教材	み方を学	べる。					
	回		授美	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)		
	1	ピアノの扱い	、方 演奏の	つ方法 演奏	楽曲の説明	階名読みができるように しておく・2 時間	授業を振り返り習った曲 を復習する・2 時間		
	2	ピアノ演奏①)バイコ	ニル		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	3	ピアノ演奏②) バイコ	ヒル		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	く・2 時間 を復習する・2 時間		
	4	ピアノ演奏			を復習する	返り習った曲 ・2 時間			
	5	ピアノ演奏④) バイコ	ニル		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振り返り習った曲 を復習する・2 時間		
	6	ピアノ演奏®) バイコ	ニ ル		バイエル番を譜読みして おく・2 時間	授業を振り を復習する		
授業内容	7	ピアノ演奏の) バイコ	ニ ル		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
進め方	8	ピアノ演奏の) バイコ	ニ /レ		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	9	ピアノ演奏@	。 バイコ	ニル		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振り を復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	1 0	ピアノ演奏@) バイコ	ニ /レ		バイエルを譜読みしてお く・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2時間	
	1 1	簡単な歌唱教	枚材曲の伴	奏①		歌唱教材曲の伴奏を譜読 みしておく・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	1 2	簡単な歌唱教	女材曲の伴	奏②		歌唱教材曲の伴奏を譜読 みしておく・2 時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	1 3	様々な歌唱教	女材曲の伴	奏①		課題曲の練習をしておく・ 2時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	1 4	様々な歌唱教	女材曲の伴	奏②		課題曲の練習をしておく・ 2時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	
	1 5	様々な歌唱教	対曲の伴	奏 まとめ		課題曲の練習をしておく・ 2時間	授業を振りを復習する	返り習った曲 ・2 時間	

成績評価	ディプロマポリシーに沿って評価と実技試験結果によって評価。 授業への取り組み(関心・意欲・態度):55%、定期試験(知識・実技):45%
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法	日々の練習の成果を復習練習でフィードバックし、実技試験の場で発表する。
テキストおよび 参 考 文 献	初等科音楽教育法・小学校教員養成課程用 音楽之友社 「バイエル教則本」全音出版社 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説 音楽編 文部科学省
メッセージ な ど	小学校教諭二種免許状:必修科目

	ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率			
(1) ピアノ演奏技術の基 礎を習得できる。	ほぼ完璧に 習得してい る。	大きな間違いがなく、 基礎を習得している。	間違いはあ るが、最低 限の基礎を 習得してい る。	習得できていない。	授業への取り 組み 定期試験	35%			
(2) 正しい楽譜の読み方 を学べる。	ほぼ完璧に 学んでい る。	大きな間違 いがなく、 基礎を学ん でいる。	間違いはあ るが、最低 限の基礎を 学んでい る。	学べていな い。	授業への取り組み	30%			
(3) 簡単な歌唱教材についての伴奏を学び、 演奏できる。	ほぼ完璧に 演奏でき る。	大きな間違 いがなく、 基礎を演奏 できる。	間違いはあ るが、最低 限の基礎を 演奏でき る。	演奏できて いない。	授業への取り 組み 定期試験	35%			

	授業科			対象学	≅科・専攻	ナンバリング	年 次	期別	
Arts	図画工作 図画工作 s and Han			-	教育学科 教育学専攻	20EPTS1011	1年次	通年	
講義・演習・	講義・演習・実技・ 実習・実験 単位数 卒業			認定		担当教員			
演習		2	业	必修 黒岩 眞理子					
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま いる	科・道徳等に `も理解に深い こと。 ざまな教育記 こと。	ついて知 ハ関心を	識や技能を 寺ち,誰と して、自ら	を磨き、実践的でも誠実にコミ	月性と人間性を有していな学習指導力を有していな学習指導力を有していまったとる。 エニケーションをとるいで取り組む協働性を身 におこなう。工作は教材	いること。 うことがで Pに付けて	○ ○ ○ ○ 賞は美術史	
概 要						彩画を、デザインはポ 関係について知識を得			
到達目標	(2) 水彩 (3) 透明	画、ポスター 水彩、ポスタ	-の特質を アーカラー	と知り、意 一の扱いに	欲的に取材し、 熟達し、表現し	ジについて説明する事か 画面構成力を高める事 したい内容を描く事がて ようことができる。	すができる。 ごきる。		
	回	授業内容				準備学習 (予習内容・時間)	(復習内	育学習 容・時間)	
	1	オリエンテー	ーション	をする				業を振り返り、自己評価 する。0.5時間	
	2	鉛筆デッサン	<u>(1)</u>			事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間。授業を振り返り、自己評価 をする。0.5 時間			
	3	鉛筆デッサン	<u>/2</u>			事前に配ったプリントを 読む。0.5時間 授業を振り返り、自己評価をする。0.5時間			
	4	鉛筆デッサン	/3)			事前に配ったプリントを 読む。0.5時間		仕上げて自己 欠時提出する。	
	5	水彩絵の具の)使い方			事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	授業を振り込 をする。0.5	医り、自己評価 時間	
授業内容	6	色について	D			事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	授業を振り込 をする。0.5	医り、自己評価 時間	
と 進め方	7	色について②				事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	授業を振り込 をする。0.5	区り、自己評価 時間	
(前期)	8	色について	3)			事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	をする。0.5		
	9	水彩画の制作	乍 モチー	フ決定 下	描き①	課題に合わせてモチーフ を考えておく 1 時間	をする。0.5		
	1 0	下描き②				事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	をする。0.5		
	1 1	彩色①				事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	をする。0.5		
	1 2	彩色②				事前に配ったプリントを読む。0.5時間	をする。0.5		
	13	彩色③				事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間	授業を振りi をする。0.5	区り、自己評価 時間	
	1 4	彩色④				事前に配ったプリントを 読む。0.5 時間		区り、疑問点な る。0.5時間	
	1 5	評価・講評					授業を振り込 をする。0.5	医り、自己評価 時間	

	口	授業内容	準備学習	準備学習			
		2278171	(予習内容・時間) 事前に配ったプリントを	(復習内容・時間) 授業を振り返り、自分の主			
	1	ポスターについて	読む。1時間	題、構想、資料収集に取り 掛かる。2時間			
	2	レタリングーゴシック体と明朝体①	事前に配ったプリントを 読む。2時間	授業を振り返り、自己評価 をする。1時間			
	3	レタリングーゴシック体と明朝体②		授業を振り返り、演習シートを完成させ、次時提出する。2時間			
	4	資料収集・構想・アイデアスケッチ	構想シートに数種類、構想 を描く。2時間	授業を振り返り、構想を見 直す。2時間			
	5	コピー・レタリングの考案	構想シートに数種類、構想 を描く。2時間	授業を振り返り、構想を見 直す。2時間			
	6	下描き①-構図決定-	構想シートに数種類、構想 を描く。2時間	授業を振り返り、構想を見 直す。2時間			
授業内容 と	7	下描き②-レタリングのトレースや細部-		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
進め方 (後期)	8	着彩①ーモダンテクニックについて	事前に配ったプリントを 読む。0.5時間	授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
(按規)	9	着彩②		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
	1 0	着彩③		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
	1 1	着彩④		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
	1 2	着彩⑤		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
	1 3	着彩⑥		お互いに鑑賞しあいなが ら意見交換をして作品の 完成度を高め、次時提出す る。2時間			
	1 4	評価・講評		授業を振り返り、自己評価 をする。 0.5時間			
	1 5	まとめ		授業を振り返り、自己評価 をする。0.5時間			
成績割	垄 価	定期試験 (知識・理解):10% 授業内での制作 (発想・構想・創意工夫および関心・意欲・態度):40% 授業内での制作 (表現の技能および関心・意欲・態度) 40% 授業内での相互評価 (鑑賞):10% ただし、試験の一部は技能と鑑賞の評価に反映させることとする。					
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法		学生は授業の振り返りシートに課題に対する疑問や感想、自己評価を記入し連絡ボックスに入れる。 課題の評価は作品完成時に口頭で、試験の評価は点数(100 点中~80 点:優、79~70 点:良、69~60 点:可、60 点未満:不可)で知らせる。正解とともに返却する。場合によっては個人的に呼び出して指導することもある。					
テキストおよび 参 考 文 献		小学校学習指導要領 第7節 図画工作 中学校学習指導要領 第6節 美術					
メッセージ な ど		図画工作を指導する上での基本的な知識・理解、技術を実技を通して身につけていきます。 小学校教諭二種免許状:必修					

	ルーフ	ブリック評価を	た用いた成績部	严価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 水彩画、ポスターの制作の手順や画材、用具、色彩について説明する事ができる。	ほぼ完璧に 基本を説明 できる。	大きな間違 いがなく、 基本を説明 できる。	間違いはい くつかある が、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	定期試験 (知識・理 解)	10%
(2) 水彩画、ポスターの 特質を知り、意欲的 に取材し、画面構成 力を高める事ができ る。	ほぼして考 を理りで言 ができる。	大いがしのかり、大いがしたがしてきる。	理解 ためあり にまがい はかい 自制ができる。	理り考でいいたい。 おの作な制作しない。	授業内での制 作(発憩意工 想・創まび・ 表記が・ まな・ 度)	40%
(3) 透明水彩、ポスターカラーの扱いに熟達し、表現したい内容を描く事ができる。	ほだな理に を理でるこ ができる。	大い法理現成ができなな特しきるる。	技理ののは ののには ののには が ののも の も も う も う も り の た り り り り り り り り り り り り り り り り り	技のりりでいた のいきのきのいた がした がいた はない。 はない。	授業内での制 作(表現の技 能および 心・意欲・態 度)	40%
(4) お互いの作品を鑑賞 して考えを説明し合 い、高め合うことが できる。	ほぼのようできる。 はまる。	大いがのよう 作品分割 でいる かい	不適切な表 切はるが、 自分明で を説 る。	説明できて いない。	授業内での相 互評価 (鑑賞)	10%

	授業科	 目		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別		
	工芸			· ·	章教育学科 20EPTS1012		1年次	通年		
**** **	Craft	T		初等教	文育学専攻 	2021 151012	1 50	λ <u>ιι</u> 1		
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員				
演習		2	业	必修		黒岩 眞理子	7-			
ディプロ						月性と人間性を有してV		0		
フィブロ						な学習指導力を有して ミュニケーションをとる		0		
ポリシー		ひ生件に休りこと。	一対心でか	すり、誰と	ても誠夫にコ、	ミューケーションをこる) _ Z // ¹ C	0		
との関係		ざまな教育調 こと。	課題に対し	して、自ら	学ぶ力やチー』	いで取り組む協働性を身	アに付けて	0		
概要	前期は 軽に利用 後期は	紙と布を主材料として制作過程を理解しながらその技法を身につける。 前期は、紙を使用した張り子の作品を制作することを通して、紙の性質を理解し、身近にあって手 どに利用できる材料に親しみ、想像力と基本的な技術を養う。 後期は、様々な技法で布を染色し、染色の技法を身につけるとともに技法から生まれる模様の美し を感じ取る。最後に自分なりの作品を制作することで、発想力やデザイン感覚を養う。								
到達目標	(2) 課題	の内容を理解	昇し、使↓	やすいデ	ザインを考案す	に的な知識を身につける けることができる。 快された作品を創造する				
	口	授業内容				準備学習 (予習内容・時間)		青学習 容・時間)		
	1	授業の概要に	こついて			() 自四分,时间)	授業を振り	返って自己評		
	2	張り子作品に張り子面の作	こついて			事前に配ったプリントを 読む。0.5時間	価をする。 0.5 時間 授業を振り返って自己評 価をする。 0.5 時間			
	3	張り子面の制	削作			面の用途とデザインを考 える。 1時間	授業を振り返って自己評 価をする。 0.5 時間			
	4	面の土台作り		ニス		作成順序を考える。 0.5 時間	124214 - 224	返って自己評 0.5時間		
	5	面の土台作り) 1	- 2		前時を振り返り、骨組みの		返って自己評		
	6	② 骨組み 面の土台作り ① 紙貼り				仕上げを考える。0.5 時間 価をする 事前に配ったプリントを 授業を打 読む。0.5 時間 価をする				
授業内容	7	着色1				面のデザインを見直し、修	完成作品の	感想を書く。		
進め方	8	着色 2 仕上げ				正などをする。0.5時間	0.5時間授業を振り価をする。	返って自己評 0.5時間		
(前期)	9	首振り張り司 ① デザイン	11-311			学習プリントを読み、首を 振るデザインを考える。 1 時間	授業を振り価をする。	返って自己評 0.5時間		
	1 0	土台作り 1 ① 骨組み付	作り			張り子面政策を振り返り、 骨組み作りの順序を考え る。0.5時間	授業を振り価をする。	返って自己評 0.5時間		
	1 1	土台作り 1 ② 骨組み(乍り				価をする。			
	1 2	土台作り 2 ① 紙貼り				紙貼りの手順と貼り方を 考える。0.5時間	授業を振り 価をする。	返って自己評 0.5時間		
	1 3	着色1				色を決め、着色順序を考え る。0.5時間	価をする。			
	1 4	着色 2 部品の組みご	エて					感想を書く。 0.5 時間		
	1 5	鑑賞・評価					張り子作品 返り、自己記	の制作を振り 平価をする。 0.5時間		

	回	授業内容	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)			
	1	 染織について 染色技法のいろいろ	(1 El.144 MINI)	授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
	2	1 ろうけつ染め	事前に配ったプリントを 読む。0.5時間	授業内容・制作内容の振り 返り。0.5時間			
	3	染色する	200 THE 1710	授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
	4	2 絞り染め・格子しぼり染め	事前に配ったプリントを 読む。0.5時間	授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
	5	染色する		授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
授業内容	6	3 あらし絞り染め・折り縫い絞り染め	事前に配ったプリントを 読む。0.5時間	授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
الم	7	染色する		授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
進め方 (後期)	8	4 作品制作 テーブルクロス (1)デザインをする	テーマを決め、テーブルク ロスのデザインをする。 1 時間	授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
	9	(2)①デザインに合う技法で制作する	デザインに合う技法を考 える。1 時間	授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
	1 0	②染色する	染色の手順を復習してお く。0.5時間	授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
	1 1	(3)①デザインに合う技法で制作する	デザインに合う技法を考 える。0.5時間	授業を振り返って自己評 価をする。0.5時間			
	1 2	②染色する	染色の手順を復習してお く。0.5時間	授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
	1 3	(4)①縫製する		授業を振り返って自己評価をする。0.5時間			
	1 4	②仕上げ		完成作品の感想を書く。 0.5 時間			
	1 5	鑑賞・評価		染色の作業を振り返り、自 己評価をする。0.5 時間			
成績評	益 価	作品(関心・意欲・態度・技能・発想・ レポート(授業の振り返り・自己評価)					
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法		作品の評価・改善方法については、授業の中で随時指導する。					
テキストおよび 参 考 文 献		小学校学習指導要領 第7節 図画工作 中学校学習指導要領 第6節 美術					
メッセーな	ー ジ ど	基本をもとに作品を制作することを通して、創意工夫する能力や工芸への関心、美意識を高めるようにします。					

	ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率			
(1) 紙と布の素材の違い を認識し、技法及び 道具の基本的な知識 を身につけることが できる。	材の特性を技具の選出を対している。	身について いる。	紙材概しび用解るの性理法のはての性理法のはである。	び道具の使 用方法も理 解していな い。	定期試験 (知識・理 解・判断力)	10%			
(2) 課題の内容を理解 し、使いやすいデザ インを考案すること ができる。	課題理いず考とい のしずなで がなる。	りのデザイ ンを考案す	課題概、デあすで 内理般イばこる。 なで案が	なデザイン	作品	45%			
(3) 素材の違いを考慮し ながら、各自の製作 意図に反映された作 品を創造することが できる	素を自意のにない。 なは、作りののようでですがる。	素を自意のにはいい。 素を自意の作りになる。 ないる。	素材でし、製造のは、作いないでは、作い作がでいる。	素材の違いをでいる。またでは、ままでは、ままでは、ままでは、ままでは、いない。	・(関心・意欲・ 態度・技能・発 想・表現力)	45%			

	授業科	=		対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別			
Rhyt	リズム運 hmical Mo				教育学科 (育学専攻	20EPTS1015	1年次	前期			
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員					
演習		1	必	必修		濱村 徹弥					
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子さる (4) ささる 新学習	科・道徳等に も理解に深い こと。 ざまな教育語 こと。 指導要領のP									
概要	る。動き、	新子自指导安成の行者を聞まれ、名子中の建筑先足技術に応じたる先足頭の指导に フィーマス かったい 中学年の表現・リズムダンスを中心に、創作したり、踊りの振り付けを身に付けたりす。動きづくりを学びながら日本の踊りの独自性について理解する。また、ペアやグループ学習など学習方法を学びながら、指導をする上での基礎を学び、表現の楽しさを追求する。									
到達目標					_	ハて理解を深め、基本的 りを体験し、指導案を		:習得する。			
	回		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	時間) (復習内容・時				
	1	小学校の表	現領域の	構成			振り返り	1 時間			
	2	中学年の表現 題材を選ぶ-		学ぶ 一日常	生活の中から	日常生活から題材の案 を考えてくる。1時間	振り返り	1 時間			
	3	ペアで題材に	こついて話	し合い、構想	想をねる。	題材をいくつか考えて くる。1時間	振り返り	1時間			
	4	ペアで動き	をつくる	0		ペアで考えた題材の動き を考えてくる 1時間	振り返り	1時間			
	5	ペアで身体の動かし方や強弱のついた動き を工夫する。				ペアで考えた題材の動き を考えてくる 1時間	振り返り	1 時間			
	6	全体の構成	を考え、	振り付ける	え覚える。	ペアで考えた題材の動き を考えてくる 1時間	振り返り	1時間			
授業内容	7	ペア毎の発	表会を全	:体でおこな	こう。	振り付けを練習してく る1時間	振り返り	1 時間			
進め方	8	指導案を作	成する。			指導案の下書きをす る。1 時間	振り返り	1 時間			
	9	中学年のリ節」につい		'ス「ロック	ソーラン	体育編中学年「リズムダン ス」を読んでくる1時間	振り返り	1 時間			
	1 0	「ロックソ	ーラン節	i」の振りた	けの練習	振り付け資料を読んで くる1時間	振り返り	1 時間			
	1 1	発表会に向	けたグル	ープ練習	1	踊りの練習 1時間	振り返り	1 時間			
	1 2	発表会に向	けたグル	一プ練習	2	踊りの練習 1時間	振り返り	1 時間			
	1 3	発表会に向	けたグル	ープ練習	3	踊りの練習 1時間	振り返り	1 時間			
	1 4	グループ毎	の発表会	を全体でお	: :こなう。	踊りの練習 1時間	振り返り	1 時間			
	1 5	表現・リズ	ムダンス	のまとめ		まとめに備えた復習 1時間	振り返り	1 時間			

成績評価	授業での意見・質問・発表(知識・理解、思考力、判断力、表現力)30%、 指導案づくり(意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力)30%、 発表会・まとめの内容(意欲・関心・態度、思考力・判断力・表現力)40%
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法	授業中に踊りについての良い点、改善点を伝えていく。踊りの発表は、学生同士 が互いに評価しフィードバックする。また教員からも同様に行う。
テキストおよび 参 考 文 献	小学校学習指導要領 第9節 体育 小学校学習指導要領解説 体育編 授業時に随時資料を配付
メッセージ な ど	小学校教諭二種免許状:必修科目

	ルーフ	ブリック評価を	:用いた成績評	严価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 表現やリズムダンス の振り付けを考えた り、審議の中で付加・ 修正をしたりしる指 導法を習得する。	表現の基本 的な授業分 に理解している。	大なくだい 受業が を理解している。	多い が、	表現の授業 づくりをてい ない。	授業での 見・質問・ 表 (知識・理 解、思考力、 判断力、 力)	30%
(2) 個人練習からペア練習・グループ練習、そして発表までの授業づくりの流れを理解して、指導案を作成する。	表現などを出る。表現を表現を表現を表現を表現を表して、表現である。	大なく きく、 業理解を 指導できる。	多いが、業理等を指できる。	表現のおきない。	授業での取り 組み・意度) 関心・態度) 指導案力・表 (思力・表現 力)	30%
(3) 発表会での表現力が 十分にあり、表現・ リズムダンスの指導 について自分なりの 考えをもっている。	十分な表現力があり、表現があり、ズムダができる。	表大が現がままれる。は題表ム指きる。	多少の間違 いが、ありで があが ずる。	表現の技能 を習得でき ず、指導が できない。	発表会・まと めの内容 (意欲・関心・ 態度、思考力・ 判断力・表現 力)	40%

	授業科	 		対象学	:科・専攻	ナンバリング	年 次	期別	
Н	家庭 ome Econ	omics			数育学科 (育学専攻	20EPTS1016	1年次	通年	
講義・演習・	講義・演習・実技・ 実習・実験 単位数 卒業認定 担当教員								
演習		2	選	選択		田中 靖子			
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に `も理解に深い こと。	ついて知い関心を打	職や技能を 寺ち,誰と	と磨き、実践的 でも誠実にコミ	月性と人間性を有していな学習指導力を有して、 な学習指導力を有して、ユニケーションをとる いで取り組む協働性を身	いること。	0 0 0	
概 要	する。全		扱い、指	導案の作品		解する。教育実践に必 擬授業を体験する。模			
到達目標	(2) 実技	指導に関する	基礎的な	お細・技能	点を分かりやす 能を身に付ける ことができる。	├く説明できる。 ら。			
	口		授美	業内容		準備学習 (予習内容・時間)		背学習 容・時間)	
	1	ガイダンス				指導要領解説(以下解説) p5~p10を読んでお く。2時間。	お する。 2時間。		
	2	学習指導要領	負(目標・	内容)		解説 p 1 2 ~ p 1 9 を読 んでおく。 2 時間。	授業で学ん する。 2時間。	だ内容を復習	
	3	指導計画の作	作成と内容	の取扱い		解説 p 7 1 ~ p 8 3 を読 んでおく。 2 時間	授業で学ん する。 2時間。	だ内容を復習	
	4	「家族・家庭	至生活」の	内容		解説 p 2 0 ~ p 3 1 を読 んでおく。 2 時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。		
	5	「家族・家庭	至生活」の	指導		児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	だ内容を復習		
	6	「家族・家庭	至生活」の	実技演習		児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	2時間。 授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。		
授業内容 と	7	「食生活」の・食事の名)内容 设割と調理	の基礎		解説 p 3 4 ~ p 4 8 を読 んでおく。 2 時間。	授業で学ん する。 2時間。	だ内容を復習	
進め方 (前期)	8)教材を使 具の取扱い	った調理実を	¥1	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。		だ内容を復習	
	9	「食生活」の)教材を使	った実践研究	宪	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。		だ内容を復習	
	1 0	「食生活」の		った実験実) =	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。		だ内容を復習	
	1 1	「食生活」の		った調理実	3 2	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。		だ内容を復習	
	1 2	「消費生活と	:環境」の	内容		解説 p 6 4 ~ p 7 0 を読 んでおく。 2 時間。		だ内容を復習	
	1 3	「物や金銭の)使い方と	買い物」の打	指導	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間		だ内容を復習	
	1 4	「環境に配慮	意した生活	」の指導				だ内容を復習	
	1 5	まとめ				授業全体を振り返る。 2時間。		振り返り考え 2時間。	

			準備学習	準備学習				
	口	授業内容	(予習内容・時間)	(復習内容・時間)				
	1	「衣生活」の内容	解説 p 4 9 ~ p 5 7 を読 んでおく。 2 時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間				
	2	「衣生活」の実技演習①	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習する。 2時間				
	3	「衣生活」の実技演習②手縫いの基礎	児童用教科書の該当ページを読んで安全上の留意点をまとめておく。 2時間	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	4	「布を用いた製作」材料と手順	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	5	「布を用いた製作」ミシンの基礎	児童用教科書の該当ページを読み、ミシン操作の手順を予習しておく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	6	「布を用いた製作」製作①	児童用教科書の該当ページを読み、製作上の留意点をまとめておく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
授業内容 と 進め方	7	「布を用いた製作」製作②	児童用教科書の該当ページを読み、作品完成までの 手順をまとめておく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
(後期)	8	「住生活」の内容	解説 p 5 8 ~ p 6 3 を読 んでおく。 2 時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	9	「快適な住まい方」の実技演習	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	1 0	「食生活」の栄養指導 ・1食分の献立作り	児童用教科書の該当ページを読んでおく。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	1 1	指導案の作成と模擬授業の準備	配付資料を読んでおく。 ・共通課題の指導案を考える。 2時間。	授業で学んだ内容を復習 する。 2時間。				
	1 2	指導案の作成と模擬授業の準備	配付資料を読んでおく。 ・共通課題の指導案を考える。 2時間。	模擬授業の準備をする。 2時間。				
	1 3	模擬授業の実践と改善点の討議	模擬授業の流れを確認する。 2時間。	改善点をまとめる。 2時間。				
	1 4	模擬授業の実践と改善点の討議	模擬授業の流れを確認する。 2時間。	模擬授業で学んだことと 改善点をまとめる。 2時間				
	1 5	まとめ	授業全体を振り返る。 2時間。	家庭科授業の意義と重要性をまとめる。 2時間。				
成績割	平 価	定期試験(知識・理解)50% 実習への取り組み・作品の完成度(関心・意欲、技能)30% 模擬授業への取り組み・討議への参加態度(関心・意欲・態度)20%						
課題 (試験・ 等) に対 フィードバック	する	評価できる点や改善点を、口頭又は文	書で指導する。					
テキストお 参 考 対		小学校家庭科教科書 「小学校学習指導要領解説 家庭編」文部科学省						
メッセ、な	ージど	小学校家庭科は、生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための自立の基礎を培 う教科です。 小学校教諭二種免許:選択必修科目						

	ルーフ	ブリック評価を	と用いた成績評	 ² 価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 小学校家庭科の内容・指導上の留意点を分かりやすく説明できる。	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 説 明 で き る。	不足してい る部分はあ るが、説明 できる。	説明できて いない。	定期試験	30%
(2) 実技指導に関する基 礎的な知識・技能を 身に付ける。	実習に積極的 と 基礎 かん 基礎 ・ 基礎・ 技な知識・ 技能を十分に	し、基礎的 な知識・技 能を身に付	基礎的な知 識・技能は 身に付けて作 いる製作には	基礎的な知識・技能を 十分身に付けていない。	定期試験	20%
	身に付けている。		個別指導が必要である。	•	実習態度・作品の完成度	30%
(3) 模擬授業を行い、改善点を協議することができる。	模導に 接導こ、 協議を が業で 機 をが業 で きる。	指導案を書 くことがで き、授業後	模類ない 接導とがへ で を は、 の 足 が い る 点 が い る。 と が る。 と が る。 と が る。 と る。 と が る。 と る。 と	模擬授業の 指導案を書 くことがで きない。	模擬授業への 取り組み・協 議への参加 (関心・意欲・ 態度)	20%

	授業			対象	学科•専攻	ナンバ	リング	年次	期別		
Foreig		国語 guage(English	1)	児童教育学科 初等教育学専攻		21EPT	S1017	1年 次	通年		
講義·演 習·実技 実習·実際	•	· 単位数 卒			差 認 定 担当教員				実務家教員		
演習		2	j	選択		堀尾 邦	子				
	(1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している ディプロマ・ こと。 ポリシーとの (3) 子ども理解に深い関心をもち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができ							0			
	(4	ること。 (4) 様々な教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけていること。									
概要	小学校 身に付		舌動・外国	語科の授	業実践に必要な	実践的な英語運	用力と英語に	関する背	景的な知識を		
到達 目標	(1)-2) (1)-3) (1)-4) (2)-1) (2)-2) (2)-3) (2)-4)	授業実践に必要な 授業実践に必要な 英語に関する基本 第二言語習得に関 児童文学(絵本、 異文化理解に関す	は話す力[は読む力を は書く力を に的な事材 関する基本 子供向ける	やり取り・ションを身に付けまりに付けまりに付けます。 (音声、話本的な事をの歌や詩学	発表]を身に付け けている。 ている。 吾彙、文構造、文法 所について理解して 等)について理解して	生、正書法等)に ている。 している。			学と博多キ		
授業内 容と 進め方	ャンパ遠隔接	スに大型ディス 受業を開始した。 	プレイ、		カメラ、パソコン	等遠隔授業用	の機器を準	備し、zo	oom による		
	1	外国語活動・ について歴史 学ぶ。英語の 声・語彙・文権 法等)について Unit1,2 の英 ぶ。 "Hello Son song"を覚える	的背景も 基本的事 構造・文法 知る。 語の挨 g", "G	含めて 事項(音 法・正書 拶を学 oodbye	予習内容 "Let's Try 1" Unit1・2を 予習	1時間	復習内		復習時間		
	2	「数えて遊ぼう 伝えよう」、の身 学 ぶ。"Ten RainbowSong	英語語彙・ Steps"	·表現を 、"The	"Let's Try 1" Unit 3・4 を予習		単語や表現	を復習	1 時間		

3	「何が好き」、「アルファベット」、 の英語語彙・表現を学び、活 字体の大文字の指導の基本を 知る。	"Let's Try 1" Unit5・6を予習 1時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
4	日本語と英語の音声の違いに 気付き、「形の言い方」、「欲し いもののやり取り」の表現を知 る。	"Let's Try 1" Unit7を予習 1時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
5	外来語と英語の違いに気付き、物を尋ねる表現 "What's this?"に慣れ親しむ。	"Let's Try 1" Unit8を予習 2時間	1時間	単語や表現を復習	1 時間
6	日本語と英語の音声やリズム の違いに気付き、人とやり取り をする"Who are you?"の表現 に慣れ親しむ。絵本を聞いて 凡その内容が分かる。	"Let's Try 1" Unit9を予習 3時間	1時間	単語や表現を復習	1 時間
7	外国語であいさつや、世界の 多様な考え方、動作・遊び・天 気の言い方に慣れ親しむ。	"Let's Try 2" Unit1・2を予習 4時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
8	曜日の言い方ややり取り、時刻 や生活時間について伝え合う。	"Let's Try 2" Unit3・4を予習 5時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
9	文房具や学校で使う物のやり 取りに慣れ親しむ。アルファベットの活字体の大文字・小文字 とその読み方に慣れ親し む。"ABC Song"を歌う	"Let's Try 2" Unit5・6を予習 6時間	1 時間	単語や表現を復習	1時間
10	食材の言い方や、欲しいものを 尋ね要求する表現に慣れ親し む。各自の考案メニューを紹介 し合う。	"Let's Try 2" Unit7を予習 時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
11	世界と日本の学校生活や教科 名・教室名の言い方に慣れ親しむ。	"Let's Try 2" Unit8を予習 時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
12	日本語と英語の音声やリズムなどの違いに気付き、日課を表す表現に慣れ親しむ。絵本などの短い話を聞いて凡その内容が分かる。	"Let's Try 2" Unit9を予習 9時間	1 時間	単語や表現を復習	1時間
13	本講義を聞いて身に付けた英語の基本的事項(音声・語彙・文構造・文法・正書法等)について振り返る。第二言語習得について学び、外国語の習得とコミュニケーション能力について考える。		1 時間	単語課題レポート 作成・提出	1 時間
14	英語の絵本・童話・歌などについて知る。音楽や日常生活の中で知っているお話、歌を理解したり覚えたりする。 (Mother Goose 他)	音楽の時間に学 ぶ歌、日常聞く お話、絵本等調 べる	1 時間	課題レポート作成・ 提出 1 時間	1時間
15	異文化理解に関する事柄について調査し学生同士の意見交換を経て理解する。	異文化理解について資料を調べる1時間	1 時間	課題レポート作成・ 提出 1 時間	1 時間
16	教科書・指導書の内容確認と 使い方について知る。英語の 基本的事項(音声・語彙・文構 造・文法・正書法等)について 知る。Lesson1自己紹介の指	One World Smiles6 Lesson1 Let's be friends. を読む	1 時間	単語や表現を復習	1 時間

	導計画を概観し、単元全体の				
	特導について大まかに捉える。				
	指導内容を CD・DVD を視聴				
	して練習する。				
	"Let's Watch",	Lesson 1 Let's			
17	"Let's Say It Together.",	be friends.	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
	"Let's Think"の音声を聞き、	を読む			
	自己紹介の英語表現を練習す				
	る。 (p16~19)				
	指導書(p20~26)の内容の音				
	声を聞いて自己紹介のやり取り	Lesson 1 Let's			
18	を練習する。	be friends.	1時間	単語や表現を復習	1時間
	"Activity", "Let's Read and	を読む			
	Write"、"ジングルコーナー"				
	指導書(p24~25)"Sounds	Lesson 1 Let's			
19	and Letters", "Review"の確認と振り返り。音声テスト・ミニテ	be friends.	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
	ここがり返り。自戸ノスト・ミーノ スト・書き取りテスト実施	を読む			
	Lesson3「好きな日本の文化」	T 0			1 時間
	の指導計画を概観する。指導	Lesson 3			
20	内容を CD·DVD の音声を聞	Welcome to	1 時間	単語や表現を復習	1時間
	き、日本文化や食べ物の表現	Japan.を読む			
	を知る。(指導書 p38~43)	1時間			
	季節の行事や食べ物について	Lesson 3			
21	CD・DVD を視聴し練習する。	Welcome to	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
21	"Activity", "Let's Read and	Japan.を読む	Ⅰ 由4月间	平明(私先を接自	T h4.1111
	Write"の活動について知る。	1時間			
	指導書(p48~51)"Sounds	Lesson 3			
22	and Letters", "Review"の確	Welcome to	1時間	単語や表現を復習	1 時間
22	認とふりかえり。音声テスト・ミニ	Japan.を読む	T h社目1	平阳 (T h4.11b1
	テスト・書き取りテスト実施	1時間			1 時間
	Lesson5行きたい国の指導計	Lesson 5 What			
	画を概観し、単元の指導を考	country		単語や表現を復習	
23	える。CD・DVD を視聴し、表	do you want to	1時間		Ⅰ時間
	現できる国名を増やす。	visit? を読む			
	(指導書 p64~69) 指導書(p70~73)の音声を聞				
	き、行きたい国について尋ね合	Lesson 5 What			
24	う表現を練習する。	country	1時間	単語や表現を復習	1 時問
	"Activity", "Let's Read and	do you want to	T 1.4 IH1	7 FE (\$ 700 X E	T 1.0 (H)
	Write"	visit? を読む			
	指導書(p74~75)"Sounds	Lesson 5 What			
	and Letters", "Review"で行	country			
25	きたい国の紹介を聞き合いふり	•	1時間	単語や表現を復習	1 時間
	かえる。音声テスト・ミニテスト・	do you want to visit? を読む			
	書き取りテスト実施	41010. C P/U/L			
	Lesson8 将来の夢の指導計画	Lesson 8 What			
0.0	を概観する。将来の夢につい	do you want to	1 11-1-11	出来の手垣を作力	1 11-11-
26	てCD・DVDを視聴し、英語表現な練習する(特質書 n104	be? を読む	1時間	単語や表現を復習	I 時間
	現を練習する。(指導書 p104 ~107)	1 時間			
	~1077 自分がつきたい職業を聞いた				
	り言ったりする。自分がつきた	Lagger O William			
	い職業紹介のシートを作成、発	Lesson 8 What do you want to			
27	表。"Activity", "Let's	be? を読む	1時間	単語や表現を復習	1時間
	Read and Write"	1時間			
	指導書(p108~109)				
	4 4	l .		I.	

	28	指導書(p110~113)"Sounds and Letters", "Review"の確 認とふりかえり。音声テスト・ミニ テスト・書き取りテスト実施	Lesson 8 What do you want to be? を読む 1 時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
	29	授業実践に必要な、聞く、話す、読む、書く力の習熟度を確認。今後の自己学習の課題を 見いだす。	"Let's Try 1・2" を読み返し、復 習する。1時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
	30	これまでの学習内容をふりかえり英語に関する基本的な事項(音声、語彙、文構造、文法、正書法)の習熟度を確認。今後の自己学習の課題を見いだす。	"One World Smiles 6"の教科書、指 導資料を読み返 し復習する。 1時間	1 時間	単語や表現を復習	1 時間
成 績	成績評価 小テスト(80%)、課題・レポ					
課題(試験 ート等) に フィードノ 方法	対する ジクの	一人一人確認する。				
テキスト:参考さ		前期… "Let's Try 1" "Let' 後期… "One World Smile	-			
メッセージなど		外国語の授業を通して、英語 あるという、異文化に対しての			こはいろいろな文化・	や価値観が
		小学校教諭二種免許状 …	必修			

	,	レーブリック評価	を用いた成績評	価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)-1) 授業実践に必要な聞く力を身に付けている。	ほぼ完璧に身 に付けている。	大きな間違い がなく、聞く力 を身に付けて いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 身に付けてい る。	身に付けていない。	小テスト (知識・理解・技 能)	20%
(1)-2) 授業実践に必要な話す力[やり取り・発表]を身に付けている。	ほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違い がなく、話す力 を身に付けて いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 身に付けてい る。	身に付けていない。	小テスト (知識・理解・技 能)	20%
(1)-3) 授業実践に必要な読む力を身に付けている。	ほぼ完璧に身 に付けている。	大きな間違い がなく、読む力 を身に付けて いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 身に付けてい る。	身に付けていない。	小テスト (知識・理解・技 能)	20%
(1)-4) 授業実践に必 要な書く力を身に付 けている。	ほぼ完璧に身 に付けている。	大きな間違い がなく、書く力 を身に付けて いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 身に付けてい る。	身に付けていない。	小テスト (知識・理解・技 能)	10%
(2)-1) 英語に関する基本的な事柄(音声、 語彙、文構造、文 法、正書法等)について理解している。	ほぼ完璧に理 解している。	大きな間違い がなく理解して いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 理解している。	理解していない。	小テスト (知識・理解・技 能)	10%
(2)-2) 第二言語習得 に関する基本的な事 柄について理解して いる。	ほぼ完璧に理 解している。	大きな間違い がなく理解して いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 理解している。	理解していない。	課題・レポート	5%
(2)-3) 児童文学(絵本、子供向けの歌や詩等)について理解している。	ほぼ完璧に理 解している。	大きな間違い がなく理解して いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 理解している。	理解していない。	課題・レポート (技能)	10%
(2)-4) 異文化理解に 関する事柄について 理解している。	ほぼ完璧に理 解している。	大きな間違い がなく理解して いる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 理解している。	理解していない。	課題・レポート	5%

	授業科	<u> </u>		対象学	対・専攻	ナンバリング	年 次	期別
S	特別講 pecial Led	-		-	教育学科 故育学専攻	20EPSL1001	1年次 2年次	後期 前期
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員		
講義		2	追	選択		山本 直俊		
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教科寺について知識や技能を磨さ、美践(3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠とること。				、実践的指導力でも誠実にコミ り方に対して限 こと。	つを有していること。 ミュニケーションをとる 関心を持ち、自ら学ぶ力	うことがで	0
概要	題(「学力	」向上方策」	「開かれた	こ学校づく		る学校環境づくり」「教		
到達目標	(1) 教育課程に関する法制、教育課程の編成及び実施、教科等の目標の構造等に対して関心を持 その全体的概要・要点を把握することができる。 (2) 授業づくり、学級経営、教員研修の在り方等に関心を持ち、基礎的な事柄について理解する とができる。 (3) 今日的教育課題について関心を持って理解し、自分なりの考えを述べることができる。							理解するこ
	回		授	業内容		準備学習 (予習内容・時間)	(復習内:	育学習 容・時間)
	1	オリエンテ 基礎・基本 「学習指		(特別講家 測編を読み			総則 P11~ 160~187 ℓ	
	2	「学習指	導要領総	則編を読み	メ解く」	総則 P17~53 要点整理	総則 P17~ メント	53 整理・コ
	3	「学習指	導要領総	則編を読み	メ解く」	総則 P58~72 76~121 125~127 の要約	125~127 メント	72 76~121 の整理・コ
	4		基礎・基本編 2 「教科等の目標等把握の仕方」			総則 P3 算数科 P21~72 特別活動 P11~20 43 ~12 の 7 要約	算数科、料理・コメン	別活動の整
	5		社、理、	把握の仕力 生活科、約	万」(演習) 総合等から一	図式化による要約	教科等目標冊子として	を整理し、
授業内容	6	基礎・基本 「授業づ					授業づくり理	の要約・整
進め方	7	「授業づ (算数科		に演習・記	寸議)	指導略案①作成	指導略案①	
	8	「授業づ (算数科		に演習・言	寸議)	指導略案②作成	「授業づく ントのまと	り」のポイめ
	9	対応」		— — 員研修」「扌	采用試験問題	どのような学級経営・ 研修をしたいか。メモ 作成		
	1 0	今日的課題 「学力向	編 1 上総合方	策」		学力向上総合方策を自 分なりに考える	学力向上総理	総合方策の整
	1 1	今日的課題 「開かれ	編 2 た学校づ	5くり」		開かれた学校とはどん な学校か。メモの作成		
	1 2		た学校づ	5くり」			開かれた学 全体的要約	ど校づくりの J
	1 3	今日的課題;		 なぐ教育行	「政の在り方」	教育行政は何をする所 か。描くイメージは		
	1 4	「学校活	性化につ	なぐ教育行	「政の在り方」		教育行政に なりの考え	上対する自分 整理

	1 5	今日的課題編 4 「ゆとりある学校環境づくり」	ゆとりある環境づくり のねらいは何か。コメ ント				
成 績 評	価	ペーパーテストによる理解度の把握 40%、 講義過程でのレポートの内容(理解)の把握 30%、 講義中の取り組み(意欲、態度)の把握 30%					
課題 (試験・レ 等) に対す フィードバック	つる	レポート等は、コメントを書いて返却する。					
テキストお。参考文		○小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説(総則編、算数、理科、国語、社会、生活、道徳、総合、特別活動編) ○講義要項・関連資料をプリントし配布する。					
メッセージなど		を開発を表す。関連員科をクランドで記述する。 教育推進への関わり、自己研修に対するやりがいについて、教育現場での様々な体験を交えて講義します。学生の皆様が将来、広い視野で教育に尽力され、成長されていくことを心から願っています。					

	ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率			
(1) 教育課程に関する法制、教育課程の編成及び実施、教科等の目標に構造等に対して関心を持ち、その全体的概要・要点を把握することができる。	意 欲 が あ り、ほぼ完 全に把握し ている。	不いがあり、おからがあり、おかがないがありません。	細かい点の 把握 意 う 、 大 で 、 大 て い る。 と て い る。 と て い る。 と て い る。 と て い る。 と て り る。 と て り る。 と る。 と る。 と る。 と る。 と る。 と る。 と る。	意欲はある が、把握し ていない。	筆記試験 レポート 授業に対す る取り組み	40%			
(2) 授業づくり、学級経営に関心を持ち、基礎的な事柄について理解できる。	意 欲 が あ り、ほぼ完 全に理解し ている。	意 欲 が あ り、大きな 間違い理解 く、理解 ている。	不十分さは いくのが、 があり、 があり、 体理解しいる。	意欲はある が、理解し ていない。	レポート 授業に対す る取り組み	30%			
(3) 今日的教育課題に対して、理解・関心を示し、自分なりの考えを述べることができる。	課のの 関的の分 の の の の な が が で で で で で で で で で で で で で	課題に対す る関心は強いが、自分の考えのと とや弱い。	課題に対す は別が、 の考え が を不 ある。	課題 は は な は な が は か は か さ え と い 。 か さ い 。	レポート 授業に対す る取り組み	30%			

	授	受業科目名		対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期別	
Tea	achir	現代教師論 ig Modern Tea	ıchers	児童教育学科 初等教育学専攻	20EPBE1001	1年次	後期	
講義・演習・ 技・実習・実		単位数	卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員	担当教員		
講義		2	必修	必修	清武 輝		単独	
			ディ	プロマ・ポリシーとの関	 「			
1	何事	にも誠実に取り糺	lみ、教育者にふ	さわしい人間性と専門性を	そ有している。		0	
2				磨き、実践的な学習指導力				
3	子ど	も理解に深い関心	』を持ち、誰とで	も誠実にコミュニケーショ	」ンをとることができる	5.	0	
4	さま	ざまな教育課題に	対して、自ら学	ぶ力やチームで取り組む協	A働性を身につけてい な	る。	0	
科目				施行規則に知	定める科目区分又は	事項等		
教育の基礎的	内理角	解に関する科目	教職の意	意義及び教員の役割・職	務内容(チーム学村	交運営への対	応を含む。)	

〇コアカリキュラム:教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)

全体目標:現代社会における教職の重要性の高まりを背景に、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職の在り方を理解する。

(1) 教職の意義

一般目標:我が国における今日の学校教育や教職の社会的意義を理解する。

到達目標:1)公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を理解している。

2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を理解している。

(2) 教員の役割

一般目標:教育の動向を踏まえ、今日の教員に求められる役割や資質能力を理解する。

到達目標:1) 教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解している。

2) 今日の教員に求められる基礎的な資質能力を理解している。

(3) 教員の職務内容

一般目標:教員の職務内容の全体像や教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。

到達目標:1) 幼児、児童及び生徒への指導及び指導以外の校務を含めた教員の職務の全体像を理解している。

- 2) 教員研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。
- 3) 教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。

(4) チーム学校への対応

一般目標:学校の担う役割が拡大・多様化する中で、学校が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について 理解する。

到達目標: 1) 校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。

【全体目標及び概要】

国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を認識するとともに、その担い手としての教職の意義・役割・ 職務内容、教育をとりまく現況や今日的課題などを明確に理解することを通して、教員に求められる基礎的な資質能力 を身に付け、教職をめざす者としての確固たる覚悟を培う。

【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) 教職の意義・教員の身分 一般目標:国民の大きな負託の中で営まれる学校教育の社会的意義を理解する。 到達目標:1)学校教育の目的とその担い手である教職の存在意義を説明できる。	(1)-1) (2)-1)
到達目標:2)教職の制度上の身分、専門職としての教員免許制度を自分の問題として説明できる。	(1)-2), $(3)-3)$
(2) 教員の役割・職務内容 一般目標:教職の職業的特殊性を認識し、これからの学校組織の在り方としての「チーム学校」の 概念や組織の一員として各専門分野の人々と連携して諸課題に対応することの必要性	
について理解する。 到達目標:1)教職の勤務実態を調べ、他の職業と比較した職業的特殊性を説明できる。	(1)-2) (3)-1)
到達目標:2)学校の担う役割が複雑化・多様化する中で、いわゆる「チーム学校」という組織の一 員としての在り方を具体的にイメージできる。	(2)-1),(4)-1)
(3) 教員の資質・能力 一般目標:学校教育の成否は、教員の資質能力に負うところが大きく、これからの時代に求められ る学校教育を実現するためには、生涯にわたって学び続けることの必要性を理解する。 到達目標:1)専門職としての身分保障、職務遂行の義務を踏まえて、生涯にわたって「学び続ける	(3)-2)
教師」であるための研修の全体像、権利と義務を具体的に説明できる。 到達目標:2) 求められる教師像について考察し、めざす教師像を述べることができる。	(2)-2)
到達目標:3)教育をとりまく今日的な諸課題を把握し、対応の仕方について具体的に述べることが	
できる。	(2)-1), $(4)-1)$

回数	現在拳		準備学習	準備学習	到達目標の		
巨奴		【清武 輝】	(予習内容・時間)	(復習内容・時間)	番号		
1	オリエンテー 学ぶか—	ション 一現代教師論で何を	テキストの3ページから13ペー ジを読む。1時間	振り返りシートにまとめ る。1 時間	1 -1)		
		① 一子どもたちにどう向き	テキストの26ページから34ペー	子どもたちにどう向き合う	1 - 2)		
2	合うかー		ジまでを読む。1時間	か振り返りシートにまとめ る。1 時間			
		② 演習 -私のであった先	「好きだった先生・嫌いだった先	振り返りシートにまとめ	3-2)		
3	生一		生」について考えをまとめてく	る。1 時間			
			る。1時間 採用試験を受ける県・市の	振り返りシートにまとめ	3-2)		
	製師力一 教師力一	③ 一求められる教師像・	「求める教師像」を調べ、テ	る。1時間	3-2)		
4	我加力力		キストの72~87ページを読	.00 I milled			
			む。2時間				
_	目指す教師像	④ −教師間の確立のために	テキスト164ページから180ペー	どのような教師を目指す	3-2)		
5	_	(Control of Marine)	ジまで読む。1時間	か、考えを整理する。2時間	· • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		
	教師の職務(1)	-教職の特殊性、勤務実	「教師の1日の仕事」につ	教職の特殊性について考え	3 - 2)		
6	態、教員の多		いて想像し、メモしてくる。	をまとめる。2 時間	·		
			1時間				
7	教師の職務②	- 教師の具体的な職務	テキスト 57 ページから 70	教師の職務内容について考	2-1)		
(_		ページまで読む。1 時間	えをまとめる。1 時間			
8	教師の職務3) 一働き方改革と「チーム学	テキスト141ページから159ペー	「チーム学校」について考	2-2)		
	校」の一員・済	組織における役割-	ジまで読む。1 時間	えをまとめる。1時間			
9	教員の身分①	一身分、免許一	テキスト 91 ページから 105 ページまで読む。1 時間	法令問題等のプリントで復 習する。1時間	3 -3)		
1 0	教員の身分②	-服務、身分保障-	テキスト109ページから122 ページまで読む。1 時間	法令問題等のプリントで復 習する。1 時間	3 -3)		
	教員の身分(3)	- 求められる資質・能力	テキスト125ページから138	学び続ける教師と研修につ	3-3)		
1 1	と研修一	7.7.5.4.6.5.4.5.4	ページまで読む。1時間	いて考えをまとめる。1 時	,		
				間			
		く現状と課題①	テキスト187ページから219ペー	教育を取り巻く多くの課題	3 - 3)		
1 2	ー不易の課題	と流行の課題―	ジまで読む。2時間	について分類、整理する。			
	₩☆メ・ト.ト. N 光	ノゴト(上)、無限者(の)	= 田田のマヤートフ ウ ハナい のヤー	2時間 課題への対応について書物	3-1)		
1 3		く現状と課題② に対応するカー	課題に対する自分なりの対 応についてまとめてくる。	やインターネット等で調べ	3-1)		
1 0	(英日	(CV)/(CV)	1時間	る。2時間			
	教育を取り巻	く状況と課題③	自分が関心のある課題につ	課題への対応について、今	3-1)		
1 4		に対応するカー	いて、発表にむけた準備を	後学習を深める内容をまと	3 1,		
			する。2時間	める。2 時間			
	まとめ -	―教師をめざして―	現代教師論を終えるにあた	自己評価をもとに、今後の	1-1) 3-1) 3-2)		
1 5			って、自分が目指す教師像	在り方について、考えをま			
1 0			とそのための取組を書いて	とめる。2時間			
			くる。1 時間				
定期	試 験	実施する					
. = ./1							
+> 4-	≑π :	□ 中国主事 □ 中国主事 □ () 中国主事 □ () 中国主事 □ () 中国主事 □ () 中国主事	. 200/ 極楽 - の中 1/417 /	辛勞。問之 松声\ 400/			
成績	評 価 法		:30%、授業への取り組み(ョン・レポート(思考力・判				
	広	興百・ノレセンテーン:	ョン・レルート(忠右刀・刊	四/// * 衣光/// 30%			
am H /-1	. , , , ,						
課題(試験			テニ) シ) ユ キュー ガ ニ 戸 畑	ロナシェンロナロントッ			
等)に対			こコメントを書き、次の授業	時に返却する。			
フィードバ	フィードバックの方法						
テキストおよび テキスト:『現代の教師論 ミネルバ書房 佐久間亜紀・佐伯胖(編書) 』							
参考文献 資料プリントはその都度配布							
		「教師とは何か」という	う原点に立ち、教職を目指す	上での皆さん自身の課題の	解明を中心に、		
メッセ	z ー ジ		深い学び」を通して、自分の				
な	ど	いと願っています。					
		小学校教諭二種免許状:	必修				

		ルーフ	ブリック評価を	別いた成績評	平価		
	到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1)	学校教育の目的 とその担い手で ある教職の存在 意義を説明でき る。	ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 説 明 で き る。	間違いはい くつかある が、説明で きる。	説明できて いない。	定期試験(知 識・理解)	10%
(1)-2)		ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 説 明 で き る。	間違いはい くつかある が、説明で きる	説明できて いない。	定期試験(知 識・理解)	15%
(2)-1)		ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 説 明 で き る。	間違いはい くつかある が、説明で きる。	説明できて いない。	定期試験 (知識・理 解)	10%
(2)-2)	学校の担う役割 が複雑化・多様化 する中で、いわゆ る「チーム学校」 という組織の在り 」方を具体的にイ メージできる。	ほぼ完璧に イメージで きる。	認識に大き な間違、具 なくイメ がにきる。	認識の間違 いはるが、 イメを きる。	イメージが できていな い。	課題レポート (関心・意 欲・態度・思 考力・表現 力)	10%
(3)-1)		ほぼ完璧に 説 明 で き る。	大きな間違 いがなく、 説 明 で る。	間違いはい くつかある が、説明で きる。	説明できて いない。	定期試験 (知識・理 解)	15%
(3)-2)	求められる教師 像について考察 し、めざす教師像 を述べることが できる。	ほぼ完璧に 自分の考え を述べてい る。	大きな問題も なく、の考えを の考えを べている。	認識にいりがあり、ものでは誤いがものではいりできる。	自分の考え を述べてい ない。	課題レポート (関心・意 欲・思考力・ 判断力・表現 力)	20%
(3)-3)	教育をとりまく 今日的な諸課題 を把握し、対応の 仕方について具 体的に述べるこ とができる。	ほぼ完璧に 述べること ができる。	大きな間違いがなく、 具体的に述べることができる。	間違いある が、具体 が、 に が と が る。	具体的に述 べることが できていな い。	課題レポート (関心・意 欲・思考力・ 表現力)	20%

授業科目名				対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期別	
教育原論 Principles of Education				児童教育学科 初等教育学専攻	20EPBE1003	1年次	前期	
講義・演習・ 技・実習・実		単位数	卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員		担当形態	
講義		2	必修	必修	井上 和信		信単独	
			ディ	プロマ・ポリシーとの関	 			
1	何事にも	誠実に取り組	且み、教育者にふ	さわしい人間性と専門性を	そ有している。		0	
2	各教科・対	道徳等につい	て知識や技能を	磨き、実践的な学習指導力)を有している。			
3	子ども理解	解に深い関心	」を持ち、誰とで	も誠実にコミュニケーショ	コンをとることができ	5.	0	
4	さまざまさ	な教育課題に	対して、自ら学	ぶ力やチームで取り組む協	8働性を身につけてい	5。	0	
	科	目		施行規	則に定める科目区分	アは事項等		
教育の	基礎的理	里解に関す.	る科目		:並びに教育に関する する社会的、制度的			

〇コアカリキュラム:教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想

全体目標:教育の基本的概念は何か、また、教育の理念にはどのようなものがあり、教育の歴史や思想において、それらがどのように現れてきたかについて学ぶとともに、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、変遷してきたのかを理解する。

(1) 教育の基本的概念

一般目標:教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。

到達目標:1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。

2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。

(2) 教育に関する歴史

一般目標:教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。

到達目標:1)家族と社会による教育の歴史を理解している。

- 2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。
- 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。
- (3) 教育に関する思想

一般目標:教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。

到達目標:1)家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。

- 2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。
- 3) 代表的な教育家の思想を理解している。

	【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
		二 / 日 伝 八 / 心
(1) ₹ 1)	数育について、哲学的・歴史的にとらえ基本的な内容を理解している。 教育原論とは何かが説明できる。	(1)-1),2)
2)	カントの言葉をもとに、教育とは何かについて説明できる。	(3)-3)
3)	現代の学校制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	(3)-2)
4)	教育方法の先人たちについて、その特色の概要を説明できる。	(3)-3)
(2) 1)	日本の教育について、歴史・法律・制度・指導法・評価から多角的にとらえ理解している。 古代から現代にいたる日本の教育の歴史を、時代ごとの特色を踏まえて説明できる。	(2)-1), (3)-1)
2)	日本の教育の基本的なスタンスについて、学校制度や教育基本法の条文から説明できる。	(2)-2)
3)	学校経営や学級経営の重要性を、具体的な事例をもとに説明できる。	(3)-2)
4)	生徒指導や学習指導について、その概要や考え方の基本を説明できる。	(3)-1),2)
5)	教育評価について、それぞれの考え方の違いや評価方法について説明できる。	(1)-1),2)
6)	社会教育や家庭教育について、その概要や考え方の基本を説明できる。	(2)-1),(3)-1),2)
(3) 2	学校を取り巻く今日的な教育課題について、自分の考えや意見を述べることができる。 日本とドイツの学校制度を比較し、自分の考えを述べることができる。	(1)-2)
2)	学級担任として、よりよい学級づくりへの意見を述べることができる。	(1)-2),(3)-2)
3)	絶対評価と相対評価を比較し、自分の考えを述べることができる。	(2)-3)
4)	保護者として、よりよい家庭教育のあり方について自分の意見を述べることができる。	(1)-2),(3)-1),2)

回数	教	育原論 【井上	授業内容 和信】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	到達目標の番号	
1	く方向性を理 が明確になる	里解する。 る。	ご、これから学んでい 「教育原論とは何か」	「教育は、何のためにある のか」の資料を読む。2時間。	教育原論の概要につい て、内容をまとめる。 2 時間。	(1)-1)	
2	カントや孔子 は何か」を表		さもとに「教育と	「教育とは何か」の資料を 読む。2時間。	カントや孔子の教育に関 する考えについて、内容 をまとめる。 2 時間。		
3	どのようにし ことで理解す			教育の歴史(欧米)の資料 を読む。2時間。	欧米の教育の歴史の概要 について、内容をまとめ る。2時間。		
4	たち」の概要 史を理解する	要を学ぶこ る。	-イまで「教育の先人 とで、教育方法の歴	教育方法の歴史(欧米)の 資料を読む。2時間。	教育方法の歴史(欧米)の 概要について、内容をま とめる。2時間。		
5	教育」の歴5 教育の目的を	史の概要を を理解する		日本の教育の歴史の資料 を読む。2時間。	日本の教育の歴史の概 要をまとめる。2時間。	(2)-1)	
6	解くことで理	里解する。]根拠を、演習問題を	学校教育と法規の資料を 読む。2時間。	学校教育に関する諸法規 についてまとめる。 2 時間。	(2)-2)	
7	の違いからま 員会、学校の	考察する。 の関係を理		学校制度と教育行政の 資料を読む。2 時間。	学校制度のあり方について、内容をまとめる。 2 時間。	(2)-2), (3)-1)	
8	て、学校経営 について理角	営の仕組み 解する。	の校長の視点を通し なや学校運営のあり方	学校経営の資料を読む。2 時間。	学校経営のしくみや学校 運営について、内容をま とめる。2時間。	(2)-3)	
9	じめのない プ学習で考え	学級づくり えをまとめ		学級経営の資料を読む。2 時間。	いじめのない学級づくり について考え、内容をま とめる。2時間。	(2)-3)、(3)-2)	
1 0	で、担任とし 的な構えと	- プ学習での成果を発表し合うこと 任としてもつべき「学級経営の基本 - えと手だて」について理解する。		子どもの学級力の育成の 資料を読む。2時間。	学級経営の基本について まとめる。2時間。	(2)-3)、(3)-2)	
1 1	要をもとに言いて理解する	指導の原理と方法について生徒指導提 もとに学び、「生徒指導とは何か」につ 理解する。		生徒指導提要を読む。2時 間。	生徒指導とは何かについてまとめる。2時間。	(2)-4)	
1 2	業例から学で 解する。	導の原理と方法について具体的な授 ら学び、「授業とは何か」 について理 。		授業研究の資料を読む。2時間。	授業づくりの基本につい て、内容をまとめる。 2 時間。	(2)-4)	
1 3	評価と相対記 の意味につい	平価にまつわる基礎知識を学び、絶対 と相対評価の考え方の違いやPDCA 未について理解する。		教育評価の資料を読む。2 時間。	教育評価の基本につい てまとめる。2時間。	(2)-5), (3)-3)	
1 4			R庭教育のあり方につけるとに考える。	家庭教育のあり方の資料 を読む。2時間。	家庭教育のあり方について、自分のことにあてはめて考え、内容をまとめる。 2 時間。	(2)-6) 、(3)-4)	
1 5			きえ方の変遷について 生き抜く知恵につい	社会教育の資料を読む。2 時間。	社会教育についての基本 をまとめる。2時間。	(2)-6)	
定期	試 験	実施す	3				
成績方	評価法		の取り組み(関心・ 験(知識・理解、思	意欲・態度)50% 考力・判断力・表現力):	50%		
課題(試験 等)に フィードバ	対する	授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。レポートや試験 は、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキスト 参 考		テキスト:『やさしい教育原理』有斐閣アルマ 参考文献:『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』東洋館出版 『問いからはじめる教育学』有斐閣ストゥディア					
メッセな	マージ ど	教育の		て、その概要を学ぶ授業 る楽しみを味わいながら 修			

	ルーブリック評価を用いた成績評価								
	到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率		
(1)-1)	教育原論とは何かが 説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		5%		
(1)-2)	カントの言葉をもと に、教育とは何かに ついて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		
(1)-3)	現代の学校制度ができた理由を、歴史的背景を踏まえて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		
(1)-4)	教育方法の先人たち について、その特色 の概要を説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		
(2)-1)	古代から現代にいた る日本の教育の歴 史を、時代ごとの特 色を踏まえて説明 できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。	授業への取り 組み (関心・意欲・ 態度)	10%		
(2)-2)	日本の教育の基本的 なスタンスについ て、学校制度や教育 基本法の条文から 説明でき。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解、 思考力・判断 力・表現力)	10%		
(2)-3)	学校経営や学級経営 の重要性を、具体的 な事例をもとに説 明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		15%		
(2)-4)	生徒指導や学習指導 について、その概要 や考え方の基本を 説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		
(2)-5)	教育評価について、 それぞれの考え方 の違いや評価方法 について説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		
(2)-6)	社会教育や家庭教育 について、その概要 や考え方の基本を 説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いがいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%		

Fr.					•			
擅	受業科	目	対象学科・専攻		ナンバ	リング	年 次	期別
_	育心 ³ nal	理学 Psychology	児童教育学科 初等教育学専攻		21EPB	BE1004	1年次	前期
講義・演習・実 技・実習・実験 単位数		卒業認定	担当教員			実務家 教員		
講義 2			必修	必修 福屋 いずみ				
ディプロマ・ ポリシーとの 関係 (2) 各教科・道徳 (3) 子ども理解に と。			に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 深い関心をもち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができるこ 題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけているこ					
概要	学習	学の中でも教育 ・記憶・発達な ・死様々事象・	ど教育に関連	する基本的な内		る。		
到達目標	 (1)-1) 児童期の発達特徴と課題を説明できる (1)-2) 記憶のメカニズムについて説明できる (1)-3) 学習理論について説明できる (2)-1) 学習法の特徴を説明できる (2)-2) 学習法の長短を把握し、授業での応用方法を理解する (2)-3) 教育評価の方法を把握し、実践する力を身につける (2)-4) 教育に関連する基本的な統計の手法を習得する (3)-1) 不登校・いじめの現状と課題について説明できる (3)-2) チーム学校の趣旨を理解し、他専門家との連携の理解する (3)-3) 児童の心理的サポートの方法について説明できる 							
授業内容 と 進め方	多キ	短期大学博多キー・マンパスに大型 なよる遠隔授	ディスプレイ	、ビデオカメ				
	口	授業	内容	予習内容	予習時間	復習	内容	復習時間
	1	教育心理学とを知る	は何か概要	-		配布資料のとめる。	り内容をま	2 時間
	2	教育心理学の	の歴史を理解	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容	学をまとめ	2 時間
	3	学習理論につる	ついて理解す	配布資料を読む。	2 時間		字をまとめ	2 時間
	4 動機づけの種類と重要性 配布資料を を理解する 配布資料を 2時間 る。					学をまとめ	2 時間	
	5	教育と発達 ス) について	(レディスネ 理解する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容	字をまとめ	2 時間
	6 学習方法につ		いて学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容	字をまとめ	2 時間
	7	記憶のメカコ て学ぶ	ニズムについ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容	字をまとめ	2 時間
	8	教師・児童関 理解する	係の重要性を	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容		2 時間
	9	学童期の発達 を学ぶ	権特徴と課題	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容	字をまとめ	2 時間

	10	児童の評価方法を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
	11	基本的な統計法を学び評 価を実践する	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
	12	教育現場でのカウンセリング的かかわりについて 学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
	13	学校で起こる様々な問題 (不登校・いじめ)につい て学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
	14	学校で起こる様々な問題 (非行・その他)について 学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
	15	特別な支援が必要な児童 への対応を学ぶ	配布資料を読む。	2 時間	本時の内容をまとめる。	2 時間		
成績評価		定期試験(50%)、毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題(50%)						
課題(試験・レポー ト等)に対する フィードバックの 方法		毎時の課題はコメントを書いて返却する。 試験はルーブリック評価に基づき結果を示す。						
テキストおよび 参考文献		『小学校学習指導要領(平成 29 年 3 月告示 文部科学省』東洋館出版 『教育心理学』山口短期大学						
メッセージなど		教育や子どもたちの抱える問題を心理学的視点から眺め、把握する力を身につけ理解を深めていきましょう。 小学校教諭二種免許状 … 必修						

ルーブリック評価を用いた成績評価								
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率		
(1)-1) 児童期の 発達特徴と課題 を説明できる	児童期の発達 の特徴と課題 を十分に説明 することがで きる。	児童期の発達 の特徴と課題 を概ね説明す ることができ る。	児童期の発達 の特徴と課題 について最低 限の説明がで きる。	児童期の発達 の特徴と課題 を説明するこ とができな い。	定期試験 (知識・理解・思 考力)	5%		
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを概ね表 現することが できる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%		

	1	ı	1	1	1	
(1)-2) 記憶のメ カニズムについ て説明できる	記憶のメカニ ズムを十分に 説明すること ができる。	記憶のメカニ ズムを概ね説 明することが できる。	記憶のメカニ ズムについて 最低限の説明 ができる。	記憶のメカニ ズムを説明す ることができ ない。	定期試験 (知識·理解·思 考力)	5%
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを概ね表 現することが できる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%
(1)-3) 学習理論 について説明で きる	学習理論を十 分に説明する ことができ る。	学習理論を概 ね説明するこ とができる。	学習理論につ いて最低限の 説明ができ る。	学習理論を説 明することが できない。	定期試験 (知識·理解·思 考力)	5%
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分こと ができる。	また内容につの 意見を概と それを しまれる ここれ ままれ ままれ できる。	また内容について、自分の意見をもって、表現が不十分である。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(2)-1) 学習法の 特徴を説明でき る	学習法の特徴 を十分に説明 することがで きる。	学習法の特徴 を概ね説明す ることができ る。	学習法の特徴 について最低 限の説明がで きる。	学習法の特徴 を説明するこ とができな い。	定期試験 (知識·理解·思 考力)	5%
	また内容について、自分ので見をもち、 それを十分に表現することができる。	また内容についまた内容について、自分に、 きしい できれる ことれる ことれ できる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容について、自分の 意見をもて ず、表現できない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(2)-2) 学習法の 長短を把握し、 授業での応用方 法を理解する	学習法の長短 を十分で表示では を を は で を は に 用 の に 理 が に れ の に 理 が に れ の に れ の に れ い れ い れ い れ に れ い れ に れ い と れ い と れ い と れ い と れ ら る 。 と ら る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る 。 と る と る	学習と を概 を概 を が に が に の の 理 が に の の 理 が で お に の の で れ 理 が う た い う い う い ら い と い と い と い と ら い と ら い と ら ら ら ら	学習法の長短 を概ね理解 し、授方法と 応用するこ ができる。	学習法の長短 を把握業での 応用のすること ができない。	定期試験 (知識·理解·思 考力)	5%
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを概ね表 現することが できる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(2)-3) 教育評価 の方法を把握 し、実践する力 を身につける	教育評価の方法を十分に把握し、評価することができる。	教育評価の方 法を概ね把握 し、評価する ことができ る。	教育評価の方法に最低限を有し、評価することができる。	教育評価の方 法を理解でき ず、評価する ことができな い。	定期試験 (知識・理解・判 断力)	5%
	また内容について、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につ おりまた また内容につ で 意見をもれることを 概とが 現するこできる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容について、自分の 意見をもて ず、表現できない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%

(2)-4) 教育に関 連する基本的な 統計の手法を習 得する	教育に関連する基本的なを十分に理解し、 使うことができる。	教育に関連する基本的な概 計の手法を概 ね理解し、でき うことができる。	教育に関連する基本の手法にない。	教育に関連する基本的法を理解できず、できずできができない。	定期試験 (知識·理解·判 断力)	5%
	また内容について、自分のでは見をもち、 それを十分に表現することができる。	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを概ね表 現することが できる。	また内容について、自分の意見をもっているが、表現が不十分である。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(3)-1) 不登校・ いじめの現状と 課題について説 明できる	不登校・いじ めの現状と課 題について十 分に説明する ことができ る。	不登校・いじ めの現状と課 題について概 ね説明するこ とができる。	不登校・いじ めの現状と課 題について最 低限の説明が できる。	不登校・いじ めの現状と課 題について説 明することが できない。	定期試験 (知識·理解·判 断力)	5%
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につの 意見を概ねを できる。	また内容について、自分のでは、自分のでは、自分のでは、表が、表が、表が、大であるが、かである。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(3)-2) チーム学校の趣旨を理解し、他専門家との連携の理解する	チ世野では、大きのでは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はないは、はな	チを関するとのようで、大きな、大のようでは、いいでは、いいでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	チつのしと定つ解されているとのでは、そのでは、このでは、ではないでは、ながでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ない	チ趣き家想にすきないといって明を育解で	定期試験 (知識·理解·判 断力)	5%
	また内容についまた内容についまた内容についまえをもち、それを十分に表現することができる。	また内容につの 意見を概ねるこそれをることを概とが できる。	また内容について、自分のでは、	また内容について、自分の意見をもてず、表現できない。	毎回の授業の感 想・振り返り、毎 回の授業課題 (関心・意欲・思 考力・判断力・表 現力)	5%
(3)-3) 児童の心 理的サポートの 方法について説 明できる	児童の心理的 サポートの方 法について十 分に理解し、 説明すること ができる。	児童の心理的 サポートの方 法について概 ね理解し、説 明することが できる。	児童の心理的 サポートの方 法について最 低限の知識を 有し、説明す ることができ る。	児童の心理的 サポートの方 法について理 解できず、説 明することが できない。	定期試験 (知識・理解・判 断力)	5%
	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを十分に 表現すること ができる。	また内容につ いて、自分の 意見をもち、 それを概ね表 現することが できる。	また内容につ いて、自分の 意見をもって いるが、表現 が不十分であ る。	また内容につ いて、自分の 意見をもて ず、表現でき ない。	毎回の授業の感想・振り返り、毎回の授業課題 (関心・意欲・思考力・判断力・表現力)	5%

	授業科目名			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期	月別
Lecti	初等教育課程論 Lecture on Curriculum Theory		児童教育学科 初等教育学専攻	20EPBE1006	1年次	í	後期	
講義・演 技 実習・	•	単位数	卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員		担	当形態
講	笺	2	選択	必修	福田 敏雄			単独
			<u>-</u> /	ディプロマ・ポリシーと	の関連			
1 2				さわしい人間性と専門性を 磨き、実践的な学習指導力	**			0
3 4							0	
科 目 施行規則に定める科目区分又は事項等								
教育の	基礎的理	2解に関する	科目 教	育課程の意義及び編成の	の方法(カリキュラム	・マネジメン	ントを言	含む。)

〇コアカリキュラム:教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)

全体目標:学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。

(1) 教育課程の意義

一般目標:学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。

到達目標:1) 学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。

- 2) 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。
- 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。

(2) 教育課程の編成の方法

一般目標:教育課程編成の基本原理及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。

到達目標:1)教育課程編成の基本原理を理解している。

- 2) 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。
- 3) 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。
- (3) カリキュラム・マネジメント
- 一般目標:教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。

到達目標:1) 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。

2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。

【全体目標及び概要】

教育課程の原理及び教育課程の編成と管理について学び、学校における教育指導計画の価値がわかり、その作成方法について理解する。

小学校教育を法的根拠卯や学習指導要領からとらえるとともに、教育課程編成をめぐる今日的な教育課題についての認識を深める。

	【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
(1)	教育課程の原理、編成の方法をもとに、教育指導計画の意義を理解する。 初等教育課程論とは何かが説明できる。	(1)-1),2),3)
2)	教育課程の意義を3つの観点から説明できる。	(1)-1),(2)-3)
3)	教育課程編成にかかわって、学校教育目標の大切さを説明できる。	(2)-1)
4)	教育課程編成にかかわって、指導内容の組織化の意味を説明できる。	(2)-1),2)
(2)	法令や学習指導要領に基づいて、小学校教育の目標や内容を理解する。 教育課程にかかわる法令について、その主な内容を説明できる。	(1)-1)
2)	戦後の学習指導要領の変遷史について、各時代の特色を簡潔に説明できる。	(1)-2)
3)	現在の生きる力を育む教育になった理由を、歴史的社会的背景を踏まえて説明できる。	(1)-2)
4)	今日的な課題である学力向上・特別支援教育・生徒指導について、その概要を説明できる。	(1)-1),3)
(3)	教育課程をめぐる今日的な課題について、自分の考えや意見を述べることができる。 学力向上プランについて、自分の考えを述べることができる。	(2)-2) (3)-1),2)
2)	生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べることができる。	(3)-1),2)
3)	実習校の教育指導計画について調べ、発表資料と原稿を作成できる。	(3)-1),2)
4)	各実習校の発表をもとに、互いに適切な質疑応答ができる。	(3)-1),2)

回数	初等教	育課程論 授業内容 【福田 敏雄】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時 間)	到達目標の番号
1		意義を理解し、日本の義 ける教育課程の課題を考	教育課程について調べる。 2時間。	小学校教育課程の意 義をまとめる。2時間	(1)-1)
2		かかわる法制を調べ、学 頁の基準性を明らかにす	教育課程に関する法令 を読む。2時間。	教育課程に関する法 令をまとめる。2時間	(1)-2)
3	教育課程の程が児童の	変遷史を考察し,教育課 状況や社会の変化に影響 とを理解する。	日本の教育史について 調べる。2時間。	教育課程の変遷史を まとめる。 2時間。	(1)-3)
4	これまでの について考	児童の現状や社会の変化 察し,現行学習指導要領 育を究明する。	現行学習指導要領がめ ざす教育について調べ る。2時間。	現行学習指導要領の めざす教育をまとめ る。2時間。	(1)-4)
5	教科横断的 の編成や社 どの意味を	な視点に立った教育課程 会に開かれた教育課程な 理解し、学級レベルの教 を作成する。	教育課程を編成する方法 について調べる。2時間。	教育経営構想を仕上 げる。2時間。	(2)-1)
6	現, 言語活	対話的で深い学び」の実動の充実,ICT活動などの 努めることの重要性を理	児童はどのように学べばよいかを調べる。2 時間。	アクティブラーニン グをまとめる。 2 時間	(2)-2)
7	学習したこ ともに, 授	との意義を実感できると 業改善に生かしていける らかにする。	学習評価について調べる。2時間。	学習評価方法についてまとめる。2時間。	(3)-3)
8	「学級経営 営を充実さ を理解する	」について考察し,学級経 せることの重要性や機能 。	学級経営について調べる。2時間。	「学級経営」ついてま とめる。 2時間。	(3)-1), (3)-3)
9	導の機能を る。	」について考察し、生徒指 ・生かした指導法を理解す	生徒指導提要を読む。2 時間。	生徒指導上の諸問題 をまとめる。2時間。	
1 0	子どものキ 支援策を理		「キャリア教育」について調べる。2時間。	キャリア教育の支援 策をまとめる。2時間	(3)-1), (3)-3)
1 1	について考 能性を生か	工夫と個に応じた指導」 察し、子どものよさや可 すことができる。	「個性化教育」について 調べる。2時間。	個に応じた指導法を まとめる。2時間。	(3)-1), (3)-3)
1 2	察し,イン 方法を理解		「特別支援教育」について調べる。2 時間。	インクルーシブ教育 をまとめる。2時間。	
1 3	ついて考察 する。	や不登校児への配慮」に し、対応策について理解	「帰国子女教育」や「不 登校児の課題」について 調べる。2時間。	「帰国子女」や「不登校児」への対応方法」 をまとめる。 2 時間。	(3)-2), (3)-3)
1 4	自分の教育 い、それぞ	指導要領が求める教育を 経営計画として発表し合 れが描く教育への夢と希 する方策を学び合う。	教育経営計画を発表する準備をする。2時間。	発表から学んだこと をまとめる。 2時間。	(3)-3), (3)-4)
1 5	今回の学習 自分の教育 い、それぞ	指導要領が求める教育を 経営計画として発表し合 れが描く教育への夢と希 する方策を学び合う。	教育経営計画を発表す る準備をする。2 時間。	発表から学んだこと をまとめる。 2時間。	(3)-3), (3)-4)
定期	試 験	実施する			
成	評 価 法	授業への取り組み (関心 定期試験 (知識・理解、原	・意欲・態度)50% 思考力・判断力・表現力){	50%	
課題 (試験 等) に フィードバ	対する		課題については、授業内 返りシートにコメントを		
テキスト 参 考		プリント類は必要に応じる 参考文献:『小学校学習打	て配付する。 指導要領(平成 29 年 3 月告	示 文部科学省)』東海	羊館出版
メッセな	z ー ジ ど	小学校教育の教育課程の終から基本的なことを学ぶれ から基本的なことを学ぶれ 小学校教諭二種免許状:』		尾施、評価、改善につい	て学級担任の視点

		ルー	ブリック評価を	を用いた成績評	平価		
	到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1)	初等教育課程論と は何かが説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		5%
(1)-2)	教育課程の意義を 3つの観点から説 明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説 明 で き る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		5%
(1)-3)	教育課程編成にか かわって、学校教 育目標の大切さを 説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		5%
(1)-4)	教育課程編成にか かわって、指導内 容の組織化の意味 を説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説 明 で き る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。	授業への取り 組み(関連) 態度 期試験 定期知識・理解、 思力・表現力)	5%
(2)-1)	教育課程にかかわる法令について、 その主な内容を説 明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		10%
(2)-2)	戦後の学習指導要 領の変遷史につい て、各時代の特色 を簡潔に説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説 明 で き る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		10%
(2)-3)	現在の生きる力を 育む教育になった 理由を、歴史的社 会的背景を踏まえ て説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説明でき る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説 明 で き る。	説明できてい ない。		10%
(2)-4)	今日的な課題である学力向上・特別 支援教育・生徒指 導について、その 概要を説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本 を説 明 で き る。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を説明でき る。	説明できてい ない。		10%
(3)-1)		様々な角度から述べること ができる。	いくつかの角 度から述べる ことができ る。	1つ以上述べ ることができ る。	述べることが できない。	グループ討議	5%
(3)-2)	生徒指導の演習問題に、的確に迅速に自分の意見を述べることができる。	ほぼ完璧に述 べることがで きる。	大きな間違い がなく、基本 を述べること ができる。	間違いはいく つかあるが、 最低限の基本 を述べること ができる。	述べることが できない。	クルーノ討議 (思考力・判 断力・表現力)	5%
	実習校の教育指導 計画について調 べ、発表資料と原 稿を作成できる。	ほぼ完璧に作 成できる。	大きな誤りが なく、基本を おさえて作成 できる。	最低限の基本 を踏まえて作 成できる。	作成できない。	グループ討議 (思考力・判	20%
(3)-4)	各実習校の発表を もとに、互いに適 切な質疑応答がで きる。	質問も応答も ほぼ完璧にで きる。	質問はできな いが、応答は きちんとでき る。	基本的な対応 はできるが、 さらなる努力 を要する。	質疑応答がで きない。	断力・表現力)	10%

	授業科目名			対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期	別
図画工作科指導法 Teaching Methods of Art and Handicrafts		児童教育学科 初等教育学専攻	20EPTS2024	1年次 2年次		发期 前期		
講義・演習 技・ 実習・実		単位数	卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員		担当形態	
演習		2	必修	必修	黒岩 眞理子		単独	
			ラ	· イプロマ・ポリシー	との関連			
				ふさわしい人間性と専門				0
		. — . — .		を磨き、実践的な学習指 でも誠実にコミュニケー		キス		0
_				学ぶ力やチームで取り組				
科 目 施行規則に定める科目区分又は事項等								
教科及び	教科の	指導法に関	する科目	各教科の指	導法(情報機器及び	数材の活用を含	it.)	

○コアカリキュラム:各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

全体目標: 当該教科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された当該教科の学習 内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具 体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

(1) 当該教科の目標及び内容

一般目標:学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。

到達目標:1) 学習指導要領における当該教科の目標及び主な内容並びに全体構造を理解している。

- 2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。
- 3) 当該教科の学習評価の考え方を理解している。
- 4) 当該教科と背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。

(2) 当該教科の指導方法と授業設計

一般目標:基礎的な学習指導理論を理解し具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。

到達目標:1)子供の認識・思考、学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解している。

- 2) 当該教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。
- 3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。
- 4) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【全体目標及び概要】

図画工作科における教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された図画工作科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を身に付ける

【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
(1)図画工作科教材研究の目標及び内容 一般目標:学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解する。 到達目標:1)学習指導要領における図画工作科の目標及び主な内容並びに全体構造を 理解している。	(1)-1)
2) 個別の学習内容について指導上の留意点を理解している。	(1)-2)
3) 図画工作科の学習評価の考え方を理解している。	(1)-3)
4) 図画工作科の背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。	(1)-4)
(2)図画工作の指導方法と授業方針を理解している 一般目標:基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行 う方法を身に付けている。 到達目標:1)子どもの認識・思考・学力等の実態を視野に入れた授業設計の重要性を 理解している。	(2)-1)
2) 図画工作科の特性に応じた教材の効果的な活用法を理解し授業設計に活用することができる。	(2)-2)
3) 学習指導案の構成を理解し、具体的な授業を想定した授業設計と学習指 導案を作成することができる。	(2)-3)
4) 模擬授業に実施とその振り返りを通じて、授業改善の視点を身に付けている。	(2)-4)

回数	図画工作科指導法 授業内容 【1年次後期】【黒岩眞理子】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	到達目標の 番号
1	図画工作科指導法とはどんな授業か、図画 工作は何のためにあるのか、その目標や内 容を理解する。	事前に配ったプリントを読む・1 時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-1) (2)-2)
2	低学年~中学年の教科書を見ながら、低学年~中学年の学習内容と特徴を学ぶ。	前時に配った小学生の教科 書に目を通す通・2時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-1) (1)-2)
3	中学年~高学年の教科書を見ながら、中学 年~高学年の学習内容と特徴を学ぶ。	前時に配った小学生の教科 書に目を通す・2時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-1) (1)-2)
4	造形遊びの意義とその内容について実践 し、その意義を理解する。	前時に配ったプリントを読む・1 時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(2)-1)
5	図画工作における絵画・デザイン・工芸・彫 刻の各領域の内容を理解し、図画工作教材 との関連を理解する。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-4) (2)-1)
6	図画工作で使用する用具の特質と使い方を 学ぶ①	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-2) (2)-2)
7	図画工作で使用する用具の特質と使い方を 学ぶ②	前時に配ったプリントを読む・1 時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-2) (2)-2)
8	図画工作で使用する用具の特質と使い方を学ぶ③	前時に配ったプリントを読む・1 時間	授業を振り返り、内 容を考察し感想を書 く・2時間	(1)-4) (2)-2)
9	「コラージュ」(モダンテクニック)の歴史 (美術史)について学び、雑誌、新聞紙をち ぎり、「見立て遊び」を経験する。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-4) (2)-2)
1 0	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を 想定しながら「見立て遊び」を経験する。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(2)-2) (2)-3)
1 1	「コラージュ」のテクニックを学び、授業を 想定しながら雑誌から「同じ色集め」を経験 する。(色彩学)	前時に配ったプリントを読む・1 時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-2) (2)-3)
1 2	コラージュ作品を並べ、先生、児童になって お互いの作品の良いところを見つけて評価 することができる。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(1)-3) (1)-4)
1 3	ICT機器を活用し、画像や映像をもとにした イメージトレーニングを通じて、発想力を 身につける。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(2)-2) (2)-3)
1 4	好きな物や人形を好きな場所に配置し、デジカメで撮影し「物語」を作ることができる。	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(2)-2) (2)-3)
1 5	9~14までの教材から好きなものを選ん で指導案を書いてみる。(後期の模擬授業に むけて)	前時に配ったプリントを読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し感想を書く・2時 間	(2)-1) (2)-2) (2)-3)
定期試	i 験 前半は実施しない。後半15コマ	マ(2年前期)が終わった	寺点で定期試験を行う。	

回数		工作科指導法 授業内容 三次前期】【黒岩眞理子】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	到達目標の 番号
1 6	模擬授業	の実践①各自の作成した低学案を元にして実践する。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1	(2)-2) (2)-3)
1 7		の実践②各自の作成した中学 年の指導案を元にして実践す	前時に配ったプリントを 読む・1時間	時間 授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-4) (2)-2) (2)-3) (2)-4)
1 8	絵巻物の	作成(鳥獣人物戯画)日本の 理解を深め、授業に取り入れ	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(1)-4) (2)-1)
1 9	キット教	対の研究 特質や問題点を認 業計画の中に取り込むことが	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-1) (2)-2)
2 0		材の制作、作成方法を理解し、ができる。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-1) (2)-2)
2 1		究① 作品の画像をもとに版 質を各技法の特徴と用具を学	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 2		「究② 資料をもとにスチレン 転版画の制作手順を知る。(低	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2) — 2)
2 3		究③ 資料をもとに紙版画、 制作手順を知る。(中学年・高	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 4	を使った	すとは?粘土、紙、木、廃材 立体作品の鑑賞を通じて、立 たのしさと意義を学ぶ。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 5	粘土の種 るように	類と特質を知り、使いこなせなる。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 6	紙の種類 ようにな	iと特質を知り、使いこなせる る。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 7	を作って	ク、コロッコで「私たちの町」 「共同作品のたのしさを味わ 意義を学ぶ。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(2)-2)
2 8	カルコマ	クニック①マーブリングやデニー、スクラッチステンシル、 ング、スクラッチ等で「感想 iく。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(1)-4) (2)-2)
2 9	カルコマ	クニック②マーブリングやデ ニー、スクラッチステンシル、 ング、スクラッチ等で「空想 iく。	前時に配ったプリントを 読む・1時間	授業を振り返り、内容を 考察し、感想を書く・1 時間	(1)-4) (2)-2)
3 0	1年間の	授業で制作したものと模擬授 返り、実習に活用できるよう	ファイルを整理して実際 の授業に使用できそうな 教材を選ぶ・2時間	ファイル作品を整理する・2時間	(2)-2) (2)-3) (2)-4)
定期試	験	後半15コマ(2年前期)か	終わった時点で定期試験	を行う。	
成績評 方	油油	図画工作科の目標、内容の理 数材作成(意欲・関心・態度 莫擬授業、指導案 25%		6	
課題 (試験・レオ 等) に対する フィードバックの	$5 \qquad \begin{vmatrix} \frac{1}{2} \\ \frac{1}{2} \end{vmatrix}$	毎回の考察・感想文の提出 前半、後半30コマ分の作品	ュファイルを作成し、毎回打	 辰り返りを行う。後に返	コする。
テキストおよ 参 考 文		テキスト:『小学校指導要領 学省)』日本文教		図画工作編(平成 29 年	7月 文部科
メッセーな	ンド	図画工作は、子どもが最も好 どもの豊かな感性を引き出し 小学校教諭二種免許状:必修	、伸ばすことのできる教師		ています。子

ルーブリック評価を用いた成績評価 評価 到達目標 不可 評価手段 優 良 可 比率 図画工作科教材研 ほぼ完璧に理 大きな間違い 全く理解でき 間違いはいく 究の目標及び内容 解、説明でき がなく、基本 つかあるが、 ていない。 課題レポート 説明できな 1) 学習指導要領のおける を理解し、説 最低限の基本 る。 (知識・理解) 5% 明できる。 を理解、説明 図画工作科の目標及び い。 授業 主な内容並びに全体構 できる。 造を理解している (1)-2) 個別の学習内容に 大きな間違い 間違いはいく ほぼ完璧に理 全く理解でき ついて指導上の留 解、説明でき がなく、基本 つかあるが、 ていない。 課題レポート 5% 意点を理解してい る。 を理解、説明 最低限の基本 説明できな (知識・理解) できる。 を理解説明で きる。 図画工作科の学習 ほぼ完璧に理 大きな間違い (1)-3)間違いはいく 全く理解でき 評価の考え方を理 解、説明でき がなく、基本 つかある最低 ていない。 課題レポート を理解し、説 説明できな 解している。 限の基本を理 5% る。 (知識・理解) 明できる。 解、説明でき V ほぼ完璧に理 (1)-4) 図画工作科の背景と 大きな間違い 間違いはいく 全く理解でき ・授業内の教 なる学問領域との関 解し、教材研 がなく理解 つかあるが、 ない。教材研 材研究(意欲、 係を理解し、教材研 究を十分に活 し、教材研究 基本を理解 究を活用した 関心、態度) 究に活用することが 用した作品制 を活用し作品 し、教材研究 作品制作がで 20% • 各作品提出 できる。 作ができる。 制作できる。 を活用した作 きない。 (完成度、技 品制作ができ 能、発想力) 図画工作の指導方法と ほぼ完璧に理 大きな間違い 間違いはいく 全く理解でき がなく、基本 を理解し学年 解し、学年や 授業方針を理解してい つかあるが基 ていない。 発達を視野に 本を理解し学 学年や発達を る。 1) 子どもの認識・思考・学 入れた教材選 や発達を視野 年や発達を視 視野に入れた 20% 択ができる。 教材選択がで 力等の実態を視野に入れ に入れた教材 野に入れた教 選択ができ 材選択ができ た授業設計の重要性を理 きない。 解している。 る。 (2)-2) 図画工作科の特性 ほぼ完璧に教 大きな間違い 間違いは少し 全く教材、用 ・用具の使用 に応じた教材の効 材、用具を効 がなく教材、 あるが教材、 具を活用した 方法(知識、使 果的な活用法を理 果的に活用し 用具を活用し 用具を活用し 作品制作がで 用方法の理 解し授業設計に活 た作品制作が た作品制作が た作品制作が きていない。 解) 20% 用することができ できている。 できている。 できている。 ・指導案に合 う試作品の作 る。 成(応用力) 学習指導案の構成 ほぼ完璧に指 大きな間違い (2)-3)間違いはいく 全く指導案を がなく指導案 を理解し、具体的な 導案を書くこ つかあるが、 書けない。 授業を想定した授 とができ、そ を書くことが 指導案を書く 指導案に合っ 業設計と学習指導 れに合った試 でき、それに ことができ、 た試作品の作 20% 案を作成すること 作品を作成で 合った試作品 それに合った 成ができな ができる。 きる。 を作成でき 試作品を作成 できる。 (2)-4) 模擬授業の実施と ほぼ完璧な模 大きな間違い 間違いはいく 全く模擬授業 • 模擬授業 がなく、模擬 の振り返りを通じ 擬授業ができ つかあるが、 ができない。 課題レポート 5% 授業ができ て、授業改善の視点 模擬授業がで る。 を身に付けている。 きる。

授業科目名				対象学科・専攻	ナンバリング	年 次	期別
道徳の理論と指導法 Moral Theory and Teaching Method		児童教育学科 初等教育学専攻	20EPTS1027	1年次	後期		
講義・演習・ 技・ 実習・実駅		単位数	卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修	担当教員		担当形態
演習		1	必修	必修	柴田 守	柴田 守	
			テ	· イプロマ・ポリシー	-との関連		
2 3 = 3	2 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有している。 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができる。						
	科 目 施行規則に定める科目区分又は事項等						は事項等
道徳、総合	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、 教育相談等に関する科目 道徳の理論及び指導法						導 法

〇コアカリキュラム:道徳の理論及び指導法

全体目標: 道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神を踏まえ、自己の生き方や人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する教育活動である。

道徳の意義や原理等を踏まえ、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成、模擬授業等を通して、実践的な指導力を身に付ける。

(1) 道徳の理論

一般目標:道徳の意義や原理等を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。

到達目標:1) 道徳の本質(道徳とは何か)を説明できる。

- 2) 道徳教育の歴史や現代社会における道徳教育の課題(いじめ・情報モラル等)を理解している。
- 3) 子供の心の成長と道徳性の発達について理解している。
- 4) 学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標及び主な内容を理解している。

(2) 道徳の指導法

一般目標:学校教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科における指導計画や指導方法を理解する。 到達目標:1)学校における道徳教育の指導計画や教育活動全体を通じた指導の必要性を理解している。

- 2) 道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解している。
- 3) 道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。
- 4) 授業のねらいや指導過程を明確にして、道徳科の学習指導案を作成することができる。
- 5) 道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解している。
- 6) 模擬授業の実施とその振り返りを通して、授業改善の視点を身に付けている。

【全体目標及び概要】

学校における道徳教育の重要性の認識のもと、道徳の根本理念に基づいて確かな識見と展望をもった教育の推進ができる技量を養うため、学校の全教育活動を通じて行う道徳教育とその要としての役割を持つ道徳科の目標や内容、指導計画、基本的な指導過程や指導法等について学ぶ。これらを踏まえて教材研究、道徳科学習指導案の作成、模擬授業を行い、道徳科の実践的指導力を身に付ける。

【一般目標及び到達目標】	目標対応
(1) 道徳の根本理念や道徳教育推進の意義を学校教育と関連づけ、小学校における道徳教育	
の目標や内容について理解する。 1) 道徳とはどのような学問であるかを説明することができる。	(1)-1)
2) 道徳と哲学及び儒教思想との関わり、学制発布以降の道徳教育の変遷、今日の社会における道徳的な課題等について概要を説明することができる。	(1)-2)
3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	(1)-3)
4) 道徳教育の目標と道徳科の目標や内容構成について理解を深め、目標相互の関連や達成 方法について説明することができる。	(1)-4)
(2)全教育活動を通じて行う道徳教育及び道徳科における授業の在り方や指導計画の作成について理解を深め、道徳科の授業設計能力並びに授業実践力を習得する。 1)道徳教育全体計画に基づく全教育活動を通じた道徳教育の意義を説明することができる。	(2)-1)
2) 指導の効果を高める道徳科における多様な指導方法とその意義を説明することができる。	(2)-2)
3) 教材の特性について理解を深め、道徳科の授業設計に生かすことができる。	(2)-3)
4)基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	(2)-4)
5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	(2)-5)
6) 互いに協力して道徳的実践力を培う模擬授業を展開することができる。	(2)-6)

回数	道徳の理	論と指導法 授業内容 【柴田 守】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	到達目標の番号
1	人間としての	の生き方を学ぶ道徳教育	小学校学習指導要領総則 を読んでおく。 2時間	本時の内容についてまと める。 2時間	(1) -1)
2	道徳教育の変	変遷及び今日的課題	事前に配布された資料を 読んでおく。 2時間	道徳教育の変遷と今日 的課題をまとめる。 2時間	(1) -2)
3	道徳性の発達	幸等と道徳教育	事前に配布された資料を 読んでおく。 2時間		(1) - 3)
4	道徳教育と道	道徳科	学習指導要領道徳編のP10 ~P26 を読んでおく。 2 時間		(1) -4)
5	道徳教育の会	全体計画と道徳科の指導計画	学習指導要領道徳編の P72 ~P77 を読んでおく。 2 時間		(2) -1)
6	道徳科の特質	質と指導の在り方	学習指導要領道徳編のP78 ~P101 を読んでおく。 2時間	****	(2) -1)
7	道徳科の学習	習指導法①	学習指導要領道徳編の P102~P106 及び配布資料 を読んでおく。 2時間	指導法の内容・過程・方 法・配慮事項をまとめる。	(2) - 2) (2) - 3)
8	道徳科の学習	習指導法②と評価	学習指導要領道徳編の P107~P116を読んでおく。 2時間		(2) -5)
9	道徳科学習技	 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	事前に提示した教材の分析と再構成をしておく。 2時間	授業の組み立ての手順と 指導案の形式、書き方を まとめる。 2時間	(1) - 4) (2) - 2) (2) - 3) (2) - 4)
1 0		旨導案の作成(グループ学習) 中学年教材-	所定の様式に授業の略案 を作成しておく。 3時間	協議をもとに道徳科学 習指導案を作成する。 4時間	(1) - 3) $(1) - 4)$ $(2) - 2)$ $(2) - 3)$ $(2) - 4)$
1 1	道徳科学習技	旨導案の説明と協議 (全体協議)	発表内容や質問事項を考え、まとめておく。 2時間	協議をもとに道徳科学 習指導案を作成する。 2時間	$ \begin{array}{c} (1) & -3 \\ (1) & -4 \\ (2) & -2 \\ (2) & -3 \\ (2) & -4 \\ \end{array} $
1 2	-低学 ^红	旨導案の作成 F教材- F教材-	自分なりに学習指導案の 原案を作成する。 3時間	指導案と発問・板書計画 を作成する。 4時間	(1) - 4) $(2) - 2)$ $(2) - 3)$ $(2) - 4)$
1 3	模擬授業の領	実施と整理会	学習指導案作成と授業の 準備をする。2時間	模擬授業や整理会での 内容をまとめる。2時間	(2) -6)
1 4	模擬授業の領	実施と整理会	学習指導案作成と授業の 準備をする。2時間		(2) -6)
1 5	模擬授業の領	実施と整理会	学習指導案作成と授業の 準備をする。2時間		(2) -6)
定期	試 験	実施する		2 374	
成	評 価 法	授業への取り組み (関心・ 学習指導案・模擬授業 (表			・ 理解)40%
課題 (試験 等) に フィードバ		授業内容のふり返りノート は、指導案作成中のアドバ て行う。 試験については、ルーブリ	イスや指導案へのコメン	ト、模擬授業や整理会への	
テキスト 参 考	、および 文 献	『小学校指導要領(平成 29 『小学校指導要領(平成 29 授業内容に即して作成した	9 年告示 文部科学省)』 9 年告示)解説 小学校料		部科学省)』
メッセな	z ー ジ ど	「特別の教科 道徳」としてよりよく生きていく心豊かま。実践的な内容を中心に小学校教諭二種免許状:必	nな子どもを育てるため <i>に</i> 学び合っていきましょう。	こも教師の指導力量が力	

	ルー	ブリック評価を	を用いた成績評	平価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1) 道徳とはどのよう な学問であるかを説明す ることができる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはある が、大筋につ いては説明す ることができ る。	説明すること ができない。		5%
(1)-2) 道徳と哲学及び儒 教思想との関わり、学制発 布以降の道徳教育の変遷、 今日の社会における道徳 的な課題等について概要 を説明することができる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはある が、大筋につ いては説明す ることができ る。	説明すること ができない。		
(1)-3) 道徳性の発達について理解を深め、児童の道徳性の発達特性について説明することができる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはあるが、大筋に切り が、大説明することができる。	説明すること ができない。	_ 定期試験 (知識・理解)	5%
(1)-4) 道徳教育の目標と 道徳科の目標や内容構成 について理解を深め、目標 相互の関連や達成方法に ついて説明することがで きる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはあるが、大筋につすることができる。	説明すること ができない。		
(2)-1) 道徳教育全体計画 に基づく全教育活動を通 じた道徳教育の意義を説 明することができる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはあるが、大筋に切り いては説明することができる。	説明すること ができない。		5%
(2)-2) 指導の効果を高める道徳科における多様な 指導方法とその意義を説 明することができる。	ほぼ完璧に説 明することが できる。	大きな誤りな く説明するこ とができる。	誤りはある が、大筋につ いては説明す ることができ る。	説明すること ができない。		
(2)-3) 教材の特性につい て理解を深め、道徳科の授 業設計に生かすことがで きる。	ほぼ完璧に教 材の特性を生 かした授業設 計ができる。	大きな誤りな く教材の特性 を生かした授 業設計ができ る。	特性を生かし きれていない が授業設計の 基本はでき る。	教材の特性を 生かした授業 設計ができない。	課題レポート、グループ 討議、定期試 験 (知識・理解	50% (内、 定期試
(2)-4) 基本形式に則って、自己の生き方についての考えを深める道徳科学習指導案を作成することができる。	ほぼ完璧に作成できる。	大きな誤りなく作成できる。	いくつかの課 題はあるが、 基本を踏まえ て作成でき る。	作成できない。	(知識・建解 関心・意欲・ 態度・判断 力・表現力・ 思考力)	験 20%)
(2)-5) 道徳科における評価の意義や目的及び方法を理解し確たる理念に基づいて評価ができる。	ほぼ完璧に道 徳科における 評価の仕方が 説明できる。	大きな誤りな く道徳科にお ける評価の仕 方が説明でき る。	道徳科における評価の仕方の大筋が説明できる。	道徳科における評価の仕方が説明できない。	定期試験 (知識·理解)	5%
(2)-6) 互いに協力して道 徳的実践力を培う模擬授 業を展開することができ る。	ほぼ完璧に模 擬授業が展開 できる。	若干の検討課 題はあるが、 基本を踏まえ た模擬授業が 展開できる。	問題点はある が、最低限の 基本を踏まえ た模擬授業が 展開できる。	模擬授業を展 開することが できない。	模擬授業(知識・理解・判断力・表現力)	30%

	ž	受業科目名		対象学	学科・専攻	ナンバリング	年 次	期	別	
教育方法学(教育工学を含む。) Educational Method (including Educational Technology)				九里教育子科 20EPBE1007 1年次				後期		
講義・演 技 実習・	演習・実 を・ 単位数		卒業認定	教員免許状取得 必修/選択必修		担当教員	担当教員 担当形			
講事	養	2	選択		必修	谷 友太	単独			
			ディ	プロマ・	ポリシーとの関	 				
1 2 3 4	各教科・ 子ども理		知識や技能を磨き 寺ち、誰とでも誠	、実践的 (実にコミ	な学習指導力を有 ュニケーションを				0000	
		科目			施行規則に定める科目区分又は事項等					
. —		う的な学習の時 導、教育相談			教育の方法及び技術(情報機器及び機材の活用を含む。)				it.)	

〇コアカリキュラム:教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)

全体目標:教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)では、これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。

(1) 教育の方法論

一般目標:これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する。

到達目標:1)教育方法の基礎的理論と実践を理解している。

- 2) これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するための教育方法の在り方(主体的・対話的で深い学びの実現など)を理解している。
- 3) 学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解している。
- 4) 学習評価の基礎的な考え方を理解している。

※幼稚園教諭は「育みたい資質・能力と幼児理解に基づいた評価の基礎的な考え方を理解している。」

(2) 教育の技術

一般目標:教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける。

到達目標:1)話法・板書など、授業・保育を行う上での基礎的な技術を身に付けている。

- 2) 基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標・内容、教材・教具、授業・保育展開、学習形態、評価規準等の視点を含めた学習指導案を作成することができる。
- (3) 情報機器及び教材の活用
- 一般目標:情報機器を活用した効果的な授業や情報活用能力の育成を視野に入れた適切な教材の作成・活用に関する基 礎的な能力を身に付ける。
- 到達目標: 1)子供たちの興味・関心を高めたり課題を明確につかませたり学習内容を的確にまとめさせたりするために、情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。
 - ※幼稚園教諭は「子供たちの興味・関心を高めたり学習内容をふりかえったりするために、幼児の体験との関連を考慮しながら情報機器を活用して効果的に教材等を作成・提示することができる。」
 - 2) 子供たちの情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法を理解している。

【全体目標及び概要】

「学習指導」を念頭に、授業を成立させるための要件を「目標→方法→評価」の観点から学習 し、教育方法にかかる理論と実践について学習する。

併せて、学校教育の今日的な課題を意識した実践者としての素養と指導力を醸成する。

【一般目標及び到達目標】	コア目標対応
(1) 現代の学校教育にまつわる基本的な内容を理解している。 1) 公教育としての学校が存在する理由を、自己の体験と結びつけて説明できる。	(1)-1),2)
2) 子どもたちの置かれている現実を、時代背景や社会的条件と結びつけて説明できる。	(1)-1)
3) 学力の層に着目した教育方法について学び、その価値と方法を説明できる。	(1)-3)
4) 学習指導案の書き方について、基本的な構成と記述の要諦が説明できる。	(2)-2)
5) 教育評価について、単元の評価規準が必要になった理由を説明できる。	(1)-4)
(2) 先人の開発した教育方法について、授業実践に応用できる理論を取り出すことができる。 1) 教育方法学とは何かを説明できる。	(1)-1),2)
2) 現代でも通用するソクラテス・ペスタロッチ・孔子の教育方法の特色を説明できる。	(1)-1),2)
3) 授業の中の教師の指導性について、6人の例をあげて説明できる。	(1)-1),2),3)
(3) 授業の基礎技術についての知識を修得し、具体的な授業場面で活用することができる。	(1)-3)
1) 授業を構成している三要素について、それぞれの関連性を含めて説明できる。	(2)-1),2)
2) 発問と板書のはたらきについて、具体例をもとに説明できる。	(2)-1)
3) 教育メディア(資料)の種類と働きについて、機器の使用方法も含めて説明できる。	(3)-1),2)
4) 机間指導・ノート指導・グループ学習の機能と働きについて説明できる。	(2)-1), $(3)-1)$
5) 模擬授業を見て、授業の基礎技術を具体的に指摘できる。	(2)-2)

回数	教育方法学	型(教育工学を含む。)授業内容	準備学習	準備学習	到達目標	
- 四数		【谷 友雄】	(予習内容・時間)	(復習内容・時間)	の番号	
1	向性を理解す になる。	-ションで、これから学んでいく方 ける。「教育方法学とは何か」が明確	「教育原論」の資料を読み直 す。2時間。	教育方法学の概要についてまとめる。2時間。	(2)-1)	
2		ある学校の役割について教育基本 育法等の資料をもとに考え、理解す	教育の目的・目標の資料を 読む。2時間。	公教育としての学校の存 在理由について考え、内 容をまとめる。2時間。	(1)-1) (1)-2)	
3	学校教育の	対象である子どもたちの置かれて 諸論文や様々な資料から分析し理	学校教育の現実について、 諸メディアのニュース等か ら読み解く。2時間。	子どもたちが置かれてい る現状についてまとめ る。2時間。	(1)-3)	
4		「成の視点から学力を読み解き、そ させる教育の方法について理解す	学習指導要領総則を読み資質・能力の育成を問題解決 学習と関連付ける。2時間。	学力の構造と資質能力育 成に基づく学習方法につ いてまとめる。2時間。	(1)-4)	
5	授業は学習る	者・教師・教材の3要素から成り立 とを理解し、子どもが学びの主体者 養論を展開できる。	授業の3要素の資料を読む。2時間。	子どもが主体的に追究する授業論について、内容をまとめる。2時間。	(2)-1) (3)-1)	
6	教育方法の個	憂れた先人として、ソクラテス・ペ ・孔子等を取り上げ、それぞれの教	教育方法史の資料を読む。 2 時間。	ソクラテス、ペスタロッ チ、孔子等の教育の特色 をまとめる。 2 時間。	(2)-2)	
7	優れた教師の	の実践例を分析的に学ぶことで、授 対師の指導性の発揮の仕方を、教師	教育研究の盛んな学校の優れた指導案を読み、教師の 指導性を知る。2時間。	実践例をもとに授業中で の教師の指導性について まとめる。2時間。	(2)-3)	
8	具体的な算数	数・理科等の授業例をもとに、授業 としての発問と板書のはたらきに	発問・板書に関する資料から教師の技術を読み解く。 2時間。	発問と板書の技術について、内容をまとめる。2時間。	(3)-2)	
9	授業の基礎技 の機能とは7	技術としての教育メディア (資料) たらきについて学び、電子機器等の ついて理解する。	教育メディアについての資料を読む。2時間。	教育メディアの機能と働 きについてまとめる。 2 時間。	(3)-3)	
1 0	授業の基礎技	支術として、机間指導・ノート指導・ 習等について、資料や演習を通して	机間指導、ノート指導、グループ学習等の資料を読む。2時間。	机間指導、ノート指導、グループ学習について、内容をまとめる。 2時間。	(3)-4)	
1 1	授業の計画	書である学習指導案の書き方につ 達成の道筋から理解する。	学習指導案について資料を 読む。2時間。	学習指導案の書き方について、内容をまとめる。2時間。	(1)-4)	
1 2	授業を児童の	技術を駆使した小学校算数の模擬 り立場として受けることで、具体的 受業技術を実感できる。	模擬授業の指導案をみる。 2 時間。	模擬授業から気づいた授 業技術についてまとめ る。2時間。	(3)-5)	
1 3	模擬授業を 発問・資料・	3つの授業技術の観点から分析し、 ・板書・ホワイトボード・パソコン その重要さを理解する。	模擬授業の振り返りをする。2時間。	授業の発問、資料、板書、 教具等について、内容を まとめる。 2 時間。	(3)-5)	
1 4	指導と評価いて振り返り	の一体化の観点から教育評価につり、学習指導案上にも単元の評価規 ことを理解する。	教育評価について資料を読む。2時間。	教育評価について、内容をまとめる。 2時間。	(1)-5)	
1 5	全15回の	学習内容を「授業の流れ」の記録を 図り、教育方法についての理解を深	15 回の授業資料を読み直す。2 時間。	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間。	(1)(2)(3) のすべて	
定期	試 験	実施する				
成	評 価 法	授業への取り組み(関心・意欲 定期試験(知識・理解、思考力				
課題 (試験 等) にぇ フィードバ	対する	授業の振り返りシートに書かせ は、ルーブリック評価の結果を		次の授業時に返す。レポ	ートや試験	
フィートハックの方法 テキスト:『新しい時代の教育方法』有斐閣アルマ 参考文献:『教育の方法』山下政俊・湯浅恭正 編著 ミネルヴァ書房 『教育史』柴田義松・上沼八郎 編著 学宝社 『教育の方法と技術』柴田義松・山崎準二 編著 学宝社 『資質・能力が育つ理科学習指導の展開と評価』鳴川哲也 監修 日置光久・猿田祐嗣・谷友雄 編著 ぎょうせい 『小学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)』東洋館出版						
メッセな	z ー ジ ど	教壇に立って役に立つ理論や力 小学校教諭二種免許状:必修科	法を模擬授業的に学習する			

	ルー	ブリック評価を	を用いた成績語	严価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)-1) 公教育としての学校 が存在する理由を、自 己の体験と結びつけ て説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		5%
(1)-2) 子どもたちの置かれ ている現実を、時代背 景や社会的条件と結 びつけて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる。	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。		10%
(1)-3) 学力の層に着目した 教育方法について学 び、その価値と方法を 説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。		10%
(1)-4) 学習指導案の書き方 について、基本的な構 成と記述の要諦が説 明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。	授業への取り	10%
(1)-5) 教育評価について、単元の評価規準が必要になった理由を説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。	組み (関心・意欲・ 態度) 定期試験	10%
(2)-1) 教育方法学とは何か を説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。	(知識・理解、 思考力・判断 力・表現力)	5%
(2)-2) 現代でも通用するソ クラテス・ペスタロッ チ・孔子の教育方法の 特色を説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%
(2)-3) 授業の中の教師の指 導性について、6人の 例をあげて説明でき る。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。		10%
(3)-1) 授業を構成している 三要素について、それ ぞれの関連性を含め て説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。		5%
(3)-2) 発問と板書のはたら きについて、具体例を もとに説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。		10%
(3)-3) 教育メディア (資料) の種類と働きについ て、機器の使用方法も 含めて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できてい ない。	授業への取り 組み (関心・意欲・ 態度)	5%
(3)-4) 机間指導・ノート指導・グループ学習の機能と働きについて説明できる。	ほぼ完璧に説 明できる	大きな間違い がなく、基本を 説明できる。	間違いはいく つかあるが、最 低限の基本を 説明できる。	説明できていない。	定期試験 (知識・理解、 思考力・判断 力・表現力)	5%
(3)-5) 模擬授業を見て、授業 の基礎技術を具体的 に指摘できる。	様々な角度から指摘できる	いくつかの角度から指摘できる。	1 つ以上指摘 できる。	指摘できない。	グループ計議 (思考力・判 断力・表現力)	5%

3	授業科	目	対象学科・	ナンバリン	/グ	年 次	期別			
	段処理簿 Processi	론習 I ing Practice I	児童教育 初等教育学		21EPIE10	001	1年 次	前期		
講義·演習 技·実習·第		単位数	卒 業 認 定	卒業認定 担当教員						
実習		1	選択		福原 道照					
 (1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 ディプロマ・ポリシーとの関係 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心をもち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) 様々な教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけていること。 								0		
概要	ロソ	生活や諸活動に フトウェアを利	こおける情報活用 刊用した基本的・ 重機能を利用した	応用的文書の	の作成及び表記					
到達目標		(1) 基本的・応用文書の作成ができる。(2) 基本的な表や各種機能を利用した表の作成ができる。								
授業内容 と 進め方	大学。	と博多キャン	キャンパスを令れ パスに大型ディス zoom による遠隔	スプレイ、ビ	デオカメラ、					
	口	授業内	n容 -	予習内容	予習時間	復習	内容	復習時間		
	1	ガイダンス情報の活用		ト 4 ページか ページを読んで		文字入 本操作 する。	_	1時間		
	2	文書の作成① -基本的文書	6 59	ト 53 ページか ページを読んで		授業時 作成方 習する。	法を復	1時間		
	3	文書の作成② -文字の修飾	6 62	ト 60 ページか ページを読んで		授業時 作成方 習する。	法を復	1 時間		
	文書の作成③ 4 一表の活用-		6 76 ·	ト 63 ページか ページを読んで		授業時(作成方)習する。	法を復	1時間		
	5	文書の作成④ -図形の活用	6.84	ト 77 ページか ページを読んで		授業時 作成方 習する。	法を復	1時間		
	6	文書の作成⑤ -画像の活用	6 91	ト 85 ページか ページを読んで		授業時 作成方 習する。	法を復	1 時間		

	7	文書の作成⑥ -総合問題①-	ビジネス文書の作成 ① から⑤の復習をし ておく。	1 時間	授業時の文書 作成方法を復 習する。	1 時間			
	8	文書の作成⑦ -総合問題②-	ビジネス文書の作成 ① から⑤の復習をし ておく。	1 時間	授業時の文書 作成方法を復 習する。	1 時間			
	9	表の作成① ーデータ入力-	テキスト 96 ページから 111 ページを読ん でおく。	1 時間	授業時の表の 作成方法を復 習する。	1時間			
	10	表の作成② -基本的なワークシー ト編集-	テキスト 112 ページ から 117 ページを読 んでおく。	1 時間	授業時の表の 作成方法を復 習する。	1 時間			
	11	表の作成③ -関数・セル参照の利 用-	テキスト 120 ページ から 137 ページを読 んでおく。	1 時間	授業時の表の 作成方法を復 習する。	1時間			
12		表の作成④ -グラフ-	テキスト 142 ページ から 148 ページを読 んでおく。	1 時間	授業時の表の 作成方法を復 習する。	1 時間			
	表の作成⑤ -条件判定・検索-		テキスト 152 ページ から 166 ページを読 んでおく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間			
	14	表の作成⑥ -総合問題①-	表の作成①から⑤の 復習をしておく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間			
	15	表の作成⑦ -総合問題②-	表の作成①から⑤の 復習をしておく。	1 時間	授業時の表の作成方法を復習する。	1 時間			
成績郭	平価	定期試験(40%)、授業	業への取り組み (60%)						
課題 (試験 ポート等) するフィー ックのフ	に対 -ドバ	課題レポートや定期試験は、添削・採点をし原則として次の授業時に返却する。							
テキストな参考文		テキスト…「30 時間でマスター Office2016」 実教出版企画開発部 編 実教出版							
メッセーシ	ジなど	小学校教諭二種免許状	····必修科目						

ルーブリック評価を用いた成績評価 評価 到達目標 優 良 可 不可 評価手段 比率 基本的・応 ほぼ完璧に 大きな間違 基本的文書 (1) 基本的·応用的文書 授業への取り 基本的・応 いがなく、 の作成はで 用的文書の の作成ができる。 組み 基本的・応 用的文書の きるが、応 作成ができ (関心・意欲・ 30% 作成ができ 用的文書の 用的文書の ていない。 態度・技能・思 る。 作成ができ 作成ができ 考力) ていない。 る。 定期試験 20% (知識・理解) (2) 基本的な表や各種機 ほぼ完璧に 大きな間違 基本的な表 基本的な表 授業への取り 能を利用した表の作成 いがなく、 基本的な表 の作成はで や各種機能 組み ができる。 きるが、各 や各種機能 基本的な表 を利用した (関心・意欲・ 30% を利用した や各種機能 種機能を利 表の作成が 態度・技能・思 表の作成が を利用した 用した表の できていな 考力) 表の作成が できる。 作成ができ できる。 ていない。 定期試験 20% (知識・理解)

	授業和	斗目		対象学	学科・専攻	ナン	·バリング	年 次	期別	
	青報処理 n Proces	l実習Ⅱ ssing Practic	е ІІ	児童教育学科 初等教育学専攻			EPIE1002	1年次	後期	
講義・演 技・実習		単位数	卒業認	業 認 定 担当教員						
実習	7	1	選択			福原	道照			
(1) 何事にも誠実に取り組み、教育者にふさわしい専門性と人間性を有していること。 (2) 各教科・道徳等について知識や技能を磨き、実践的な学習指導力を有していること。 (3) 子ども理解に深い関心をもち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。 (4) 様々な教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身につけていること。							尊力を有 ンョンを	0		
概要	プレゼンテーションの重要性や基礎的な知識と技術について理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した資料作成方法や効果的なプレゼンテーション技法について理解する。 各自がテーマ設定を行い、プレゼンテーションソフトウェアを活用して資料の作成と発表を行う。									
到達 目標	(2) 発	表に係るレジ	シュメの作成	えができ	アを活用して分 きる。 かりやすい発表			ができる。		
授業内 容と 進め方	と博多		こ大型ディ	スプレ	口3年度より開 /イ、ビデオカ 始した。					
	口	授業区	内容		予習内容	予習 時間	復習口	内容	復習 時間	
	1	ガイダンス スライドの作成① -文字修飾と図形の活 用ー		ジか	スト 194 ペー ら 209 ページ んでおく。	1時間	授業時のスラ成方法を復習		1 時間	
	2	スライドの作 ーグラフの活 スライドの作 ーSmart 活用とアニメ 効果ー	用— 成③ Artの	ジか	スト 210 ペー ら 217 ページ んでおく。	1 時間	授業時のスラ成方法を復習		1時間	

3	スライドの作成④ -表の活用と画像の挿 入- スライドの作成⑤ -ワードアートの挿入	テキスト 218 ペー ジから 225 ページ を読んでおく。	1時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1 時間
4	スライドの作成⑥ ーその他の機能ー スライドの作成⑦ ー総合演習①-	テキスト 226 ペー ジから 231 ページ を読んでおく。	1 時間	授業時のスライドの作成防府を復習する。	1時間
5	スライドの作成® -総合演習②-	スライドの作成① から ⑥の復習をし ておく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
6	スライドの作成⑨ -総合演習③-	スライドの作成① から ⑥の復習をし ておく。	1 時間	授業時のスライドの作成方法を復習する。	1時間
7	スライドショーと資料 作成	テキスト 232 ペー ジから 239 ページ を読んでおく。	1 時間	スライドショーと資料 作成について復習す る。	1時間
8	発表テーマの検討	発表テーマに関す る情報を収集して おく。	1 時間	発表テーマ決定のため に収集した情報を整理 する。	1時間
9	発表テーマの決定	発表テーマに関す る ストーリーを 考えておく。	1時間	プレゼンテーションス トーリーシートを完成 させる。	1時間
10	発表用スライドの作成 ①	スライドの作成条 件を確認し、構成 を考えておく。	1時間	発表の意図が伝わるス ライドになっているか 確認する。	1時間
11	発表用スライドの作成 ②	スライドの作成条 件を確認し、構成 を考えておく。	1時間	発表の意図が伝わるス ライドになっているか 確認する。	1時間
12	レジュメと発表用原稿 の作成	レジュメと発表用 原稿の作成につい て準備しておく。	1時間	発表のリハーサルを行 う。	1時間
13	発表①	発表のリハーサル をしておく。	1 時間	発表の評価を整理す る。	1時間
14	発表②	発表のリハーサル をしておく。	1 時間	発表の評価を整理す る。	1時間
15	まとめ	発表の成果と課題 をまとめておく。	1 時間	発表の成果と課題を整 理する。	1時間

成績評価	果題·レポート(10%)、授業への取り組み(60%)、発表·プレゼンテーション(30%)							
課題 (試験・レポート等) に対するフィードバックの方法	課題レポートは、添削をし、原則として次の授業時に返却する。							
テキストおよび 参考文献	テキスト …「30時間でマスター Office2016」 実教出版企画開発部 編 実教出版							
メッセージなど	小学校教諭二種免許状 … 必修科目							

	ル	ーブリック評価	面を用いた成績	責評価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1) プレゼンテーションソ フトウェアを活用して 分かりやすい資料の 作成ができる。	とても分かりや すい資料の作 成ができる。	分かりやす い資料の作 成ができる。	最低限の資料作成ができる。	資料の作成 ができてい ない。	授業への取り組み (関心・意欲・態度・ 技能・思考力)	60%
(2) 発表に係るレジュメ の作成ができる。	とても分かりや すいレジュメの 作成ができる。	分かりやす いレジュメの 作成ができ る。	最低限のレジュメ作成ができる。	レジュメの作 成ができて いない。	課題・レポート (思考力・判断力・表 現力)	10%
(3) 作成した資料を用いて正確で分かりやすい発表ができる。	とても正確で分 かりやすい発 表ができる。	正確で分かりやすい発表ができる。	最低限の発 表ができる。	発表ができ ていない。	発表・プレゼンテー ション (意欲・態度・技能・ 表現力・創造性)	30%

	授業科目名			対象学科・専工		文	ナンバリング	年 次		期	別
特別支援教育 Special Support Education			児童教育学科 初等教育学専			20EPBE1008 1 年次		前		期	
	演習・実 習・実験	単位数	卒業認	本 数員免許状取 定 必須/選択必			担当教	員	扌	担当形態	
請	義	2	選択	. 必須			高山真理子		単独		伷
				j	ディプロマ・オ	ポリシ	/ーとの関連				
1	何事にも	誠実に取り	組み、耄	育	者にふさわしい人	、間性	と専門性を有してV	いる。			0
2	各教科等	について知	職や技能	を見	磨き、実践的な学	智指	導力を有している。				0
3	子ども理	解に深い関	心を持ち) , <u> </u>	誰とでも誠実にコ	ミュ	ニケーションをとる	らことができる	00		\circ
4	さまざま	な教育課題	に対して	. <u>.</u>	自ら学ぶ力やチー	-ムで	取り組む協調性を身	ず につけている	0 0		0
	科 目 施行規則に定める科目区分又は事項等							項等			
	教育の基	碳的理解	に関す	る利	4目	特	別な支援の必要とて	する幼児児童4	三徒に対	する	理解

○コアカリキュラム:特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の理解

全体目標:通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害を含む様々な障害により特別な教育的支援 を必要とする幼児児童生徒が、授業において学習活動に参加している実感・達成感を持ちなが ら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児児童生徒の学習上・生活上の困難 を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応し ていくために必要な知識や支援方法を理解する。

(1)特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の特性等

一般目標:特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。

到達目標:1) インクルーシブ教育システムなど、特別支援教育に関する制度の理念や仕組を理解している。

- 2)発達障害や軽度知的障害を含む特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の心身の発達、心理的特性及び学習の過程を理解している。
- 3) 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等をはじめとする様々な障害のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を身に付けている。
- (2) 特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程及び支援の方法

一般目標:特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の教育課程及び支援の方法を理解する。

到達目標: 1) 発達障害や軽度知的障害を含む特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の支援の方法 について例示することができる。

- 2)「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を理解している。
- 3)特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する必要性と方法を理解している。
- (3) 通常の学級における特別支援教育を推進していく上で担任に期待される姿勢及び資質・能力

一般目標:通常の学級における特別支援教育を推進していく上で担任に期待される姿勢及び資質・能力に ついて理解する。

到達目標:1)担任に期待される資質・能力や担任を支えるしくみ、交流及び共同学習等を理解している。

- 2) ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくりの要点について理解している。
- 3) 障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加の重要性について理解している。

【全体目標及び概要】

通常の学級に在籍している発達障害や軽度知的障害を含む様々な障害により特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法について学ぶ。

特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒が、学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、個々の教育的ニーズを基本的な視点として、教育課程の編成や自立活動の内容や方法、個別の教育支援計画等の作成等、実践事例をもとに具体的に学ぶ。

特別支援学級や通級による指導の実際を知り、特別支援教育にかかわる教員の資質・能力等について考察する。

	【一般目標及び到達目	標】		 目標対応			
(1)	ド心身の発達を 理念や仕組を説	(1) -1)					
2)	明できる。 発達障害や軽度知的障害を含む特別の教育的支 心身の発達、心理的特性及び学習の過程を説明		別児童生徒の	(1) - 2)			
3)	視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・症のある幼児児童生徒の学習上又は生活上の困難けている。			(1) - 3)			
(2)	特別の教育的支援を必要とする幼児児童生徒解する。 発達障害や軽度知的障害を含む特別の教育的支 支援の方法について例示することができる。			(2) -1)			
2)	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程 る。	≧上の位置づけとP	内容を説明でき	(2) - 2)			
3)	特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏またの指導計画を作成する必要性と方法を説明でき		爰計画及び個別	(2) - 3)			
(- /	(3) 通常の学級における特別支援教育を推進していく上で担任に期待される姿勢及び資質・能力について理解する。 1)担任に期待される資質・能力や担任を支えるしくみ、交流と共同学習等について説明できる。						
2)	ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づ	くりの要点を説明	できる。	(3) -2)			
3)	障害のある幼児児童生徒の自立と社会参加の重	要性について説明	できる。	(3) - 3)			
回数	特別支援教育 授業内容 【高山真理子】	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	到達目標の 番号			
1	近年の特別支援教育の動向① 特別支援教育の現状と近年の動向	資料プリントをま とめる。 2 時間	(1) -1)				
2	2 近年の特別支援教育の動向②						
3	障害児の理解(1)~視覚障害、聴覚障害~ 障害の特性、学習上又は生活上の困難、指導の実際	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	(1) -2) -3)			
4	障害児の理解(2)~肢体不自由、病弱~ 障害の特性、学習上又は生活上の困難、指導の実際	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	(1) - 2) - 3)			

5	障害児の理解(3)~ 障害の特性、学習上又	-知的障害~ は生活上の困難、指導の実際	資料プリントを読 んでおく。2時間	資料プリントをま とめる。2時間	(1) - 2) - 3)
6	障害児の理解(4)~ 発達障害の特性、発達	7-1	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。2時間	$ \begin{array}{r} -3) \\ (1) -2) \\ -3) \end{array} $
7	障害児の理解(5)~ 実態把握、二次障害に		資料プリントを読 んでおく。2時間	資料プリントをま とめる。2時間	$ \begin{array}{c c} $
8	障害児の教育支援(1 ついて(自立活動、参) 学習指導要領と教育課程に 対科等を合わせた指導)	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	$ \begin{array}{c c} $
9) 個別の教育支援計画と個別 (作成の必要性と方法)	資料プリントを読 んでおく。2時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	(2) -1) $-3)$ $(2) -1)$
1 0	特別支援学校における (学校の種類、教育部	課程、指導の実際)	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	
1 1	特別支援学級における (学級の種類、教育語	課程、指導の実際)	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。2時間	(2) -1)
1 2	通級による指導の実際 (対象児、教育課程、		資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。2時間	(2) -1) $-2)$ $(3) -1)$
1 3	通常の学級における特 される資質・能力、担	特別支援教育① (担任に期待 担任を支えるしくみ)	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	(3) -1)
1 4	通常の学級における** (ユニバーサルデザ り)	所支援教育② インを視点にした授業づく	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。2時間	(3) -2)
1 5	障害児の自立と社会参 ライフステージにおけ	対について(障害児の進路、 ける支援の継続)	資料プリントを読 んでおく。 2 時間	資料プリントをま とめる。 2 時間	(3) - 3)
定	三期 試 験	実施する			
成	成 績 評 価 方 法	授業への取り組み・グルート (思考力・判断力・表現	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		-, ,
	試験・レポート等) フィードバックの 方法	授業の振り返りシートにコレポートや試験は、ループ			する。
『特別支援学校教育要領デキストおよび参 考 文 献『特別支援学校教育要領第)平成30年3月 文部『特別支援学校教育要領年3月 文部科学省』			科学省』		
*	リッセージなど	特別支援教育の意義・内容 みんなが幸せで豊かな人生 学校教諭二種免許状:必須	生を過ごすことの		

	ルーブ	リック評価を	用いた成績評	平価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)—1)インクルーシブ教育システムなど、特別支援教育の制度の理念や仕組みを説明できる。	ほぼ完璧に 説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあ るが、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	定期試験(知 識·理解)	10%
(1)-2)発達障害や軽度知的 障害をはじめとする特別の 教育的支援を必要とする幼 児児童生徒の心身の発達、 心理的特性及び学習の過程 を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できて いない。	課題レポート (思考力・判 断力・表現 力)	10%
(1)—3) 視覚障害・聴覚障害・ 知的障害・肢体不自由・病 弱等、様々な障害のある幼 児児童生徒の学習上又は生 活上の困難について基本的 な知識を身に付けている。	基本的な知識をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違 いがなく、 こ で 的な に 付け て いる。	間違いはあるが、基礎的な知識を身に付けている。	身に付けて いない。	定期試験(知識・理解)	10%
(2)—1)発達障害や軽度知的 障害をはじめとする特別の 教育的支援を必要とする幼 児児童生徒の支援方法につ いて例示することができる。	支援方法に つまま で で さることがで きる。	大きない 間違 ないがない だっといがない 大きない 大きない 大きない かいっという さいっこ きいっこ きいっこ きいっこ きいっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう いっこう	間違いはあ るが、最低限 の方法につ いて例示す ることができ る。	例示すること ができない。	授業への取り組み・グループ計画(関連のできる) のか・意欲・態度)	20%
(2)-2)「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できて いない。	課題レポート (思考力・判 断力・表現 力)	10%
(2)—3)特別支援教育に関する教育課程を踏まえ、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の必要性と作成方法を説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できて いない。	授業への取り組み・グループ計画(関連のできる) のか・意欲・態度)	10%
(3)—1)担任に期待される資質・能力や担任を支えるしくみ等について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあ るが、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	課題レポート (思考力・判 断力・表現 力)	10%
(3)-2)ユニバーサルデザインを視点にした授業づくりの要点について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあ るが、最低限 の基本を説 明できる。	説明できて いない。	定期試験(知識・理解)	10%
(3)一3)障害のある幼児児童 生徒の自立と社会参加の重 要性について説明できる。	ほぼ完璧に説明できる。	大きな間違 いがなく、基 本を説明で きる。	間違いはあるが、最低限の基本を説明できる。	説明できて いない。	課題レポート (思考力・判 断力・表現 力)	10%

	授業科	=		対象学	:科・専攻	ナンバリング	年 次	期別
	ランティア unteer P			1	教育学科 (育学専攻	21EPTP1005	1年次 2年次	後期 前期
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定		担当教員		
実習		2 選択 藤河 久美						
ディプロ マ・ ポ リ シ ー と の 関 係	マ・ リシー (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることができること。					いること。	0	
概要	「ボラン 験実習と う職業の	して、特別支 「資質能力」	を援学校 2 とは何か	2 日間、社会なおよう	会福祉施設に 実習を通して学	後指導として行う学内 5 日間の学外での実習か ぶ。また、少なくとも いて考える。	らなる。「	、介護等体 教師」とい
到達目標	りながら、子どもたちに責任が持てる「人間性」について考える。 (1)「介護等体験実習」の意義と目的を理解し、特別支援学校と様々な社会福祉施設について、事前に調べることができる。 (2)「介護等体験実習」に必要な書類の作成や事前打ち合わせを通して、社会人基礎力を養うことができる。							
	回			業内容		準備学習 (予習内容・時間)	(復習内	学習 容・時間)
	1	オリエンテ (授業の目		* 目標等の記	范明)		2 時間	内容の把握
	2	特別支援学	校での学	びについて		授業の概要を読み、自 分の課題を立てる。 2 時間	まとめる。 2 時間	校について
	3	社会福祉施	設での学	びについて	5	社会福祉施設について 調べる。 2時間	授業内容を 2 時間	まとめる
	4	手話のいろ	はと演習	I		手話について調べる。 2時間	手話の練習 2 時間	
	5	介護等体験 望調査・ブ				実習に出るまでの心構 えを明確にしておく。 2 時間	実習希望 せる。 2 時間	査を完成さ
授業内容 と	6	実習を経験 〜実習に向				先輩からのアドバイス を読んでおく。 2時間	実習に向け まとめる。 2 時間	ての目標を
進め方	7	実習希望調	査			自身のスケジュールを まとめておく。 2時間	実習希望調 せる。 2 時間	査を完成さ
	口		授業内 宏 準備学習 準備					i学習 容・時間)
	1 6	オリエンテーション ① 1年後期の振り返り ② 2年前期の「ボランティア実習」の計画・評価等について1年次の授業資料を 読みかえす。 2時間					する。	のまとめを
	1 7	特別支援学校への実習申込み 自身のスケジュール プロフィー 特別支援学校プロフィール記入 を整理しておく。 させる。						ールを完成
	1 8	車椅子の使(基本・応		習) 1		車椅子について調べ る。 2 時間	車椅子の打 点についる。 2 時間	操作の注意 てまとめ

	1		1	,			
	1 9	特別支援学校・社会福祉施設での実習の在 り方と日誌の書き方(実習を充実させるた めの「い・ろ・は」)	実習先への連絡との そのまとめをする。 2 時間	日誌の書き方のまと めをする。 2 時間			
	2 0	介護等体験の実習の心構え ~「社会福祉施設のてびき」~	実習先の概要を調べ ておく。 2 時間	実習に向けての心構 えをまとめる。 2 時間			
	2 1	自立について考える (理化学研究所の障がい者雇用のビデオか ら)	障がい者施設につい て復習をしておく。 2時間	授業内容をまとめ る。 2 時間			
授業内容 と 進め方	2 2	社会福祉施設の実習の準備 (事前オリエンテーション、検便、健康診 断、プロフィール(目標の設定))	自分のスケジュール を確認しておく。 2 時間	社会福祉施設のプロ フィールを完成させ る。 2 時間			
	2 3	今後の実習に向けての最終確認 評価対象レポート	実習のスケジュール と持参物の確認をす る。 2 時間	実習後に最終レポー トをまとめる。 2 時間			
		※介護等体験実習において、特別支援学校2日間、社会福祉施設に5日間実習に行く。 なお、実習の直前には学内の事前オリエンテーションを行う。実習先によっては事前 オリエンテーションが別日にある。					
成績割	严 価	課題・レポート (20%) 授業への取り組み (30%) その他 (50%)					
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法		課題レポートについては、授業内での返却が難しいため別の日に返却する。また 実習を通して各自が課題について確認する。					
テキストおよび 参 考 文 献		授業時に指示					
メッセージ な ど		教育や教師という言葉の持つ意味を少しでも深めることができるように日頃から抽象的な言葉の持つ意味を自分なりに考えていって欲しい。 小学校教諭二種免許状:必修科目					

	ルーフ	ブリック評価を	:用いた成績評	益価		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1)「介護等体験実習」 の意義と目的を理 解し、特別支援学校 と様々な社会福祉 施設について、事前 に調べることがで きる。	基礎的な知識をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違 いがなく、 基礎的な知 識を身に付 けている。	間違いないるいまではない。最近の最いないののではない。というでは、はいいのでは、は、はいいのでは、は、はいいのでは、	身に付けて いない。	授業への取り 組み (意欲・態 度・知識・ 思考力・ 現力)	15%
(2)「介護等体験実習」 に必要な書類の作成 や事前打ち合わせを 通して、社会人基礎 力を養うことができ る。	基礎的な知識をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違 いがなく、 基礎的な知 識を身に付 けている。	間違いはいるが、最いはある限の基礎をする。	身に付けて いない。	授組みの取りを設定を表す。では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般	15%

(3)「介護等体験実習」 を行い、多様な人と の交流を通し、一人 ひとりの尊厳を大 切にして関わるこ とができる。	基礎的な知 識をほぼ完 璧に身に付 けている。	大きな間違 いがなく、 基礎的な知 識を身に付 けている。	間違いはるが、最いはある限の基礎をはいる。	身に付けて いない。	その他 (関心・意 欲・態度・理 解)	50%
(4)「介護等体験実習」 を終えて、教師とし ての資質を高めるた めの自らの課題を明 確にすることができ る。	基礎的な知識をほぼ完璧に身に付けている。	大きな間違 いがなく、 基礎的な知 識を身に付 けている。	間違いはいるが、最適のはない。最近のはない。最近のははいいるでは、はいいではいいで	身に付けて いない。	課題・レポート (理解・思考 力・判断力・表 現力)	20%

				対象学	<u></u> 半科・専攻	ナンバリング	年 次	期別
Study of Pract	教育実習打 ical Teach School		nentary	· ·	教育学科 有学専攻	20EPTP1001	1 年次 2 年次	1年次後期 2年次前期
講義・演習・ 実習・実	実技・	単位数	卒 業	: 認 定		担当教員		
演習		1	逞	圣 択		廣修治		
ディプロマ・ ポ リ シ ー と の 関 係	ポリシー (3) 子ども理解に深い関心を持ち、誰とでも誠実にコミュニケーションをとることがで キステレ						0 0	
概要	指導主事 を通して	による「学習	指導」「個	生徒指導」	「人権教育」の	ることで、教壇に立つ準 講義や市内公立小学校 要な資質や能力の向上	における参	観実習など
到達目標	(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。 (2) 参観実習への参加、レポートや書類の提出、実習校との打ち合わせ等を通して、社会人として の基礎的な素養やマナー・礼儀を身に付けることができる。また、参観実習への参加を通し て、自分自身の課題を鑑みることができる。 (3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。						叩を通し	
	回		授	業内容				前学習 容・時間)
	1	オリエンテー	ーション	教育実習に向けての心構 えを考える。2時間	教育実習に向けての準備、 予定についてまとめる。2 時間			
	2	教育実習の意	意義と目的	および内容		教育実習の意義と目的お よび内容について資料を 読む。2時間	よび内容に る。2 時間	意義と目的お ついてまとめ
	3	教育実習の液	たれ これ			教育実習の流れについて 資料を読む。2時間	教育実習の? まとめる。2	流れについて、 : 時間
	4	授業づくり <i>の</i> 一学習指導-		ぶ①		学習指導についての資料 を読む。2時間		返りシートに をまとめる。2
	5	授業づくりの 一学習指導第				学習指導案づくりについ ての資料を読む。2時間	45 45 14 41 41	返りシートに をまとめる。2
授業内容 と 進め方	6	授業づくり <i>の</i> 一発問・資料	ш.,сс.,	-		前時までの講義を基に発 問、資料、板書の課題をま とめる。2時間		返りシートに をまとめる。2
(1年次後期)	7	小学校参観写 (参観実習	€習① 習の説明)	実習校		参観実習校の学校要覧を 読む。2 時間		の学校要覧に かる。2 時間
	8						付きや感想	内容および気 をまとめる。2
	9	小学校参観3 (授業参観	ミ習③ 規)実習校			参観実習の準備 (参観授業の資料)2時間		ての気付きや かる。2 時間
	1 0						ての気づきや かる。2 時間	
	1 1	子ども理解() (子ども <i>0</i>	D D発達と成	長)		子どもの発達と成長につ いて資料を読む。2時間	45 45 14 41 41	返りシートに 容をまとめる。
	1 2	子ども理解② 生徒指導について資料を 授業の振り返りシ 読む。2 時間 (生徒指導) 基づき、内容をまと 2 時間						

			準備学習	準備学習			
	口	授業内容	(予習内容・時間)	(復習内容・時間)			
授業内容	1 3	参観実習、学習指導、 子ども理解の振り返り	参観実習、学習指導、子ど も理解の資料の読み直し。 2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
進め方 (1年次後期)	1 4	実習校の教育方針や運営体制の調査 (まとめ)	実習校の概容についてま とめる。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
	1 5	実習校の教育方針や運営体制の発表と振り返り	発表資料をまとめ、発表練習をする。2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
	□	授業内容	準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)			
	1	オリエンテーション (15 回の授業の見通しおよび模擬授業の再確認)	15 回の授業の見通しを立 てる。2 時間	模擬授業の進め方などま とめる。2時間			
	2	模擬授業の説明と準備	模擬授業に向けての教科、 単元、本時を構想する。 2 時間	模擬授業に向けての教科、 単元、本時をきめて練習す る。2時間			
	3	模擬授業① (授業実践と協議)	模擬授業の準備。 (本時案・略案) (発問、資料等)2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2 時間			
	4	模擬授業② (授業実践と協議)	模擬授業の準備。 (本時案・略案) (発問、資料等)2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間。			
	5	模擬授業③ (授業実践と協議)	模擬授業の準備。 (本時案・略案) (発問、資料等)2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
	6	模擬授業④ (授業実践と協議)	模擬授業の準備。 (本時案・略案) (発問、資料等)2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
授業内容と	7	模擬授業⑤ (授業実践と協議)	模擬授業の準備。 (本時案・略案) (発問、資料等)2時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
進め方 (2年次前期)	8	小学校参観実習① (参観実習の説明)実習校	参観実習校の学校要覧を 読む。2 時間	参観実習校の学校要覧に ついてまとめる。2時間			
	9	小学校参観実習② (校長講話)実習校	参観実習校の概容につい て資料を読む。2時間	校長講話の内容および気 付きや感想をまとめる。 2時間			
	1 0	小学校参観実習③ (授業参観)実習校	参観実習の準備。 (参観授業の資料) 2時間	授業参観しての気付きや 感想をまとめる。2時間			
	1 1	小学校参観実習④ (授業参観)実習校	参観実習の準備。 (参観授業の資料) 2時間	授業参観しての気付きや 感想をまとめる。2時間			
	1 2	人権教育	人権教育について資料を 読む。 2 時間	授業の振り返りシートに 基づき、内容をまとめる。 2時間			
	1 3	参観実習と人権研修の振り返り	参観実習、人権教育の資料 の読み直し。2時間	せについて内容をまとめ る。2時間			
	1 4	実習日誌の書き方、 実習生プロフィールの作成	実習日誌の書き方について、確認する。 2時間	て、内容をまとめる。 2 時間			
	1 5	実習の健康管理、 教育実習の心構え	実習の健康管理と教育実 習の心構えについて、まと める。2時間				
成績評価		授業への取り組み(関心・意欲・態度・知識・理解)50% 課題・レポート(思考力・判断力・表現力、関心、意欲、態度)30% 模擬授業(思考力・判断力・表現力)20%					
課題 (試験・レポート 等) に対する フィードバックの方法		授業の振り返りシートに書かせた感想にコメントを書き、次の授業時に返す。 模擬授業、課題、レポートは、ルーブリック評価の結果を渡す。					
テキストおよび 参考文献		テキスト:「教育実習の研究」山口短期: 参考文献:文部科学省「小学校学習指導					
メッセ、	ー ジ ど	教育実習のための準備を行います。実 とも含みます。ひとつひとつ丁寧に積み し、教育に関わることの使命感と緊張感 小学校教諭二種免許状:必修科目	上げ、教育実習へ行	くことの意味を理解			

	ルーフ	ブリック評価を	対別に成績評	·····································		
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価 比率
(1) 教育実習の意義を理解し、使命感・緊張感をもって教壇に立てるようになる。	教壇に立つ 準備がほぼ できてい る。	基本的な準 備はできて いる。	最低限の準 備はできて いる。		授業への取り 組み (関心・意欲・ 態度、知識・理 解)	50%
(2) 参観実習への書類のの書類のの書類ので表述といる。 を表示を対して、実等をした。 を主要等をした。 を主要をした。 を主要をした。 を主要をはいる。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をでする。 をできるのからました。 をのからる。 をのからる。 をのからる。 をのからる。 をのからる。 をある。 といる。 をある。 といる。 をある。 といる。 といる。 といる。 をある。 といる。 と、 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 といる。 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、 と、	社てほきまの覚し力る人常確い、題、うと識立る。自を解とてといいで、のはいかのである。	大い基といまの覚る。は本はるたまで、気をでいまので、いいではあるのではある。	さをがのきまのかる。	最低がい。 はない。 は悪でいまの はない。 は悪でい。 はない。 はいない。 はいない。	課題、 レポポート (思考カナ・ 判明力、 関心・ 態度)	30%
(3) 模擬授業を経験することで、教育実習に臨む自分自身の課題を発見することができる。	様々な角度 から、調題を の課題握握 でいる。	いくつかの 角度から、 自己の課題 を把握して いる。	1つ以上自己の課題を把握している。	課題を把握 していな い。	模擬授業 (思考力・ 判断力・ 表現力)	20%

	授業科			対象学	科・専攻	ナンバリング	年 次	期別
	学校体験》 hool Inter				(育学専攻 教育学科	20EPTP1002	1年次	前期
講義・演習・ 実習・実		単位数	卒業	認定	担 当 教 員			
実習 1 1				選択		東和男		
ディプロマ・ ポ リ シ ー と の 関 係	(2) 各教 (3) 子ど きる (4) さま	科・道徳等に も理解に深い こと。	ざまな教育課題に対して、自ら学ぶ力やチームで取り組む協働性を身に付					
概 要	もに、美		る補助的	りな役割を	と担うことを	児童の姿や学校の環通して、児童の実態		
到達目標	につ (2) 学系 (3) 学系	ついて理解 吸担任の補 吸担任の役割	している 助的な役割と職務)。 と割を担う 8内容を実)ことができ ぼ地に即して	びにそれらを実施す る。 理解している。 児童と関わることが		組織体制
	口			業内容		準備学習 (予習内容・時間)	準備学習 (復習内容・時間)	
	1	オリエンテー 学校体験活動			東	学校体験活動について先 輩の報告書を読む。2 時間	学校体験活とめる。2時	動の概要をま 請問
	2	事前指導① 学校体験活	5動実施校	を知る	東	学校体験活動の心構えに ついてまとめる。2時間 覧をまとめる。2時間		
	3	事前指導② 学校体験活 (プロフィ 東	5動にむけ イール作成			プロフィール作成に向け て必要事項を確認する。2 時間		ルを完成させ
授業内容	4	事前指導③ 学校体験活 (心構え、 東		ての準備 記録など)		学校体験活動の目標についてまとめる。2時間	学校体験活を準備する。	
進め方	5	事後指導 学校体験活	舌動の報告	会	東	学校体験活動の報告書を 作成する。2 時間	学校体験活 をする。2 時	動の振り返り
	6 7 8 9 10 11 12 13 14	※ 授業の日程は提示します ※ 実習時期 基本的に1年次の9月に小学校での体験活動(5日間)						
事前指導の取り組み(関心・意欲・態度、知識・理解) 25%、 成績 評価 訪問指導・体験活動日誌・事後の報告会(知識・理解、思考力・判断力・ 75%				・表現力)				
課題 (試験・ 等) に対っ フィードバック	する					、指導教官からの気で 言を実施する。	づき、体験	活動日誌、

テキストおよび 参 考 文 献	授業時に指示
メッセージ な ど	教師となるための貴重な体験の場。事前・観察・補助的な役割・考察・事後・継続する研修と、積極的な学びを目指しましょう。 実際に小学校で先生の仕事を体験するために準備をしっかりしましょう。 小学校教諭二種免許状:必修科目

ルーブリック評価を用いた成績評価						
到達目標	優	良	可	不可	評価手段	評価比率
(1)小学校の運営方法及 び特色ある教育活動 並びにそれらを実施 するための組織体制 について理解してい る。	事内てまどて解ま言るき前容、と整おをた葉こる。得つ料るを、め分述がのいになし理、のべでのいになし理、のべで	事理をに言るきずのなし述がであり、べで	事内では 事的では 事的で 事的で 事がで まで まで まで はで でい のい 助な解	事前指導の 内容につい て理解で ていない。	事前指導の取 り組み (関心・意欲・ 態度、知識・理 解)	25%
(2)学級担任の補助的な 役割を担うことがで きる。	小級標の子把に助を担で学担や児を握応的積うき校任そ童十しじな極こる・ののの分、た役的と。学目場様に場補割にが	小級標の子握応的担み学担や児をしじなうら校任そ童概、た役姿れ・のののね場補割勢る。学目場様把に助をが	小級標の子よい最さをが学担や児をうる低れ担でやのの握しま指役こる。学目場様してた示割と	小級標の子きた示割とい学担や児をな最さをが。やのの握。限たうきでのの握。限たうき	報告会、日誌 (思考力・ 判断力・ 表現力)	25%
(3)学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解している。	学役内に分し内の理すで殺割容即に、容言しるき担とをして実を葉、こるの務地十解の分整表がの務地十解の分整表が	学役内てし内の理すで報割容概、容言しるき担とにね実を葉、こる。の務い解の分整表がの務い解の分整表が	学役内程し内の理すでというでででででででででででででででででででである。のでは、では、このででででででである。ののでは、ののでのでである。	学役内でい地整体すで担とをてたの理的るきま内しにこなの理的るきのの理的るきののののののののののののののののののののののののののののの	報告会、日誌 (知識・理解、 思考力・ 判断力・ 表現力)	25%
(4) 教科指導以外の様々 な活動の場面で適切 に児童と関わること ができる。	教外活で役に積童こる。料の動の割把極とと。以な面の分、児るき以な面の分、児るき	教外活で役把極と勢る指様の教をしにわみりはこれのようでの関係が関が、別ののはないののは、別のののは、別ののののは、別ののののは、別のののは、別のののは、別ののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別のののは、別ののののは、別ののののは、別ののののは、別ののののは、別ののののは、別ののののは、別ののののでは、別のののののでは、別ののののでは、別のののののでは、別のののののでは、別のののでは、別のののののでは、別ののののでは、別のののでは、別のののでは、別ののののでは、別ののののでは、別ののののでは、別ののののでは、別ののののでは、別のののでは、別のののでは、別のののでは、別のののでは、別のののでは、別のののでは、別のののでは、別ののでは、別のののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別ののでは、別のでは、別	教外活で役て言がと勢る、特様の教に導受、わみり間でもいりである。	教外活で役でいらわで料の動の割き。児るき増々場員把いたととい。となるをはないのはなりであるが、	報告会、日誌 (思考力・ 判断力・ 表現力)	25%